

II. 景気の先行きに対する判断理由

景気の先行きに対する判断の理由について、その主だったもの及び特徴的と考えられるものを取りまとめると以下のとおりであった。

1. 北海道（地域別調査機関：株式会社北海道二十一世紀総合研究所）

（-：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連 (北海道)		高級レストラン（スタッフ）	・夏休みやお盆を迎えて、帰省客を含めた観光客が増加すると見込まれることから、当店の観光客利用も増加することになる。
		一般小売店〔土産〕（経営者）	・雨の日が少ないなど、天候に恵まれたことから、外国人観光客を中心に、来客数が増加している。最近では外国人観光客の増加が目立っており、特に東南アジアなどからの旅行者は購買力が強いことから、今後の景気はやや良くなる。この先、アジアが世界を引っ張っていく時代が来るのではないかと考えるほどである。
		衣料品専門店（エリア担当）	・今年の夏は、全国的に気温が高めの予報が出ていることから、暑さをしのぐための冷感商品や節電グッズの需要が増えると見込まれる。
		家電量販店（経営者）	・エアコンを中心とした季節商材の売行きが好調なことから、今後の景気はやや良くなる。ただし、売上の増加幅は前年を下回るペースにとどまっている。
		自動車備品販売店（店長）	・洗車用品、車内用品、サービス部門の好調な動きが、今後も続くことになれば、景気はやや良くなる。ただし、物価高の動向によっては、状況が一変することも懸念される。
		高級レストラン（スタッフ）	・イベントの開催や新規大型店のオープンが予定されていることから、今後、人の動きが増えることを期待している。
		旅行代理店（従業員）	・今後については、夏の観光繁忙期を迎えて、国内及び海外からの観光客が増加すると期待している。ただし、SNS上で7月に日本で災害が起きるといった情報が出回っていることで、国際線利用者の伸びが鈍化する傾向がみられていることが気掛かりである。
		旅行代理店（従業員）	・例年の傾向から、これから客の動きが活発になってくると期待している。実際、来客数が徐々に増えてきている。
		タクシー運転手	・気温が高くなると、タクシーの利用客が増えてくる傾向があるため、これから夏を迎えてタクシー1台当たりの売上が増えると期待している。乗務員も順調に採用できていることから、会社の売上も前年と比べて大幅に増加することを期待している。
		その他サービスの動向を把握できる者〔フェリー〕（従業員）	・宿泊施設から、既にキャンセル待ちが多くみられているとの情報があるため、今後、観光シーズンのピークに合わせて、輸送量が一層増えると見込まれる。
		商店街（代表者）	・今後については、農業従事者を始めとして、周辺自治体からの来街者が増加する時期となる。ただし、最近の来街者の動向から、大幅な売上アップまでは期待できない。
		一般小売店〔酒〕（経営者）	・最近の売上や取引先の状況から、景気が上向くような気配がうかがえない。こうした状況はしばらく続くことになる。
		百貨店（売場主任）	・先行き不透明感が強いこともあって、景気が好転するような材料に乏しい。
		スーパー（店長）	・米国の関税施策や中東紛争の影響により、先行きが不透明になっていることから、現在の景気が大きく変わることは考えにくい。
	スーパー（企画担当）	・客の購買行動に大きな変化はみられない。政府が検討している給付金も年末頃の支給になると見込まれるため、消費に回るのはしばらく先になる。今後については、米の価格動向、農作物の収穫状況次第の面がある。	
	コンビニ（エリア担当）	・し好品を中心に客の買い控えがみられることで、来客数が前年を下回っている。値頃感を出していくことで、来客数の回復に取り組んでいるものの、現状大きな成果は出ていないことから、今後も横ばいでの推移となる。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		コンビニ（エリア担当）	・乗客数が減少傾向で推移しているものの、長期予報によると、例年よりも気温が高くなると見込まれているため、飲料やアイスなどの夏物商材がよく売れるようになると期待している。
		コンビニ（エリア担当）	・備蓄米を始め、より安い商品を買求める客が多いことから、家計の厳しさがうかがえる。今後もこうした状況は続くことになる。
		コンビニ（エリア担当）	・6月の動きがかなり良かったため、景気が今以上に上向くことは考えにくい。一方、今年も暑い夏が見込まれていることはプラスであり、景気が下向くことも考えにくい。
		衣料品専門店（経営者）	・国の経済対策について、効果的な対策が行われるような様子もないため、今後も景気は変わらない。
		家電量販店（店員）	・気温の上昇とともに、夏物商材と冷蔵庫の動きが良くなっている。一方、エアコンの販売台数は、前年を下回っている。これらのことから、今後の景気は横ばいで推移することになる。
		乗用車販売店（経営者）	・これからモデルチェンジする車種が増えてくるため、今後も堅調に推移することになる。中古車も安定した販売状況が続くと見込まれる。
		乗用車販売店（経営者）	・新型車が、2025年下期から2026年初頭までに随時発売される予定となっている。それまでの期間は、現行モデルの販売となるため、厳しい状況が見込まれる。
		乗用車販売店（従業員）	・軽自動車を対象とした低金利キャンペーンが終了することもあるとあって、今後の販売量が伸びるとは言い切れない面があるものの、他の施策でカバーできると見込んでいる。ただし、夏休み期間を控え、客の金の使い先が変わってくることで、今より厳しくなることも懸念される。現状の景気は決して悪くないため、スタッフの頑張りによって現状を維持できると期待している。
		乗用車販売店（従業員）	・新型車投入の予定はあるものの、台数制限があるため、今後の状況が大きく変化することはない。
		乗用車販売店（従業員）	・メーカーにおける新車の生産台数は徐々に回復してきたものの、価格改定や新型車の発表がないことから、景気が良くなる要因が見当たらない。
		住関連専門店（役員）	・様々な商品が値上がりしていることで、客の節約志向が根強く、今以上に景気が良くなるとは考えにくい。
		その他専門店〔造花〕（店長）	・前年の傾向を踏まえると、季節の変わり目での商品入替は余り期待できない。こうした動きも、物価高の影響が出ているためとみられる。
		旅行代理店（従業員）	・今後については、猛暑が予想されていることに加え、参議院選挙の影響で法人の団体旅行の動きが止まるとみられることから、現状と同様の景気の良くない状況が続くことになる。
		旅行代理店（従業員）	・例年であれば、翌年の上半期の旅行について、大型案件を中心に、数件の見積依頼が出てくる時期であるが、今のところ、そうした動きは余りみられない。そのため、今後の景気は変わらないまま推移する。
		タクシー運転手	・イベント関係の予約状況が前年並みであること、観光客の問合せ状況に変化がみられないことから、今後も景気は変わらないまま推移する。
		タクシー運転手	・今後も、地域イベントの開催予定があるものの、これまでの状況から、イベント開催による効果は余り期待できない。
		住宅販売会社（経営者）	・物価高が続くなか、人件費の高騰や金利の上昇も続くこととみられるため、今後も厳しい状況は変わらない。
		住宅販売会社（従業員）	・地価の高騰、建築費の高止まり、住宅ローン金利の上昇の影響で、消費者の購入マインドが低下している。そのため、今後も景気は変わらない。
		商店街（代表者）	・今後の景気を上向かせるためには、消費税減税や現金給付のような、国民の手取りを増やすような政策が必要である。
		商店街（代表者）	・米国の経済に対する懸念がみられるようになってきていることから、世界各国にその影響が生じている。このような状態が続けば、景気はますます悪くなる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		商店街（代表者）	・7月5日に地震が起こるといふ予言の影響で、外国人観光客が徐々に減少している。特に東南アジア圏での影響が大きく、7月には計りしれない影響が生じる懸念がある。また、参議院選挙を控えて、地元を離れることができない人が増えることも、観光には大打撃となる。
		一般小売店〔土産〕（経営者）	・夏の観光シーズンを迎えて、観光客が増えることを期待している。ただし、今年は大阪・関西万博の影響で、関西方面に出掛ける人が増えることが懸念される。海外に出掛ける人も若干増えるとみられるため、良くて前年並みの来客数になると見込まれる。また、物価高が続いていることから、客単価の上昇は考えにくい。
		一般小売店（経営者）	・参議院選挙が予定されているため、景気が良くなるとは考えにくい。
		百貨店（販売促進担当）	・国内物価の上昇に加え、世界情勢の先行き不安感も強まっていることから、消費マインドが低下し始めている。来店客の様子や買上単価の動向からも、先行きに対する不安感が強まっていることがうかがえる。
		スーパー（店長）	・国の物価高対策がどうなるかはっきりとしていないため、しばらくは今の景気の悪い状態が続くことになる。
		スーパー（店長）	・国内情勢が不安定なため、今後の景気はやや悪くなる。
		スーパー（企画担当）	・一部の葉物野菜では、相場価格の低下がみられるものの、主食の米を中心に、価格高騰がなかなか収まらないことから、消費者の財布のひもは固いままである。買上点数も伸び悩んでいる。
		スーパー（役員）	・猛暑や雨不足の影響で、農作物の生育状況が悪いことから、価格が上昇し始めている。そのため、今後、客の節約志向に拍車がかかることが懸念される。
		乗用車販売店（従業員）	・米国の関税施策の先行きが不透明なことから、今後の景気はやや悪くなる。
		その他専門店〔ガソリンスタンド〕（経営者）	・中東情勢の影響で原油価格が高騰していることから、先行きは不透明である。
		高級レストラン（スタッフ）	・当店には余り来店しないが、外国人観光客の客単価が低下しているとの話を他業種から聞くことが増えている。そのため、この先も円安傾向が続いたとしても、飲食店、特に高級店の来客数が減少傾向に転じる懸念がある。これまでは外国人観光客の消費額の大きさが、飲食店の経営面に好影響を与え、食材などの原価高をカバーしていたことから、外国人観光客が減少してくることにすれば、厳しさが増すことになる。
		観光型ホテル（経営者）	・物価高、大阪・関西万博の開催、7月に起こるとされている地震の風評被害、参議院選挙など、今夏シーズンの北海道観光にとってのマイナス要素が多くあることから、今後の落ち込みが懸念される。
		観光型ホテル（スタッフ）	・物価高の影響で、日本人の宿泊需要が停滞気味なことから、今後の景気はやや悪くなる。
		旅行代理店（従業員）	・物価高が続いていることから、趣味に当たる旅行市場の縮小が懸念される。ホテルの需要も、インバウンドの動向によって変わってくるため、先行き不透明感は否めない。
		通信会社（企画担当）	・販売面において、本社による統制が強くなっていることから、施策の自由度が低下し、きめ細やかなケアができなくなっている。そのため、売上の維持が困難になりつつある。
		観光名所（従業員）	・当施設では、インバウンドが集客の主力となっており、そのなかでも台湾、香港は利用者の中核を占めている。一方、台湾や香港を中心に、来日を控える動きが強まっており、キャンセルも多く出ている。7月が過ぎたからといって、すぐに訪日することも考えにくい。しばらくは様子見のような動きが続くと見込まれる。こうした動きが落ち着くまで、我慢の時期になると考えている。
		美容室（経営者）	・最近、値上げが頻繁に行われていることもあって、客が今まで以上に支出に対して敏感になっている。そのため、今後の売上は、関連商材を中心に、厳しさが増すことになる。
		美容室（経営者）	・6月は好調であったが、その要因がよく分からない。そのため、このまま好調な売上が続くとは考えにくい。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		美容室（経営者）	・賃上げの動きも進んでいるが、今後の景気を上向かせるには、賃上げよりも減税が必要である。
	×	スーパー（店長）	・あらゆる物の価格が上がっていることから、先行きが不透明になっている、安くなっている物は何もなく、国民負担率も高いことから、今後、金の使い方が渋くなることが懸念される。
	×	衣料品専門店（店長）	・必要な物は買うが、し好みやおしゃれに掛ける金は安く済ませたいと考える客が増えており、販売側の考え方とのかい離が大きくなってきている。そのため、今後、深刻な状況になると危機感を持っている。今年は商品を買わなくて良いと考えるようになれば、来年も買わなくなることが懸念される。
	×	タクシー運転手	・これまでの傾向から、選挙を控えると、夜の繁華街の出入が減少することになるため、今後の景気は悪くなる。
企業 動向 関連 (北海道)		食料品製造業（従業員）	・6月よりも観光需要の高まる時期であるため、今後の景気は良くなる。
		食料品製造業（従業員）	・4月に価格改定した後も、販売量は減少することなく、前年を上回って推移している。また、通信販売を伸ばすべく、新たな販売促進を企画していることから、今後の販売量は増加することになる。
		家具製造業（経営者）	・米国の関税の影響が落ち着き、株価が上昇することで、景気が良くなることを期待している。
		金融業（従業員）	・米国とイランの関係が悪化しないことが前提であるが、輸入物価の低下が企業物価に波及し、消費者物価の上昇幅が抑制されることを期待している。そうなれば、実質賃金のマイナス傾向も改善され、消費者マインドが上向くと期待できる。また、2025年産米が市場に出回ること、米の在庫価格が低下し、食品の価格上昇が抑制されることも期待している。ただし、米国の関税政策の動向は、今後に向けての懸念材料である。
		その他サービス業〔建設機械リース〕（営業担当）	・人手不足問題、米国の関税施策などの懸念事項はあるものの、国内の建設投資は、引き続き堅調に推移すると見込まれることから、今後の景気はやや良くなる。
		食料品製造業（従業員）	・今のところ、景気が良くなるような案件も、悪くなるような案件も見当たらないことから、今後も景気は変わらない。
		建設業（経営者）	・今後については、新規の受注が減少することになる。また、9月頃からは、一部で人手不足が強まることが懸念される。一方、参議院選挙、米国の関税施策、中東情勢などの不確定要素が多いことから、先行きの判断には難しい面がある。
		建設業（従業員）	・現在の景気については、人材不足による影響が大きくなっている。ただし、人材不足の状況は、すぐに変わるものではないため、今後の景気が大きく変わることはない。
		建設業（役員）	・当面は、現場配置可能な技術職員のフル稼働が続き、年度前半にかけて、好調に推移することが見込まれる。一方、参議院選挙や中東情勢、米国の関税施策など、景気動向を左右するような要因も多く、これらの動向によっては、建設投資が落ち込むことも懸念される。
		輸送業（支店長）	・荷動きはまずまずだが、荷主との値上げ交渉や人材不足はすぐに解決する問題ではないことから、今後も同じような状況が続くことになる。
		広告代理店（従業員）	・地政学的リスクが高まっていることもあって、明るい未来を想像しにくくなっている。一方、日本と米国の金融政策を見ると、日米の金利差が縮小し、住宅ローン金利が上昇することが懸念される。金利上昇によるリスクをカバーできるような、好景気になることは考えにくいいため、今後も景気は変わらない。
	司法書士	・不動産登記の受注量は横ばいで推移しているものの、物価の高騰が続いているため、景気が良くなるとはいえない状況にある。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		通信業（営業担当）	・データセンターや半導体企業の誘致、DX、GXなど、北海道における将来の投資を誘発するような複数の動きがみられるものの、期待が先行している状況である。そのため、北海道経済をけん引するような状況とはなっておらず、一部の関連企業だけが恩恵を受けるにとどまっている。現状のインバウンド頼りの状況では、物価高を背景とした、節約意識の高まりや企業のコスト重視経営によるマイナスの影響が大きくなり、景況感を下押しすることになる。
		その他サービス業〔ソフトウェア開発〕（経営者）	・米国の関税問題が出てきてから、周りの自動車関連のシステム開発を行っている会社で、案件を失注する動きが出始めている。
		その他非製造業〔鋼材卸売〕（従業員）	・上期及び下期の市場予測をみると、当初は秋口から仕事量が増える見込みであったが、現在は年明けから工事が始まる予測となっており、徐々に遅れが生じている。大型案件の工事については、受注内容の精査も必要となるため、市場の動きはますます鈍化することが懸念される。
	×	農林水産業（経営者）	・6月とは思えないほど暑いことから、作物の生育状況に影響が生じることが懸念される。
	×	司法書士	・電気、ガソリン、食品などの価格が下がらない限り、景気が上向くことは考えにくい。一方、国の施策をみると、増税や社会保障費の増額など、自由に使える金が減るようなものが多い。景気を上向かせるためには、これまでとは方針を変えることが必要である。
雇用 関連 (北海道)		-	-
		求人情報誌製作会社（編集者）	・世界情勢の不安定さが増しているなか、求人件数を増やす業界も少しずつみられるようになってきた。もう少し先行きが見通せるようになれば、景気が良くなると期待している。
		人材派遣会社（社員）	・今後も、求人数と求職登録者数は増加傾向で推移すると見込まれる。こうした動きがあるうちは、景気は停滞しないとみられる。
		求人情報誌製作会社（編集者）	・長期予報によると、今夏は猛暑になるとみられていることから、夏物商材の売行きには追い風となる。一方、米国の関税施策など、諸外国の動向による影響も依然として残っており、先行き不透明感が拭い切れないことがマイナスとなっている。
		職業安定所（職員）	・新規求人数は減少が続いているものの、特殊要因によるものであり、求人数の減少が景気の悪化に直結しているとはいえない状況にある。
		職業安定所（職員）	・当地の5月の新規求人数は前年比マイナス3.4%となり、2か月連続での減少となった。一方、月間有効求人数は26か月連続で前年を下回っている。産業や業種によってその度合いは異なっているものの、今後の物価上昇の状況によっては、経済活動、消費行動が先を見通せない状態となることが懸念される。
		職業安定所（職員）	・参議院選挙の結果次第ではあるが、今後、給付金の支給又は減税が行われるとみられることから、多少は景気を刺激することになる。ただし、景気を上向かせるほどの効果までは期待できない。
		職業安定所（職員）	・景気変動するような要素が見当たらない。
		学校〔大学〕（就職担当）	・企業の採用活動をみると、業種間で温度差がみられつつある。ただし、全体的な雇用環境は、今後も改善傾向で推移すると見込まれる。
		求人情報誌製作会社（編集者）	・中東情勢の影響により、原油価格がますます高騰し、物価高に拍車がかかることが懸念される。そのため、今後の景気はやや悪くなる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	x	*	*

2. 東北（地域別調査機関：公益財団法人東北活性化研究センター）

（-：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連 (東北)		テーマパーク（職員）	・当施設はおおむね屋内で天候に左右されないため、夏休みには子供や孫を連れたファミリー層が多く訪れることが見込まれる。
		商店街（代表者）	・夏祭りやお盆休みがあるため、人出が見込まれる。
		一般小売店〔酒〕（経営者）	・夏祭りやお盆があるため、販売量は増加するとみている。
		一般小売店〔医薬品〕（経営者）	・暑い日が続くといろいろな症状が出てくる人が多くなり、来客数は増加する。セールも予定しているため、今月よりも良くなるとみている。
		コンビニ（エリア担当）	・キャンペーン等も実施しているため、売上、来客数は増加が見込まれる。ただし、キャンペーンによる上乗せ分のみで、景気回復とまではいかないとみている。
		コンビニ（エリア担当）	・気温上昇により、来客数は更に増えると思われている。
		家電量販店（従業員）	・7月中旬以降に気温が高くなりエアコンが拡大販売されると、取付工事が一時期に集中する可能性がある。前倒しで販売できれば工事が集中することもないため、早めに暑くなることを期待したい。
		乗用車販売店（従業員）	・現在はオーダーをストップしている車種が多すぎて出せる車が少なく、今後は徐々に再開するため、少しずつ良くなっていくとみている。
		乗用車販売店（従業員）	・決算時期を迎える。
		一般レストラン（経営者）	・暑くなり、人が外出する機会が多くなる。
		観光型ホテル（スタッフ）	・7月後半から始まる夏休みに期待している。
		都市型ホテル（支配人）	・夏シーズンのレジャー客やインバウンドの先行予約が好調である。
		都市型ホテル（スタッフ）	・夏祭りやイベントが多くなるため、やや良くなるとみている。
		旅行代理店（従業員）	・当社契約宿泊施設のこの先3か月の先行販売額は、今月までの販売額と比較して5%程度良い。
		旅行代理店（従業員）	・インバウンドが多いため期待が持てる。
		観光名所（職員）	・例年だと今の時期に2～3か月先の予約が埋まることはないが、今年は既に予約が多くなっている。
		美容室（経営者）	・参議院選挙の公約で各党が景気対策を打ち出しているため、僅かでもその効果が出るとみている。
		美容室（経営者）	・客からは、米が買えるようになったことや電気料金の値下げを喜ぶ声を聞く。節約志向が弱まることを期待したい。理美容業においては、暑くなると来店頻度が高まり、涼しいヘッドスパなどを注文する客も増えるため、来客数や客単価がアップするとみている。
		商店街（代表者）	・祭りやイベントが予定されているため人出が見込まれる。しかし、景気回復が遅れているため、消費低迷が続くとみている。
		一般小売店〔酒〕（経営者）	・お中元の時期になり売上は良くなるが、景気の先行きが不透明で、良くなる要素も見つからない。また、米の価格上昇により、米を原料とする日本酒も値上げが相次いでいる。今後の酒造りにも大きな影響が出るとみている。
	一般小売店〔寝具〕（経営者）	・物価が落ち着かない限り変わらない。	
	百貨店（企画担当）	・来客数は街でイベントがあるときは増えるが、買上客数、客単価はいずれもマイナス傾向にある。特に衣料品の動きが鈍い。	
	百貨店（経営者）	・客の高齢化や食料品価格の上昇に加え、円高傾向が間接的に影響し、売上の減少はしばらく続くとみている。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		百貨店（催事担当）	・足元の消費は依然として停滞感があり、大きく伸びる要素が見当たらない。
		百貨店（従業員）	・物価高の改善は見込めないため、消費者の節約志向や生活防衛意識が高い状況は続く。よって、購買行動も変わらず、売上や販売点数も低位で推移するとみている。
		スーパー（経営者）	・ボーナス支給期だが、経費増加の負担は重く、業績給の側面が強い小売では手取り賃金の伸びは期待できない。お中元ギフト需要も年々低下している。公共事業の執行や6月後半の株価上昇により、一部の消費に良い影響は期待されるが、全体として消費の傾向は変わらないとみている。
		スーパー（店長）	・このまま気温上昇が続けば、購買意欲が増えて、季節商材で売上を維持していけるとみている。
		スーパー（店長）	・エネルギー価格を始め物価の上昇が収まらず、客が無駄遣いを避ける傾向にある。景気は良くて現状維持である。
		スーパー（店長）	・単価が上がる要素が少ない。
		スーパー（企画担当）	・商品価格が上がっても買上点数が減少すれば売上は上がらない。むしろ、特売構成比が上がり利益が減少することを懸念している。
		スーパー（商品担当）	・9月末に出荷される新米の相場が食品消費の動向に影響するとみている。消費支出の動向には不透明感があり、景気が上向くか下向くかは判断がつかない。
		スーパー（業務担当）	・身の回りの景気が急激に良くなる状況にはない。
		スーパー（店舗運営）	・競合環境が大きく変わることはないとみている。
		コンビニ（経営者）	・来客数は増加傾向にあるが、ここに来て買上点数が横ばいになっている。商品の値上げにより客単価は上昇しているが、来月も値上げ予定の商品が多数あるため、上昇の勢いは鈍化するとみている。
		コンビニ（経営者）	・気温が高くなり、晴れの日が多くなれば売上は良くなるが、雨が降れば落ちる。天候次第である。
		コンビニ（経営者）	・これから気温が上がってくるため、良くなることを期待している。天候次第である。
		コンビニ（経営者）	・今月は本部施策の効果により売上が増加しているが、今後も続くかは分からない。
		コンビニ（経営者）	・夏なので売上は上がるが、利益に結びつくかは微妙である。人手不足のなかで提供するサービスが増え続け、人的負担と経営的負担が増している。本部は売上が1番なのは分かるが、このままだと本当に経営ができなくなる。
		コンビニ（経営者）	・来客数が増加しないため、景気は変わらない。
		コンビニ（エリア担当）	・気温や立地による売上の上下はあるが、外的環境は変わらないとみている。
		コンビニ（店長）	・良くなる兆しが全くない。
		衣料品専門店（経営者）	・お中元商戦では、ダイレクトメールの配布や訪問による受注獲得に期待している。
		衣料品専門店（店長）	・物価上昇に連動してボーナス支給や賃上げなどの動きが出てくることに期待したいが、現状では大きく変わらないとみている。
		衣料品専門店（店長）	・天候の影響が大きいので、猛暑が続けば半袖シャツの需要で売上が増加する可能性は高い。しかし、景気は決して良くない。
		衣料品専門店（総務担当）	・夏のボーナスが支給されているが、客の購買にはつながっていない。物価高対策が具体的に示されないまま、消費の低迷は続くともみている。
		乗用車販売店（従業員）	・新車の生産台数が不安定で発注に制限が掛かっているため、需要のある車種を特定して多く仕入れることができない。納期の問題で年内に入庫予定がない車種もあり、厳しい状況はしばらく続くともみている。
		乗用車販売店（従業員）	・登録されなければ売上にならない。納期が極端に早まらない限りは変わらない。
		乗用車販売店（店長）	・新車、中古車共に販売はある程度回復している。しかし、客はそれ以外の費用を最小限に抑えている。その傾向はしばらく続くともみている。
		住関連専門店（インテリアコーディネーター）	・天候不順や物価高、ガソリン価格の上昇など不安要素がある。国内外いずれをみても景気が良くなる材料が見当たらない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		その他専門店〔靴〕（経営者）	・物価上昇も続いており、景気が良くなる要素が見当たらない。
		その他専門店〔ガソリンスタンド〕（営業担当）	・梅雨だが暑い日が多く、例年の同じ時期と比べ配達灯油の販売が落ち込んでいる。梅雨が明ければ更に減少するとみている。
		その他小売〔ショッピングセンター〕（統括）	・賃上げの影響はみられない。食品などの物価上昇により消費者の節約志向が強まっている。国際情勢等からもこれらが続くともみている。米は取扱店舗が少ないため、影響は限定的である。インバウンド関連では、7月から台湾・高雄との直行便が新規就航するため来客数の更なる増加が期待できる。ただし、免税売上は現状1割未満のため、今後は対応力を強化していく。
		高級レストラン（支配人）	・特定の層に特化している店舗のため一般化していない。対象を広げることも経営判断の1つの選択肢である。
		一般レストラン（経営者）	・節約しながら生活し、買物にも慎重になっているという話を周りの人たちからよく聞く。物価高も続いており、消費者の財布のひもが固い状況は変わらない。
		観光型ホテル（スタッフ）	・特に変わる要因がない。
		観光型旅館（スタッフ）	・夏休み期間に入るため今月より良くなる。しかし、更に伸びる要素はないため、例年と変わらない見込みである。
		旅行代理店（従業員）	・猛暑の予報が出てきたため、先行受注状況や予約に関する問合せ等に余り動きがない。今後も余り変わらないとみている。
		タクシー運転手	・夏休み期間に入ると、旅行や観光で当地を訪れる人の利用増加が見込まれる。
		タクシー運転手	・2～3か月後は夏休み期間中であり、夏祭りやコンサートなどが多数開催され、帰省客も多くなることから、利用者数の増加が予想される。
		通信会社（経営者）	・今後は地域の夏祭りなどビッグコンテンツの放送が続くが、ネット配信でも視聴が可能であるため、放送サービスの加入者数増加は余り期待できない。一方、インターネットサービスは夏休みに向けて学生を中心に利用者が増えるため、加入者数の増加が期待できる。
		通信会社（営業担当）	・好転する材料に乏しい。
		通信会社（営業担当）	・当面、物価高は続くともみている。
		通信会社（社会貢献担当）	・来客数はこのまま増加傾向を維持するとみている。
		観光名所（職員）	・予約数等は前年を下回る状況が続いているものの、客単価はここ数か月、伸びが続いている。どちらに振れるかの判断が難しい。
		遊園地（経営者）	・物価上昇が続いていることに加え、国際情勢や原油動向も見通しが立たない。好転する要素が少ない。
		競艇場（職員）	・来月以降も現在の売上を維持できるとみている。
		その他サービス〔寮管理〕（管理人）	・異常気象による農水産物の供給不安もある。景気は変わらない。
		住宅販売会社（経営者）	・木造住宅の受注が低迷するなか、賃貸用鉄筋コンクリート造のマンションの受注は好調に推移するとみている。
		その他住宅〔リフォーム〕（従業員）	・住宅設備機器は、エアコン交換の問合せが増えるともみている。リフォームは、補助金制度を活用する工事の問合せが増えるともみている。
		商店街（代表者）	・商店街に残るのは飲食店くらいであり、地元で買物すらできない。
		商店街（代表者）	・インバウンドの消費低迷が続いている。
		一般小売店〔医薬品〕（経営者）	・2～3か月先には選挙が実施される。毎年のことだが、選挙があると街の景気は悪くなる。
		一般小売店〔茶〕（経営者）	・円安や物価高が続くなか、賃金は上がらず、売上や利益も増える兆しがみえない。地方では、インバウンドの増加により観光地にはぎわっているが、局所的である。それ以外の地域では景気が良くなる材料がない。
		一般小売店〔スポーツ用品〕（店員）	・暑さが本格的になるため、例年7～8月は来客数が減少する。また、ゴルフクラブやボールなどの商品が値上がりするため、販売に影響があるとみている。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		一般小売店〔書籍〕 (営業担当)	・物価高に対する対応が後手に回っていることに加え、参議院選挙の結果次第では政権がより不安定になる。
		コンビニ(経営者)	・人口の減少や1品単価の微増が改善する見込みはないため変わらない。
		衣料品専門店(経営者)	・残暑が続いても夏物は売れない。秋物もまだ本格的に動き出す時期ではない。
		衣料品専門店(経営者)	・クリアランスセールがスタートするが、節約ムードの高まりにより購買客数の増加は期待できない。
		衣料品専門店(店長)	・スーツ離れがどこまで進むかが見通せず、不安である。
		家電量販店(従業員)	・米国の関税政策や国際情勢の影響でガソリン価格が高くなり、景気が悪くなることを懸念している。
		乗用車販売店(従業員)	・3～4か月前と比べて新車の販売は落ち込んでいるが、中古車が良くなっていることから、景気はやや悪くなるとみている。
		住関連専門店(経営者)	・特別注文家具を製作しており、2～3か月先の販売量は決まっているが、これ以上増える見込みがないため、今月より悪くなる。
		その他専門店〔酒〕 (経営者)	・一般消費者は物価高に慣れてしまっており、販売店としては厳しい状況が続く見通しである。
		その他専門店〔ガソリンスタンド〕(営業担当)	・中東情勢の悪化により原油価格が乱高下しており、今後の見通しが立たない。
		一般レストラン(経営者)	・8月はお盆もあり休みが多くなるため、やや悪くなるとみている。
		観光型旅館(経営者)	・米騒動や物価高などが落ち着くまでは、支出の引締めは続くともみている。
		旅行代理店(従業員)	・好況企業や富裕層の動きはあるものの、先行きは不透明である。
		美容室(経営者)	・高齢の客が多く、施設への入居等により来店できなくなる客が出てきている。
		その他サービス〔自動車整備業〕(経営者)	・初夏から8月後半までの需要期に、どれくらい売上が増えるかが鍵を握るが、厳しいと予想をしている。
		設計事務所(経営者)	・物価は高騰しているが、低価格での受注が多くみられる。
		その他住宅〔住宅展示場運営会社〕(従業員)	・生活必需品の値上げや資材価格の高騰が影響している。景気は悪くなるとみている。
	×	商店街(代表者)	・来客数と予約数はかなり少ない。周りには低単価の飲食店ばかりが増えている。客単価の高い店はかなり厳しい状況である。
	×	一般小売店〔医薬品〕 (経営者)	・中東情勢の悪化により世界的な原油供給リスクが生じている。原油価格が上がれば、更なる物価上昇も予想される。
	×	スーパー(経営者)	・参議院選挙があるため、各党の選挙活動によって景気の先行きに対する不安が増せば、節約志向はより高まる。
	×	その他専門店〔白衣・ユニフォーム〕(経営者)	・夏に向けての需要が読めない。マーケット自体が冷え込んでいることに加え、ネットで購入することが当たり前になってきているため、価格競争も激化している。そのようななかでどのように売上を作るか。厳しい状況が続くとみている。
	×	一般レストラン(経営者)	・政治が安定して税金など金の流れが明確になり、使える金が増えるか、減税により手元に残る金が増えるかしない限り、物価高の影響で思い切った消費活動はできない。
企業 動向 関連 (東北)		農林水産業(従業者)	・当県では桃の生育も堅調である。他県ではひょう害などの報告もあり、当県産の農産物への期待が高まっている。
		一般機械器具製造業 (経営者)	・引き合いが少しずつ増えているため、2～3か月先は少し良くなると期待している。
		一般機械器具製造業 (経営者)	・省力化を図るための設備案件の引き合いが増えてきている。
		金融業(広報担当)	・夏祭り期間を迎えるため、観光・宿泊産業を中心にインバウンド需要の取り込みが期待できる。ただし、1次産業では気候変動を要因とする海産物の不漁や病害虫の異常発生が懸念材料である。
		その他非製造業〔飲食料品卸売業〕(経営者)	・秋の行楽シーズンの訪れとともに、県内でも観光客の増加が期待できる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		食料品製造業（製造担当）	・インバウンドや旅行者により高額品の売行きは好調である。しかし、物価高の影響もあり、地元客や若い層の購買単価は今後も上がらないとみている。
		出版・印刷・同関連産業（経営者）	・良くなる要素が見当たらない。
		出版・印刷・同関連産業（経営者）	・地方経済においては何も変わらない。
		電気機械器具製造業（総務担当）	・売上につながりそうな商談は依然少ない。
		建設業（従業員）	・年内は相応の工事量を見込んでいるが、人手不足が課題である。人材確保に力を入れていく。
		建設業（従業員）	・まとまった案件の受注見通しが立っていない。
		建設業（従業員）	・人員が限られ、受注量を増やすことができないため、景気は変わらない。
		建設業（従業員）	・受注量からみても、高い水準で景気が良い状況は変わらない。
		輸送業（経営者）	・食料品を除き、取扱貨物の荷動きの鈍化が続いている。特にトラック輸送においては、関東方面からの県内向け貨物で荷動きが悪い状況である。その要因は原材料価格の高止まりや物価高などが考えられ、今後2～3か月での改善は見込めない。
		通信業（営業担当）	・顧客に対し、価格の根拠を理解してもらう努力を続けていく。
		通信業（営業担当）	・物価高騰が続くなか、機器代金のみならずサービス料金も値上げせざるを得ない状況のため、客の買い控えが更に加速するとみている。
		通信業（営業担当）	・国の補助などの実施予定がないため変わらない。
		広告業協会（役員）	・物価上昇は止まらず、個人消費の抑制傾向は続くことが予想される。景気が良くなる兆しが全くみえないことから、広告業界は低迷の状態がしばらく続くともみている。
		広告代理店（経営者）	・先行きが見通しづらい環境ではあるが、取引先の広告投資が大きく減少する兆しもないため、横ばいが続くともみている。
		コピーサービス業（従業員）	・政治や経済の先行きが不透明である。
		その他企業〔企画業〕（経営者）	・観光需要を旺盛にするための良い策が見当たらない。しばらくは既存施設の活用や催しによる集客を考えなければならない。
		その他企業〔協同組合〕（職員）	・依然として良くなる材料は見つからない。米国の関税政策などで閉塞感がある。
		農林水産業（従業者）	・今年の夏も猛暑となる見込みであり、米の生育や品質が懸念される。
		食料品製造業（経営者）	・物価高の影響で、消費者は価格にシビアになっている。
		食料品製造業（営業担当）	・原材料等の高騰に伴い、3か月後に値上げを予定しているため、販売量の更なる落ち込みが見込まれる。
		金属製品製造業（経営者）	・受注予測が若干下向いている。
		輸送用機械器具製造業（経営者）	・この先2～3か月は変わらない。復調するにしても秋以降である。
		経営コンサルタント	・参議院選挙後の与野党の票獲得の行方次第では、大きな変化があるかもしれない。
		司法書士	・地元法務局の登記受付件数が前年同月比で4%程度減少している。実感としても、売買による所有権移転登記は減少している。
		公認会計士	・小売業、サービス業は好調を維持している顧客が多い。製造業は売上が回復しない企業が多い。建設業は先の見通しが立たない顧客が多い。全体としてはやや悪くなるとみている。
	×	窯業・土石製品製造業（職員）	・公共事業、民間事業共に受注量が減少しているため、厳しい状況が続くとみている。
雇用関連			
		アウトソーシング企業（経営者）	・自治体は価格の上昇に理解がある。その状況が続くならば景気は良くなるとみている。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
(東北)		職業安定所(職員)	・建設業、製造業は求人数の減少が底を打ったとみられる。全体の求人数も緩やかに増加に転じることが見込まれる。
		人材派遣会社(経営者)	・人を採用できず、新規出店や事業拡大ができないという話を非常に多く聞く。クリニックや建材の商社、飲食店、小売業など多岐にわたる。このような状況は変わらないとみている。
		人材派遣会社(社員)	・既に大枠の採用計画が固まっているため市況が大きく変わることはないが、求職者側が活発に動けば良化することも考えられる。一方で、既に2025年新卒入社の退職者の登録が出てきている。その欠員補充の動きとして、第2新卒層の求人数が増加すれば、当社の景気は良くなる可能性がある。
		人材派遣会社(社員)	・米国の動向や中東情勢などの先行きが不透明である。その状況下で、企業の設備投資や人材採用は鈍化している。しばらくの間、景気は一進一退が続くとみている。
		人材派遣会社(社員)	・好転する要素がない。同業他社も同様の傾向にある。退職者の後任募集を停止する企業も徐々に増えつつある。
		新聞社[求人広告](担当者)	・広告に少しずつ動きが出てきているものの、物価高は続いており、景気が回復している実感はない。
		新聞社[求人広告](担当者)	・資材価格を始めとした物価高騰により、企業は疲弊している。
		職業安定所(職員)	・新規求人数、有効求人数共に前年同月比で増加しているが、米国の関税政策の影響を考慮する必要がある。
		職業安定所(職員)	・米国の関税政策について、多くの事業所では現時点で目立った影響はみられないが、一部で生産や採用計画に影響が出ているという声もある。全体としては求人、求職に大きな変動はないとみている。
		学校[専門学校]	・急激に変わることはないとみている。
		その他雇用の動向を把握できる者	・人手不足の業種では求人数はあるものの、物価高による買い控えの影響から、卸売業、小売業の求人数が減少している。物価高が続く限り、この状況は変わらないとみている。
			*
x		*	*

3. 北関東(地域別調査機関:株式会社日本経済研究所)

(-:回答が存在しない、*:主だった回答等が存在しない)

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計動向 関連 (北関東)		旅行代理店(経営者)	・春先に受注した案件が売上に変わる時期になるため、良くなる。
		一般小売店[酒類](経営者)	・お中元用品の需要が多くなる。
		コンビニ(エリア担当)	・物価高の影響が1番大きい。現状が続く。
		コンビニ(エリア担当)	・直近の売上は前年比106~110%程度で好調に推移しており、落ちる要素が見受けられない。
		コンビニ(エリア担当)	・今年も全国的に平年を上回る猛暑が長期間にわたって続くと予想しており、盛夏期はコンビニの売上が伸びる傾向にある。特に、冷たい飲料やアイスクリーム、塩分補給食品といった暑さ対策商材に加え、制汗シートや冷感グッズなどの夏向け日用品の需要が高まる。
		家電量販店(店員)	・残暑が厳しければ、季節商材が引っ張ってくれるかもしれない。
		一般レストラン[居酒屋](経営者)	・米価高騰が収束傾向になり、外食が少しずつ増えていくことに期待したい。
		都市型ホテル(経営者)	・ゆっくりではあるが、前年より販売量、売上は増えていく。
		旅行代理店(従業員)	・秋以降も旅行シーズンが続く上に、インバウンドも増え続けている。
		タクシー(経営者)	・全体的に動きが良くなってきたので、この先も良くなる。
		美容室(経営者)	・SNSや口コミで中高生等の若い客層が増えている。
		商店街(代表者)	・生徒数は減少しているものの、小中学校の遠足や修学旅行の記念写真が売上に貢献している。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		一般小売店〔精肉〕 (経営者)	・備蓄米は地方のスーパーにはまだ見られない。幾らかでも出てくれば、活気も出てくるとみている。野菜は少し値下がりしているが、元気になるか出ないかは米価次第で、難しい状況である。
		一般小売店〔土産〕 (経営者)	・例年、梅雨の時期は国内外共に客足が落ち込み、ここを底にして夏の観光シーズンとなる。今年は桜の時期から比べても減少幅は少ない。外国人観光客は、大阪・関西万博の効果もあるのではないかとみている。国内観光客については、梅雨の時期にもかかわらず、降雨日が少ないため、外出意欲が高まったからと考えている。今後も比較的降雨が少なく高温が予想されるが、当地は比較的緯度が北に位置する観光地のため、夏休みの旅行先に選ばれるのではないかと同業者の多くが予想している。
		百貨店(営業担当)	・世間の食料品に対する話題や関心が落ち着いてきたところに、気温上昇で適時適応品の売上が活発になっている。ただし、客の購買に対する価格判断基準の改善に過度な期待は寄せられない。予測は難しく、状況を冷静に注視しながら判断していきたい。
		百貨店(店長)	・物価高の解消見込みがないため、下降圧力もあるようだが、経済のペースはそこまで弱くない。節約疲れ等もあいまって、きっかけによっては上向きの要素もある。小さなことで上下に振れる可能性は高いとみており、ひとまずは変わらない。
		衣料品専門店(販売担当)	・物価高に対応できるだけの収入があるようになればよいが、それもかなり厳しい状況である。政治も含め、物価を抑えて何とか生活が安定する社会環境づくりができれば、ある程度先が見えてくるが、現状では悪い方向にしか考えられないため、何となくしか期待できない。
		家電量販店(営業担当)	・夏物商材が好調に推移し、前年比104%である。夏が長いとの長期予報のため、在庫や業者の確保に努めていく。全般的に白物家電は前年比102%で推移している。
		住関連専門店(店長)	・良くなる要因がない。
		住関連専門店(仕入担当)	・物価高騰、政情不安、米国の関税政策や紛争等、ネガティブな話題が多く、節約志向は継続する。
		一般レストラン〔居酒屋〕(経営者)	・夏のイベント等、宴会の機会が増えるため、現状と変わらず人の動きは活発になるとみている。先の予約や問合せも若干ある。
		一般レストラン(経営者)	・組合の会合でも、明るい話題は出てこない。今後も同様ではないかと考える。
		都市型ホテル(スタッフ)	・8月は夏休みの需要等を上手に取り込み、宿泊、飲食、宴会共に現状把握している予約は好調で、前年比105%程度である。ただし、7月は各部門共に現状、前年を若干割り込んでいる。特に、今年度は宴会件数の前年割れが続いており、折からの物価高を反映して、客単価に転嫁はしているものの、業界団体の動きが鈍いようである。
		旅行代理店(所長)	・早期に梅雨明けしそうな様子で、今年も猛暑が予想される。外出控えにならないか、懸念される。
		旅行代理店(営業担当)	・大阪・関西万博の影響で、業界全体はある程度潤うかもしれないが、近隣観光地に目を向ければ、多少悪影響を受けるかもしれない。
		タクシー運転手	・気温が高くなれば多少利用客は増えるものの、短距離の客が多くなる。
		通信会社(社員)	・2～3か月では変わらないとみているが、不安定な状況ではある。
		通信会社(営業担当)	・7月以降の参議院選挙により、ガソリン税などの減税実施があれば、変わるかもしれないが、現金給付等があっても、現状の物価高が収まらない限り、消費は抑えられる。
		通信会社(局長)	・参議院選挙対策で、多少の還元はあるかもしれないが、継続したものではなく、その場しのぎで終わる短期の対応にしかみえないため、継続的に景気が良くなるとは考えられない。
		テーマパーク(職員)	・しばらくは景気、天候共に不安定な状況が続く。
		設計事務所(所長)	・温暖化の影響でこれから猛暑の夏になるため、消費活動は低下傾向となる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		住宅販売会社（経営者）	・物価と金利がダブルで上昇しているリスク要因があり、解消する気配がない。
		百貨店（営業担当）	・依然として物価は高く、消費者心理も低調が予測される。消費の中心が生活必需品である傾向に変化はない。
		スーパー（総務担当）	・世界で起きている戦争、特に、イランとイスラエルの戦争は、今後のガソリン価格等に影響するとみている。また、雨の降らない高温の梅雨では、野菜や果物等に影響する。
		乗用車販売店（経営者）	・国内の物価高や米国の関税政策で先が読めない。当地域の自動車メーカーは、最近発売したSUVの受注が好調なので、期待しているところである。
		乗用車販売店（従業員）	・受注残、販売車両も減少傾向で、販売できる車両の範囲も少ない。
		自動車備品販売店（経営者）	・身の回りで、何か建物が建つとか工事や企画があるといった前向きな話を聞かない。また、政治不信もあって、将来がどうも不安であるという雰囲気がかかり強い。そのため、ある一定の年齢の人はお金を使わなくなっている。その辺りが不安である。
		その他飲食〔給食・レストラン〕（総務）	・人材確保が進んでいない。今秋も最低賃金の引上げが見込まれる。給食事業では、なかなか機械化や省人化が難しいことから、新規取引先からの受託を始め、業務拡大面においても、人材不足がネックとなっている。
		通信会社（総務担当）	・販売数が上昇に転じない限り、支出だけが増加し、相対的に悪くなる一方である。
		ゴルフ場（従業員）	・長引く猛暑で野外スポーツは影響を受ける。先々の予約も前年より動きが鈍い。
		その他住宅〔住宅管理・リフォーム〕（営業）	・客からの依頼はあるものの、社員や従業員が足りずに断るケースが増えている。このままの人数でいくと、今月よりも更に悪くなってしまう。
	×	商店街（代表者）	・市内中心街の区画整理事業の推進に加え、中心街の橋の通行止めは3年続く。今後、関連する地点の踏切の閉鎖や跨線橋の工事が進むと、周辺事業者及び住宅に大きく影響する。
	×	一般小売店〔乳業〕（経営者）	・8月、10月と商材価格の改定が控えているため、悪くなる。
	×	一般小売店〔家電〕（経営者）	・現状の物価高並びに税金の上昇は庶民にはとんでもない状況である。減税もなく、ガソリンの暫定税率も外さない。これでは立ち行かない。
	×	スーパー（商品部担当）	・物価高の影響や競合店の出店と、マイナス要素が大きくプラス要素がない。現状維持か一段と落ち込みが大きくなると予想される。
	×	乗用車販売店（経営者）	・残業や休日出勤がまだまだ増えない。
	×	一般レストラン（経営者）	・物価が高いのに給料は上がらない。暑い日も続き、光熱費も高くなる。外食産業には厳しい状況が続くそうである。
	×	通信会社（経営者）	・相変わらず、消費者の財布のひもは固く、なかなか売上が伸びない。
企業 動向 関連 (北関東)		一般機械器具製造業（経営者）	・在庫調整のため止まっていたロボット関連の仕事が、秋口から戻ってくる見込みである。また、自動車向けの仕事で、納入先のライン変更の影響により納品ストップになっていた案件も通常生産に回復する見込みである。
		食料品製造業（経営者）	・賃上げやボーナスのアップはあったものの、それ以上に物価高騰が激しく、消費行動に暗い影が差している。
		窯業・土石製品製造業（経営者）	・このまま良くも悪くもない状態が続く。
		金属製品製造業（経営者）	・取引先の発注計画をみても、変わらない。
		一般機械器具製造業（経営者）	・取引先の先行きが全く読めないため、変わらない。
		電気機械器具製造業（経営者）	・受注量が増えない以上、景気は良くならない。当社は輸出はしていないが、米国の関税政策が発効して景気が悪くなれば、巡り巡って景気は悪くなるとみている。
		電気機械器具製造業（経営者）	・中国経済が持ち直すとは考えにくいいため、やや悪いままで変わらない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		輸送用機械器具製造業（経営者）	・受注や販売量、受注単価の動き、取引先の様子等は、この2～3か月、まるで変わらない。
		その他製造業〔消防用品〕（営業担当）	・物価高の状況等もいまだ続いている。
		輸送業（営業担当）	・梅雨も明け、夏を迎えてエアコン、扇風機、サーキュレーター、日よけ用具や夏物衣料、飲料水等の輸送は前年並みを確保予定である。しかし、燃料価格の高騰やドライバー不足によるコスト高により、利益は少なくなる。
		金融業（営業担当）	・経済全体は良い方向に向かう部分もあるが、先行きは不透明な点が多く、不安定な要素もみられる。
		経営コンサルタント	・依然として、米国の関税政策の先行きが不透明であるため、地域や下請企業の生産活動は控えめにならざるを得ず、個人消費も萎縮し続けるとみている。
		司法書士	・人口は減りつつあり、一般的には仕事も減っていくだろうが、亡くなる方は今後も増えていくので、相続登記は発生する。現状のやや良い状態が続いていく。
		社会保険労務士	・企業によっては夏のボーナスが支給され始めているが、今のところ、前年並みのようである。
		化学工業（管理担当）	・米国関税政策の影響が不確定である。
		窯業・土石製品製造業（総務担当）	・猛暑の日が続き、稼働率も悪くなり、多少、景気に影響が出るとみている。
		輸送用機械器具製造業（総務担当）	・主要取引先の生産は、8月に減産となる。米国の関税政策の影響による減産ではないものの、今後の不安である。
		建設業（総務担当）	・外的要因は大きいですが、先行きの不透明感が増しており、発注量が少なくなってきて、心配である。
		不動産業（管理担当）	・照明のLED化や今まで推奨してきた大規模改修工事を先延ばしにしてきた結果、新たに施工業者に見積依頼をすると、今までの比にならないほど値上がりしている。オーナーは、施工金額の増加と工期の長期化に頭を抱えている。
		x	-
雇用 関連 (北関東)		-	-
		学校〔専門学校〕（副校長）	・各企業は雇用在必死になっているため、求人票記載の賃金が上昇している。こうしたことから景気が良い方向にあるとうかがえる。
		人材派遣会社（経営者）	・夏物野菜の一部や米穀類は温暖化による異常気象等に左右され、作物の生育量が少ない。衣料やそのほか身の回りでは、公共料金等の電気、ガス、ガソリン等は若干落ち着きを見せたものの、値上がりしている。収入が伴わない状況のため、やや厳しいよう出費が抑えられている。
		人材派遣会社（社員）	・シニアの求職者が多くを占め、企業の求める年代とのギャップが埋まらない状態が続いている。
		職業安定所（職員）	・新規求人数の前年同月比の動向を見ると、建設業は減少傾向、医療福祉分野は増加傾向で推移している。製造業、卸・小売業は増減を繰り返している。
		人材派遣会社（管理担当）	・正社員希望者が多く、派遣の応募が減少するため、やや悪くなる。また、クライアントも、派遣より直接雇用のパート採用を推進している。
	x	*	*

4. 南関東（地域別調査機関：株式会社日本経済研究所）

（-：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連 (南関東)		一般小売店〔食料雑貨〕（経営者）	・情報開示によれば良くなる。
		一般小売店〔生花〕（店員）	・3か月後は9月のお彼岸があり、花屋にとっては需要が多く忙しい時期である。そのため、今月よりはかなり良くなる（東京都）。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		コンビニ（従業員）	・当店は夏季にプール営業をする場所から最も近いコンビニのため、夏になると特需で一気に忙しくなる。現地で買えなくなったプールチケットの発券、食材、プール用品なども販売し、来客数がふだんの1.3倍から1.5倍に増える。景気が良くなっているかは疑問だが、プールの利用客が極端に減らない限りは、来客数が大きく増える。
		衣料品専門店（経営者）	・ECサイトを立ち上げており、そちらで相当数売れるはずである。
		都市型ホテル（スタッフ）	・夏季は高単価での予約が多く見込めている。取り漏れないよう対策していく。
		タクシー運転手	・これから夏真っ盛りになり、気温がますます上がっていくと、タクシーの利用客は多くなる。深夜の客は減るが、それまでの時間帯の回転率は良くなる（東京都）。
		一般小売店〔家電〕（経理担当）	・例年はエアコンの売上ピークを迎える7月を前に6月は売れない月だが、今年は6月からエアコン販売が好調である。7月もこのまま続いてくれることを期待している。
		一般小売店〔家具〕（経営者）	・この先の景気だが、専門店として頑張っていけば、客が徐々に戻ると期待している（東京都）。
		一般小売店〔祭用品〕（経営者）	・夏本番を迎える7月以降は需要が増えて良くなる。
		一般小売店〔文房具〕（経営者）	・例年7～8月は学用品を中心に売上が減少する傾向にあるが、遠方からの来街者が増加していることや、インバウンドによる売上が増加傾向にあるため、やや良くなるとみている（東京都）。
		一般小売店〔眼鏡〕（経営者）	・7月から9月の天候次第だが、晴天が多く暑ければ、売上増加の期待が持てる。
		百貨店（営業担当）	・売上の増加が続いており、消費意欲は高まっている。夏のボーナス需要も伸びるとみている（東京都）。
		百貨店（販売促進担当）	・富裕層向けの外商の単価は上昇傾向がみられる。郊外店にとってはインバウンドの下落傾向は関係がなく、国内富裕層の改善が業績向上に好影響を与える（東京都）。
		百貨店（企画宣伝担当）	・7月以降はクリアランスセールが始まることから、衣料品の売上減少などの状況は解消するものと見込んでいる。
		コンビニ（経営者）	・夏休みで好天が続けば、売上が増加する（東京都）。
		コンビニ（エリア担当）	・ボーナス支給額は過去最高で、コストパフォーマンスを求めて高単価商材でも利便性の高い箇所での買物が増加すると予測される。
		コンビニ（エリア担当）	・猛暑により飲料の動きが好調であり、今度も伸長が続く。近隣イベント会場への人出が来客数にも影響しており、イベント参加者は客単価も高い傾向にあるため、夏の繁忙期に向けて更なる増収が期待できる。
		家電量販店（店長）	・気温上昇の影響もあり、季節商材の動きが良く、前年より来客数が増えている。まだ値上がりが続いているため決して良いとはいえないが、この状況が続くと良くなる。
		乗用車販売店（従業員）	・今後は新型車が登場するため、上向いてくる（東京都）。
		乗用車販売店（営業担当）	・客も徐々に慣れてくる（東京都）。
		住関連専門店（営業担当）	・先進的窓リノベ事業の消費者への周知が進んでおり、窓周りのリフォームの引き合いが増加している。補助金の予算消化次第ではあるが、秋口にかけて窓周りのリフォーム需要が活発になるとみている（東京都）。
		一般レストラン（経営者）	・出店地域による違いもあるが、繁華街の店舗では客単価が上がっている。日常性の高いサラリーマンの多い地域は、利用しやすいメニューの提示により来客数が伸びている（東京都）。
		その他飲食〔居酒屋〕（経営者）	・天候に左右されるが、ボーナスが支給されれば良くなる（東京都）。
		その他飲食〔給食・レストラン〕（役員）	・外食の価格引上げにより給食の廉価さがより優位になってきていることから、給食需要の伸びが更に期待できる（東京都）。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		タクシー運転手	・この先30度超えの日が続けば、暑さを避け、涼しい空間を提供できるタクシーの利用客が増えるとみている。夜の飲み屋街の活気が余りないことが気になるが、この先暑い日が続けば活気も戻ってくると期待している。
		タクシー運転手	・今年も暑さの影響で、歩くことを諦めて、短中距離だがタクシーに乗る客が増えている。長距離の客はそれほどいない（東京都）。
		通信会社（経営者）	・新型コロナウイルス感染症の影響が薄れ、人出も戻りつつある。同窓会なども開かれるようになってきている（東京都）。
		通信会社（社員）	・イベント情報などが増加し、具体的にCMの引き合いなどにつながっている。様々な取組が増えている（東京都）。
		通信会社（経営企画担当）	・少しは案件が発生するものと見込んではいいるが、例年より動きが少ないこともあり、客の動向に注力していく必要がある（東京都）。
		観光名所（職員）	・若干ではあるものの、来客数の動きから、やや良くなる（東京都）。
		ゴルフ場（経営者）	・米騒動も沈静化に向かっており、猛暑が過ぎると改善する見込みである。
		その他サービス〔葬祭業〕（経営者）	・例年7～8月は繁忙期となり、9月頃から10月にかけて落ち着くものの、今月ほど暇になることはない。
		設計事務所（経営者）	・物価の上昇スピードが早過ぎて、建築費も非常に高騰している。住宅を早く何とかしなくてはいけないという意識での客の動きが見受けられ、相談も大変多くなっている。
		設計事務所（経営者）	・具体的に案件が動き始める予定が分からないため、実際にどうなるかは不明だが、予定だけはあまる。
		設計事務所（経営者）	・物価の高止まりにより、これから先は動かなければいけないという意識が強くなっている。
		住宅販売会社（経営者）	・都内ホテルの宿泊料金が月に2%程度上昇しつつあり、ホテル業界は良くなる。一方、建設業は、建設費の高騰により我々中小企業はまだ厳しい環境のなかにあり、なかなか賃上げができない。
		住宅販売会社（従業員）	・今月がとて悪かったため、2～3か月先の景気は何もなくてもやや良くなる。住宅ローンの固定金利がやや下がっており、夏休みの長期休暇時には集客、商談数の増加が見込めるため、販売量もやや増えると見込んでいる。
		住宅販売会社（総務担当）	・物価高による従業員からの賃上げの声に対する企業の対応、コロナ禍明けの消費意欲の高まり等により、消費に動きが出てくる。
		商店街（代表者）	・客が買物に非常に慎重になっている。景気が良くなってもraitたいのは当然だが、手取り額が少ないことから、なかなか想定どおりにはいかない。政治においても、政権が少数与党になっていることから、一般消費者の先行きへの不安感が大きい。
		商店街（代表者）	・米国大統領の動向が気になるが、いろいろな貿易摩擦の激化や関税問題のリスク、それに伴う株価の動向など、マインドが冷めるかどうかで地域経済は影響されてくる。不確実性を抱えながらも、今のように何となく形になっていけば悪くはない（東京都）。
		一般小売店〔家電〕（経理担当）	・暑さは9月くらいまでと考えている。エアコン工事が落ち着いたら、省エネ補助金の対応をしていく。
		一般小売店〔印章〕（経営者）	・当商店街はアーケード型ではなく点在型のため、これから暑くなるとわざわざ当店を目的にした客の来店は難しい。全く不要な物ではない商材だが、やはりインターネット通販等に流れてきている。
		一般小売店〔米穀〕（経営者）	・賃金が物価上昇分を上回っていないため、慎重な買物をしている（東京都）。
		一般小売店〔傘〕（店長）	・暑さが9月頃まで続くと、現状の販売量を維持できる。
		一般小売店〔文具〕（販売企画担当）	・店頭であれば売り方、外商であれば提案の仕方を工夫して営業努力をしているが、物価上昇が落ち着かないことには厳しく、逆風のなかで航海しているような状況である。客からも物価が高くなったという話が聞かれ、なかなか消費には結び付かない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		一般小売店〔茶〕（営業担当）	・会社を挙げて新規開拓に取り組んでいるが、なかなか実現しない。他社とも競争もあり、難しいのが実情なので、先行きは期待できない（東京都）。
		一般小売店〔書店〕（総務担当）	・主要顧客である教育機関の休みが多い夏季は毎年売上が伸び悩む傾向にある。この季節要因を除けば、ここ2か月は為替に大きな変動はみられず、このまま推移すれば身の回りの景気は変わらない（東京都）。
		百貨店（売場主任）	・顧客ステージ別の施策として、対象顧客へのクリアランスプレセールなど、消費マインドが上がる仕掛けをしているが、世界情勢など先行きが不透明な部分もあり、良くなる要素がない（東京都）。
		百貨店（総務担当）	・外国人観光客の増加は続くと思われるが、円安基調も一段落し、財布のひもが固くなってきている。世界情勢が不安定で、先行きが見通せない状況であり、今までのような右肩上がりの期待は薄い。食料品については、米を始めとして価格は高止まりの様相を見せており、猛暑予想もあることから、作物の不作などの影響が出てくると、現状のままとなる（東京都）。
		百貨店（総務担当）	・物価上昇が継続し、客の消費に関して慎重な姿勢は続くと思予想する。
		百貨店（総務担当）	・世界的な混乱や国内の政治情勢、物価の動向など、不確定要素がますます多種多様になっており、先行きの景気への不安感が大きい（東京都）。
		百貨店（総務担当）	・今後のインバウンドや景気動向にもよるが、前年下半期並みの状況であれば、減少傾向が弱まると想定している（東京都）。
		百貨店（広報担当）	・国内客、海外客共に景気に確実に影響するような新たな外部要因が見当たらない。また、足元では為替がやや円高方向に振れるなど決して追い風とはいえないものの、当社が進める識別顧客化の戦略が一定程度下支えすることにより、外部要因によるダメージを最小限に抑えられると想定している（東京都）。
		百貨店（営業担当）	・物価上昇の影響は依然として残り、個人消費の伸び悩みが続く。今後の消費動向は、賃上げがどこまで広がるか、物価上昇が落ち着くかどうかで変わってくる（東京都）。
		百貨店（営業担当）	・担当している地域密着型ショッピングセンター及び大型ショッピングセンター内の店舗については、国内客が大半を占めている。取扱商品も日用品や消費財、飲食店などであり、インバウンド減少の影響を受けないため、これまでと変わらず、来客数、営業利益微増の状況が続くとみている（東京都）。
		百貨店（営業担当）	・為替や株価などの先行きも不透明であり、景気が改善する要素が特に見当たらないため、現状のやや悪い傾向がこの先も続く（東京都）。
		百貨店（販売促進担当）	・直近3か月の傾向からみて変わらない（東京都）。
		百貨店（財務担当）	・物価高に伴う個人消費の低迷が続いていることに加え、円高基調によりインバウンドの回復は見込めない（東京都）。
		百貨店（管理担当）	・物価上昇が落ち着かず、節約志向が続く（東京都）。
		百貨店（店長）	・食品を中心とした価格の上昇に歯止めが利かない状況をメディア等で取り上げているため、客の買い控えはしばらく続く。戦争の終結と株価の安定が上昇のポイントになる。
		スーパー（経営者）	・米価の問題などで売上に上昇分が乗せられていたが、今は平常に戻っている。この先も良い状態は続かないとみている。相変わらず値上げの予定もいろいろとある。青果は相場安、鮮魚はやはり生物は売上が取れないということでもなかなか厳しい。余り良い材料がないので、現状と同じような状態がこのまま続く。
		スーパー（経営者）	・米国の政策動向が読めない（東京都）。
		スーパー（店長）	・値上げが続く影響で1品単価が上がっていく一方で、買上点数は減少傾向にある。米の売行きが見通せないなかで総菜やパンの売行きが伸びている。生鮮食品類は堅調な動きが続くものと予想される。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		スーパー（店長）	・消費者には節約志向が依然として根付いており、値上げの影響も大きく、日々必要最低限の買物しかない。値上げと賃上げのバランスが取れるようになるまでは、同様の状態が続く（東京都）。
		スーパー（総務担当）	・値上がり止まらないことと、定額減税が終わり、手取り額が減るためである。
		スーパー（営業担当）	・販売量及び来客数の減少、単価の上昇はまだ続く（東京都）。
		スーパー（食品担当）	・米騒動が続く限り、売上は前年を超える（東京都）。
		スーパー（販売担当）	・値上げはまだ続く。
		コンビニ（経営者）	・今年もこの暑さにより昼間の来客数が減少しているため、この先も伸びないと予想する。
		コンビニ（経営者）	・物価高の流れがまだ続きそうなので、景気が上向くかは微妙なところである。
		コンビニ（エリア担当）	・商品単価の高止まりは続くが、店頭での物量を意識した販売促進策を継続して顧客の維持に努めることで、現状を維持できる見込みである（東京都）。
		コンビニ（エリア担当）	・来客数自体の伸び率は変わらないとみているが、値上げの影響もあるのか、やはり安価な物を購入する客が多くなっているため、今月と同様の推移となる。
		コンビニ（商品開発担当）	・米相場による相乗効果も一段落した模様である（東京都）。
		コンビニ（従業員）	・2～3か月先もそれほど変わらない。暑い時期で来客数が若干減るかもしれないが、涼しくなる夕方や夜にかけての来店が増えるかもしれない。そこでまとめ買いをするのであれば販売量は安定する。生活費が抑えられれば、その分を食費などに充てることができる。税金なども上がってきて、どこまで市民の懐に余裕があるかである。
		衣料品専門店（店長）	・消費者の手取りが減少している。定額減税の終了、社会保険料の負担増に加え、食料品など生活必需品の物価上昇の影響が大きい（東京都）。
		衣料品専門店（役員）	・物価上昇が落ち着くまでは、衣料品業界は厳しい。
		家電量販店（店長）	・世界情勢や米国の関税政策の影響がどのような形で出てくるのか不透明ななか、良くなることも悪くなることも言い難い。参議院選挙の結果で流れが変わる可能性もある。経済活動が活発になることを期待している。
		家電量販店（店長）	・訪日客の購買意欲には為替の影響もあるが、旅行代や宿泊代が上がり、買物に使う予算が削られているものとみている（東京都）。
		乗用車販売店（経営者）	・自動車の整備は順調に入っているが、販売は余り芳しくない。客の来場は結構あるものの、なかなか成約に結び付いていない。
		乗用車販売店（営業担当）	・夏に向けてレジャーにお金が出るため、自動車購入には向かない。
		乗用車販売店（総務担当）	・米国の関税政策の影響などで先行きが不透明であるため、購入を控える人が多くなる。
		乗用車販売店（渉外担当）	・販売環境に変化はないと見込んでいる。
		その他専門店 [ドラッグストア]（経営者）	・来客数が減っている。頑張るしかない。
		その他専門店 [貴金属]（統括）	・訪日客の売上減少も底に近い状況にあり、国内客の売上増加も大きな変化がみられないため、景気は余り変わらない（東京都）。
		その他専門店 [ガソリンスタンド]（団体役員）	・中東情勢の地政学的リスクが懸念されるものの、予防的な激変緩和措置が講じられることにより、仕入価格が安定する（東京都）。
		その他小売 [生鮮魚介卸売]（営業）	・今夏の天候が心配である（東京都）。
		その他小売 [ショッピングセンター]（統括）	・米国の関税政策等の動向次第で国内主要産業にも影響があるため、楽観できない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		高級レストラン（営業担当）	・数か月先までの予約状況及び直近のレストラン利用状況からみて、変わらない。例年、夏場は苦戦する傾向であるが、今夏はより厳しい気候が予想されるため、その分、客足も鈍くなる（東京都）。
		高級レストラン（経理担当）	・季節変動の影響を排除するため前年比でみると、受注残は10%程度多くなっている。この先6か月程度は同水準で、足元の状況が半年程度維持されそうである（東京都）。
		一般レストラン（経営者）	・3か月後の9～10月頃は、これまでの例から売上はそれほど落ち込みはせず、今月とほとんど同じくらいになる見込みである。人の動きも現在と余り変わらないとみられるため、売上も大体変わらない。
		一般レストラン（経営者）	・3か月後も物価高は変わらない。たとえ米価が落ち着いたとしても、食材、生活用品など全般的に値上がりしているため、決して良くなる見込みはない。
		一般レストラン（経営者）	・国内では、参議院選挙の前は売上が落ちるが、その後はまた盛り返すとみている。ただし、円安が進み物価が上昇すれば、消費が落ち込み景気は悪化する。国際的には、東欧の戦争が終結して復興への道筋が示され、中東情勢も沈静化すれば、景気は一気に良くなるとみられるが、それまでは構造的にもうかる業種とそうでない業種とはっきり分かれる状況が続く。したがって、3か月ではまだ変わらない。
		その他飲食〔カフェ〕（経営者）	・物価は高値安定しており、客は良い物に対しては高価でも支出するが、それ以外の物には節約志向である（東京都）。
		その他飲食〔カフェ〕（経営者）	・コーヒーの生豆の価格は2020年から2024年で約2倍になり、その後1年の間に更に倍になっている。そのため、販売価格も上げざるを得ない。それにより購買が減らなければ良くなっていくが、買い控えが続くと苦しくなる（東京都）。
		都市型ホテル（経営者）	・現在の予約状況等に鑑みて、変わらない。
		都市型ホテル（スタッフ）	・米国の動向や異常気象の影響でいろいろな物が値上がりしそうなので、なかなか先を読みにくい。
		旅行代理店（経営者）	・現在、学校で手足口病や百日咳などが流行しており、余り外出したくないため、旅行ではなく、なるべく近くでおいしい物でも食べて過ごそうと客から聞いている。
		旅行代理店（従業員）	・沖縄の新規レジャー施設が7月にオープンするのに合わせてツアーを設定し、予約の増加を期待している。海外旅行は、海外の物価高、円安が響き、観光需要がかなり低くなっている（東京都）。
		旅行代理店（営業担当）	・参議院選挙の結果による影響は出るとみられるが、大きく変わることはない（東京都）。
		旅行代理店（営業担当）	・物価上昇、夏の暑さで光熱費がかさむ（東京都）。
		タクシー（団体役員）	・米国の関税政策の影響や、大手自動車メーカーによる工場閉鎖等の負の要件がなくならなければ、景気回復には至らない。
		通信会社（経営者）	・受注案件が増加しない限り、2～3か月先の景気は変わらない（東京都）。
		通信会社（営業担当）	・物価の上昇が継続しているため、大きく転換していくことは見込めない。
		通信会社（局長）	・米国の出方も含めて新たに大きな展開がなければ、業界も変化に乏しい（東京都）。
		通信会社（営業担当）	・良くなる材料が見当たらない。
		通信会社（営業担当）	・物価が以前のような価格に戻らない限り、良くはならない（東京都）。
		通信会社（経理担当）	・もし2万円の給付があったとしても焼け石に水である。例えば、今よりも米の輸出を増やし産業が拡大するなどのことがないと、根本的に良くはならない。
		通信会社（管理担当）	・事業の性質上、市場の状況は大きく変わらない（東京都）。
		通信会社（管理担当）	・物価高の影響により消費は鈍化し、やや停滞する（東京都）。
		通信会社（営業担当）	・全体的に大きなイベントがなく、そこまで改善するとは考えられない（東京都）。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		通信会社（経営企画担当）	・映像視聴及び通信需要は短期的な経済状況に左右されない（東京都）。
		観光名所（職員）	・インバウンドの動きは好調ではあるが、国内消費者の不安の解消にはある程度時間を要する（東京都）。
		ゴルフ場（経営者）	・残暑が厳しいことが見込まれるため、今夏の売上は相当厳しくなると予想している。暑さ対策でどうこうできるレベルではなくなってきてしまっている。
		パチンコ店（経営者）	・米国の関税政策、中東情勢など世界的な政情不安、経済の不透明感が払拭されず、今後は国内経済にどの程度の影響が出てくるか全く分からない。マイナスに働くことはあっても、プラスには転じないと予測している。ただし、夏に向けて人の動きが活発になるため、期待する部分はある。
		競輪場（職員）	・社内外の環境に大きな変化がない。
		その他レジャー施設 [ボウリング場]（支配人）	・ガソリン価格、米価の高騰や米国の動向など、まだ不安だらけである（東京都）。
		その他レジャー施設 [ボウリング場]（従業員）	・大きく変わる要因が見当たらない（東京都）。
		その他レジャー施設 [ボウリング場]（営業担当）	・値上げに対する消費者の節約志向が、生活必需品や日用品以外に娯楽やレジャーなどにまで影響してきている。この傾向はしばらく続く（東京都）。
		その他レジャー施設 [複合文化施設]（財務担当）	・中東情勢が不安定化している。値上げも継続している。都議会選挙に続き、参議院選挙の結果も影響する（東京都）。
		その他レジャー施設 [映画]（営業担当）	・今後2～3か月に関しては、経済情勢や社会情勢に大きな変化はなさそうである（東京都）。
		その他サービス[立体 駐車場]（経営者）	・特に活性化につながるような話題もないため、現状のまま変わらない。
		その他サービス [フィットネスクラブ] （エリア統括）	・利用者の来館状況に変化はない。米を含め物価上昇に対して賃金が追い付いていない状況が続いている（東京都）。
		設計事務所（職員）	・良くも悪くも大きな変化はないとみている（東京都）。
		住宅販売会社（従業員）	・情報数に変化がない。
		住宅販売会社（従業員）	・現時点での客の様子から変化の兆しが無い。
		一般小売店[酒類] （経営者）	・先行き不透明で、好循環がみえてこない。
		一般小売店[乳業] （経営者）	・8月に価格改定があるため、定期宅配の顧客数の減少が予測される（東京都）。
		百貨店（営業担当）	・ラグジュアリー商材の購買減少による免税売上の客単価の下落は、回復が難しい。ただし、国内需要においては、生活必需品を中心に若干の回復傾向がみられる（東京都）。
		百貨店（販売促進担当）	・物価高の影響から、食品を中心とした生活必需品への消費が優先するため、客が衣料品等にお金を使おうという意識にはなっていない。今後は夏のボーナス支給時期になるものの、世界情勢も絡み、消費意欲が好転するとは考えられない。
		スーパー（経営者）	・客の節約志向がより強くなっている。可処分所得が増えないことには生活できない。
		スーパー（仕入担当）	・値上げはまだ続き、節約志向がますます高まり、消費自体は冷え込んでいく。
		スーパー（ネット宅配 担当）	・収益が前年並みの場合、人件費や各種コストの増加により利益が大幅に減少する傾向にあり、厳しくなる。
		コンビニ（経営者）	・大型スーパー同士の連日の特売チラシによる攻撃に、フランチャイズ加盟店のコンビニには対抗策が打てず、苦慮している。先行きが不安である。
		コンビニ（経営者）	・高齢の客の収入が全体的に減っており、1か月分の支出を計画し、必要な物を支払って、残りがコンビニ等で使えるお金だという話をしているのを聞くと、本当にギリギリである。先行きが良くなるとは考えられない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		コンビニ（経営者）	・買上点数が1人当たり0.5個程度減少しているため、単価が上がったとしても、売上は少しずつ減少傾向になる。今年は参議院選挙があるが、収入が増えない限り、景気はなかなか上向いてこない。
		コンビニ（経営者）	・現在、ちまたで話題になっている減税等がないと、厳しい状態が続くと予想している。賃上げもしており、今後が不安である。
		コンビニ（エリア担当）	・店舗の近隣にある大型施設でのイベント開催が前年と比較して大幅に減っているため、イベント時の収入が見込めない（東京都）。
		衣料品専門店（経営者）	・最近インターネット通販が多いからかもしれないが、来客数、販売量共に落ちている。今後は催事の予定などはあるものの、現状では動向が読めない。
		乗用車販売店（経営者）	・これから夏に向かって熱中症対策をしっかりとしないとイケないため、受注量は減る。
		乗用車販売店（販売担当）	・電気、ガソリン、生鮮食料品、インスタント食品、しょうゆなどの基本的な調味料など、全てが値上がりしており、給料は上がっていない割に税金は上がり、可処分所得が減っている。皆、自分たちの生活を守るために少しでも安価な物を買ったり、無駄な物は買わずに貯金に回したりしているため、今後の景気はますます悪くなる（東京都）。
		乗用車販売店（営業）	・今後の見通しが余り立っていない。
		その他専門店〔ドラッグストア〕（経営者）	・米の供給及び価格の安定により、他のことに使える金額が決まる。
		その他小売〔ショッピングセンター〕（統括）	・物価高に追い付かない賃上げが可処分所得の減少につながり、景気は停滞か後退していく。スピード感を持った経済対策が必要である（東京都）。
		高級レストラン（仕入担当）	・インバウンドの頭打ち感、米国の関税政策の動きにより、従来よりも停滞することが懸念される（東京都）。
		一般レストラン（経営者）	・大人数の宴会の数は減ってきているが、少人数の宴会がそれなりに入っているため、やや悪くなるものの、週末は現在の客入りを保ってけると予想している（東京都）。
		都市型ホテル（経営者）	・7月以降、夏休み時期になると近隣の大型コンベンション施設でのイベントなども減少し、売上は最も厳しい時期に入る。それに加えて、この暑さによる水道光熱費の上昇がかなりの負担になり、年間でもボトム時期に入る。人気テーマパーク等への個人客を中心に、何とか集客を図りたい。
		旅行代理店（従業員）	・交通費、宿泊費、食費、見学料など旅行に係る全ての費用が増加しているため、団体旅行の参加人数の減少及び実施の可否にもかかわってくる。
		タクシー運転手	・年末頃からの物価上昇が一向に止まらず、特に米に関しては四苦八苦しながら生活している。米価の上昇が幾らか収まりかけてきているところではあるが、やはり一般の食料品価格が高止まりしており、庶民の生活はかなり苦しい。
		その他レジャー施設〔総合〕（経営企画担当）	・今夏も猛暑が予想され、外出控えによる消費低迷の可能性が考えられる（東京都）。
		その他サービス〔学習塾〕（経営者）	・物価高の影響で、教育費まで出せないという家庭が多い。今後景気は悪くなっていく。
		その他サービス〔保険代理店〕（経営者）	・選挙後に施策が代わっても、景気は回復しない。このままでは景気が下降する一方で、何も期待できない。
		その他サービス〔学習塾〕（経営者）	・講習の申込みが少ない。
	×	百貨店（販売促進担当）	・米国の関税政策の影響で悪くなる（東京都）。
	×	衣料品専門店（店長）	・物価の上昇が止まらないため、本当に必要な物のみを購入する動きが顕著である。
	×	衣料品専門店（従業員）	・物価高で景気の先行きがなかなか読めず、まだ不安定な状況が続くと見込まれるため、客が消費に対してかなり慎重になることが予想される。
	×	高級レストラン（役員）	・インバウンドを含む来客数が増加し、価格転嫁により売上が上がっても、仕入原価、コストは下がる要素がなく、利益の厳しい状況は続く（東京都）。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	×	一般レストラン（経営者）	・世の中の景気が良くなると、外食産業はどんどん潰れていく。皆なかなか外食にお金を使えないのではないかとみている。
	×	通信会社（社員）	・世界情勢への不安により消費拡大が望めない。遊興産業の高値と不安が続く一方、生活必需品も高値となり、八方塞がりである。今年も酷暑が始まっており、電気・ガス料金負担軽減支援事業の効果で自宅での節約生活が続きそうである（東京都）。
	×	通信会社（管理担当）	・物価が上昇しているため、販売量は横ばいである。
	×	ゴルフ場（経営者）	・例年よりも早い気温上昇の影響により、外出や運動を控える人が増えるとみている。このような状況で更なる賃上げは難しい。税金や社会保険料負担を減らして個人消費の拡大につなげる政策を強く望む。
	×	ゴルフ場（従業員）	・梅雨、酷暑のなか、中東情勢が気になる。原油価格の高騰や輸入への影響など、混乱が懸念される。
	×	ゴルフ場（経理担当）	・素材、エネルギー価格の高止まりで固定費の回収に苦慮する環境は変わらず、利益を創出できるような状況ではない。9月になれば猛暑も緩和されて稼働率改善が期待できないわけではないが、やはり経済政策次第である。国会会期末にみられたガソリン税暫定税率廃止法案に係る与野党の攻防に象徴されるように、7月の参議院選挙の結果によらず、政策による景気浮揚は到底期待できない。
	×	その他住宅〔住宅資材〕（営業）	・建材需要の多くを占める新築関連は期待薄の状況が続くとみられ、景気の上向きにはつながらない（東京都）。
企業 動向 関連 (南関東)		その他サービス業〔ソフト開発〕（従業員）	・7月昇給も前年以上となり、景気は回復している。
		電気機械器具製造業（企画担当）	・AI関連製品の需要が拡大傾向にあり、それに追随することにより、景気が少しずつ良い方向に向かう。
		広告代理店（営業担当）	・気候の予測、米国の関税政策及び為替の変動が読めないため、当社としては変わらない一方、グループ会社の不祥事の影響で受けた打撃が少し落ち着きそうである（東京都）。
		その他非製造業〔商社〕（従業員）	・大型案件の成約が見込める（東京都）。
		出版・印刷・同関連産業（経営者）	・この先も変わらず受注量が少ない見込みである（東京都）。
		プラスチック製品製造業（経営者）	・現在、受注量に回復傾向がみられないが、新規案件を抱えており、これが具現化すれば売上増加が期待できる。
		一般機械器具製造業（経営者）	・世界情勢をみると、当社も含まれる自動車業界は予断を許さない状況だが、大企業よりも時間差で影響を受けるため、まだしばらくは変わらない。
		電気機械器具製造業（経営者）	・内需関連の業界であるため、外因の影響を直接受けませんが、長引けば悪影響が出てくる。また、このところ人手不足による倒産が増えていることも懸念材料である（東京都）。
		輸送用機械器具製造業（総務担当）	・自動車メーカーも、現時点では米国の関税政策の影響を予見できず、慎重な姿勢を取っている。当面、景気は変わらない。
		その他製造業〔化粧品〕（営業担当）	・物価高の影響があるため、変わらない（東京都）。
		建設業（経営者）	・物価高のなか賃金が上がらず、購買意欲が低下しているため、景気は現状のままで変わらない。
		建設業（経営者）	・今のところ現状維持で進むとみている。
		建設業（従業員）	・物価上昇が続いており、受注量が増えていても、それほどうけはなく、厳しい。
		建設業（営業担当）	・現状、打合せ案件の規模から、すぐに改善するような状態ではない。
	輸送業（総務担当）	・荷主の国内出荷量は例年どおり閑散期の数量で、低迷している。今後も現状のまま変わらないと予想している。	
	通信業（広報担当）	・プラス要因とマイナス要因が打ち消し合い、方向感が出にくい状況がしばらく続く見込みである（東京都）。	
	金融業（従業員）	・物価上昇による仕入価格の上昇、消費の冷え込みが続いており、利益の確保が難しい状況に不安の声が聞かれる。また、人件費高騰に悩む企業が多い一方で、若い世代の人材確保のために従業員の給与を引き上げたいという企業もみられる（東京都）。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		金融業（営業担当）	・製造関連からは、今後の受注見通しにやや希望の持てる話が聞こえてきており、米国関税絡みの受注調整に出口が見えつつある様子が見えつつある。建築、不動産は地価の下落懸念や公共案件受注の伸び悩みから冷え込み感が強い。
		不動産業（経営者）	・インターネット時代のため、いかに活用するかが勝負の分かれ目である（東京都）。
		不動産業（経営者）	・当社のテナント物件は満室のまま推移しそうである。
		不動産業（総務担当）	・オフィスに関しては、満室の上に新規テナントのニーズもあるため、当面は今の良い状況が続く。物販テナントについては好不調の差が出ており、売上が厳しい店舗もある（東京都）。
		広告代理店（従業員）	・前年比での減少見込み分をカバーする施策が追い付いていない（東京都）。
		税理士	・米国の関税政策について、日本の自動車に25%の関税を課すということだが、自動車産業が壊滅的ダメージを受けるような大変な話である。これは一企業の業績にとどまらず、下請も含めた産業全体に及ぶ国家レベルの大きな問題である（東京都）。
		社会保険労務士	・良くなる要因が見当たらない（東京都）。
		経営コンサルタント	・良くなる材料がない。
		その他サービス業〔廃棄物処理〕（経営者）	・景気の不安定さはしばらく続くものとみられる。当社の状況も不透明感が強い。
		その他サービス業〔警備〕（経営者）	・この時期は大きな動きもなく推移していく。
		食料品製造業（経営者）	・天候次第である。
		食料品製造業（経営者）	・原材料価格の高騰、人件費の増加、輸送費の高騰などの理由による値上げがあるなか、消費者心理として余計な物にはお金を使わないという雰囲気になっていく。一部マスコミによる米騒動などのあおり報道も原因となっている（東京都）。
		出版・印刷・同関連産業（所長）	・何度も繰り返し値上げ交渉を行っているなか、配送費等他の部分での値上げも予測されるため、更に厳しくなる。
		出版・印刷・同関連産業（営業担当）	・全国展開をしているゴム印メーカーが今月廃業した。全国でかなりの注文を受けていたはずだが、突然廃業ということで、印鑑が下り坂なのは仕方ないことだが、ゴム印の需要も少なくなっているのではないかと考えている。また、年賀状ほどではないものの暑中見舞いの印刷も年々少なくなっている。今のところ見積依頼や図柄の問合せもまだ来ていない。そうしたことから、2～3か月先はやや下り坂になりそうな見通しである（東京都）。
		化学工業（従業員）	・今月は値上げ前の受注がかなりあったので、その分受注量が落ち込む。
		化学工業（総務担当）	・取引先から聞こえてくる情報では、末端のマーケット需要が低迷している。
		プラスチック製品製造業（経営者）	・今は米国の関税政策が大きく変わる前の段階だが、3か月後に実際に25%の関税が適用されたら、国内の景気はかなり悪くなる。
		金属製品製造業（経営者）	・得意先の生産説明によると、増産予定はなく、減産予定はあるため、先行きは少し下がる。
		精密機械器具製造業（経営者）	・米国の関税政策の影響は現時点ではまだないが、今後の動き次第でどのような影響が出るのかが分からない。
		輸送業（経営者）	・納品先店舗の廃業が新規出店を上回る傾向にあるため、2～3か月後が気掛かりである（東京都）。
		輸送業（経営者）	・世界情勢が不安定なため、やや悪くなる（東京都）。
		金融業（総務担当）	・生活に直結しているガソリン価格、米価の高止まりや食品を始めとする物価高がまだ続く。賃金も上がってはいるが、手取りは物価高に追い付いていない。観光業はインバウンドや夏休みシーズンで売上はやや上昇傾向である。不動産業は販売にやや陰りが出ている（東京都）。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		金融業（支店長）	・建設業では2024年4月以降の労働規制、更に2025年6月からの熱中症対策の義務化に伴う影響により、現場の一層の遅れが予想されている。その影響で資材の納品期日も延期されており、関連する中小企業の資金繰りが非常に悪化している。
		広告代理店（経営者）	・米価が特に上昇しているが、食材の価格高騰が続いており、取引先の飲食店では利益確保のために更なる価格改定や仕入れの見直しを検討する動きがみられる。現時点では来客数や売上を維持できているものの、物価上昇の影響が今後本格的に消費マインドにも及ぶ。また、なかなか求人がうまくいっておらず、働き手が少ないために営業規模を縮小せざるを得ない店舗もあり、利益圧迫による投資や発注の縮小が予想されるため、やや悪化方向に向かう（東京都）。
		税理士	・梅雨の期間中からの猛暑は作物の不作の兆しで、天候不順が物価に与える影響は大きい。また、7月に日本で大地震などの海外発の噂の影響でインパウンドが激減しているなどという不可解な現象を聞くが、政府やマスメディアはそうとは報道できない。デマであったと笑えることになればと考える。
		経営コンサルタント	・今年の暮れ頃から来年度を見越した受注が増加する可能性はあるが、米国の関税政策の影響、諸経費の増加が激しく、見通しが極めて不透明である（東京都）。
	x	金属製品製造業（経営者）	・今のところ、どの取引先も大型案件がなく、社内での業務に余裕があり、外注に出せる案件が少ないようである。まずは日銭を稼ぐことを考えざるを得ない。
	x	建設業（経営者）	・政治不信から消費マインドが低迷する。
雇用 関連 (南関東)		人材派遣会社（営業担当）	・例年のことだが、秋以降は求人数、求職者数が増加するため、今年も特別な要因がなければ同様に推移する見込みであり、景気は上向き（東京都）。
		学校〔大学〕（就職担当）	・消費意欲が高まれば良くなる（東京都）。
		人材派遣会社（社員）	・求職者の動向が急変する見込みがない（東京都）。
		人材派遣会社（社員）	・需要はあるものの、人材の確保が困難である（東京都）。
		人材派遣会社（社員）	・求人数については大きな変動はない。同業他社とのシェアの取り合いが続いている。
		人材派遣会社（社員）	・政治、経済環境の不透明感が強いなか、特に大きなイベントは想定されておらず、横ばい又は弱含みで推移する（東京都）。
		人材派遣会社（支店長）	・新卒や中途を含め4月入社の社員の一定数が離職することにより、新年度採用までの後任枠として派遣依頼をする企業が増えている。今後も同様のニーズが見込まれる（東京都）。
		人材派遣会社（営業担当）	・米国の政策がはっきりしない現状では先の見通しが立たないとの製造業各社の様子うかがえる（東京都）。
		人材派遣会社（支店長）	・同じような状況が続いているため、変わらない。
		求人情報誌製作会社（経営者）	・人手不足、資材高騰、物価高、為替相場、株価など、良くなる材料がない（東京都）。
		求人情報誌製作会社（広報担当）	・景気が良くなる要素も、悪くなる要素も主だっちは見当たらない。景気の良い状態が変わらず続いていくとみている（東京都）。
		求人情報誌製作会社（所長）	・変化のきっかけがあっても、変化の兆しがみえないためである。
		職業安定所（職員）	・有効求人数の減少が長期にわたって継続しており、回復の兆しもみられない。
		職業安定所（職員）	・事業主からは、人手不足だが原材料価格の高騰等で賃金が上げられないという声があり、物価上昇を上回る賃上げの実現が難しいことが予想される。
		職業安定所（職員）	・足元の求職者数に大幅な変動はみられない（東京都）。
		民間職業紹介機関（経営者）	・現在の企業からの求人と採用者数などから考えると、悪くはなっていないが特別良くなる環境でもない（東京都）。
	人材派遣会社（社員）	・採用を控える企業が増えてきており、今後もその傾向が続く。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		人材派遣会社（社員）	・物価の上昇に賃金が追いついていない（東京都）。
		職業安定所（職員）	・新規求人数は、全体としてはここ数か月、前月比で微増傾向だが、業種による偏りが大きい。製造業は減少傾向が見受けられる。
	x	*	*

5. 甲信越（地域別調査機関：株式会社日本経済研究所）

（-：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計動向 関連 (甲信越)		都市型ホテル（スタッフ）	・来月の稼働率や売上が、既に前年度の半分に達している。また、予約から宿泊までの期間が早いので、今期の売上は期待できそうである。
		タクシー（経営者）	・イベント等が開催されるため、良くなる。
		その他サービス〔葬祭業〕（経営者）	・過去最高の依頼件数に近い月が増えてきている。また、業務内容も増えている。今後もこの傾向は変わらない。
		スーパー（経営者）	・近隣スーパーの閉店のため、該当地区の取引が増える予定である。ある街の行事の仕事が増えるため、期待している。
		スーパー（副店長）	・7月の参議院選挙の各党の公約をみると、物価高騰対策や米価引下げ等、一般の生活目線の政策により目を向けており、期待している。
		コンビニ（経営者）	・夏場はやや良くなるが、生活必需品以外の物は買わない傾向が続くとみているため、前年を上回ることはない。
		コンビニ（経営者）	・猛暑が予想されるため、飲料やアイスなどの販売増加が期待される。
		高級レストラン（経営者）	・土用の丑の日、夏祭り、夏休み等、活気付く季節を迎えるため、景気は上昇に向かっていく。
		スナック（経営者）	・物価、特に、米価の高騰で混乱するとみているが、物価が上がっていくことに皆が慣れていけば、良い方向に変わっていく。
		観光型旅館（経営者）	・7月からは首都圏からの客が急増する。地元の客は激減しているが、首都圏から来る客の予約は堅調に推移している。6月以降、人件費、材料費、燃料費の上昇分を転嫁して、宿泊料金を1500円ほど上げたが、首都圏客は単価が上がっても問題なく予約している。しかし、地元客は料金アップに付いていない。地方との格差は開いている。
		都市型ホテル（スタッフ）	・今月は最悪の状態だった。7月から、各品目が再度値上げとなるが、今月以下の状態にはならない。当ホテルでは夏のピヤガーデンを開始しており、現時点で前年以上の予約を受けているため、今月よりは上向きになると期待している。
		観光名所（職員）	・国内観光客が活発に動く季節を迎える。また、7月に災害があるという予言の影響も落ち着き、訪日客も増えると思込んでいる。
		遊園地（職員）	・都心よりも涼しいことを訴求する等、夏に向けて情報発信を行うことで、より多くの客の来園を期待している。
		商店街（代表者）	・当商店街は地主が1人で、大半は店舗を借りて営業しているため、景気が悪くなって販売が落ち込むと、家賃が払えない店が多くなり、どんどん歯抜けになっている。また、新たに来る人も、食品や大型店舗がないため、商売しようとしてもなかなか難しい。当店もこれからどうすればよいかを考えなくてはならない。
		一般小売店〔家電〕（経営者）	・物価等、上がる一方の経済で、生活に余裕がない。食料を始めとして生活必需品への出費も抑えている様子が見受けられる。そうした状況では、売上を伸ばすことや維持していくことは厳しい。
		百貨店（経理担当）	・国内外、地域等の与件を鑑み、好転する気配や根拠は見当たらない。地方百貨店においてはインバウンド需要も期待できない。
	百貨店（店長）	・現在の売上動向からすると、このまま高値の安定が続くと予測している。ただし、現状から相当伸びることは難しい。	
	コンビニ（経営者）	・ここしばらく暑い時期が続くため、2～3か月先も変わらない。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		コンビニ（経営者）	・飲料などの売行きが上がってくるとみている。ただし、物価高で見掛け上の売上は増えているようにみえるが、人件費、その他経費の増加で、店舗に残る最終利益は変わらない。
		コンビニ（エリア担当）	・ボーナス支給額は増えたが、物価高騰にはまだ追い付かない。備蓄米の販売が好調となっていることがその表れである。
		コンビニ（店長）	・景気が悪いことが当たり前というか、慣れてしまっているため、今後大きく変わることはないのではないか。よほどのきっかけがあれば別だが、そうでなければ余り変わらない。
		衣料品専門店（経営者）	・商店街で買物客をほとんど見掛けなくなってきている。皆、郊外の大型ショッピングモールに買物に行くような時代になっている。
		家電量販店（店長）	・景気が活性化するような対策がない。
		乗用車販売店（経営者）	・新車のモデルチェンジ前で、受注販売は停滞が続くとみている。
		自動車備品販売店（従業員）	・既に暑い日が続いており、来客数の減少につながる懸念がある。
		一般レストラン（経営者）	・戦争や侵攻が続く限り、物価は上がる一方で、景気回復は望めない。
		一般レストラン（経営者）	・特に大きな要素は見当たらないが、往々にして国政選挙のある年は出足が鈍くなる。選挙後の急速な回復は見込めそうにない。
		スナック（経営者）	・これから暑くなってくると、納涼会等の飲み会が増えてくるので、多少は良くなる。しかし、コロナ禍明けから、早く帰る傾向であるため、なかなか厳しい。
		都市型ホテル（スタッフ）	・大幅に良くなる要素が見当たらない。法人利用はある程度見込めるものの、個人利用が伸びてこないことには期待を持ってない。消費力が高まるような政策に期待したい。
		旅行代理店（副支店長）	・物価上昇は抑えられず、旅行代金にも大きく影響が出ると考えられるため、需要は現状と変わらず横ばいとなり、売上の低迷が予想される。
		タクシー運転手	・いろいろな物が値上がりし、不安材料が多いため、客がタクシーの利用を控えている。
		通信会社（社員）	・インターネットの加入増加は今後も見込めるが、テレビは現状維持が最低限の目標になる。新規契約の純化を単価上昇で補って、最低限のペースは確保していきたい。
		通信会社（社員）	・良くなるような動きがない。
		ゴルフ場（副支配人）	・気温が高すぎると来場者数は減少する。梅雨明けも早そうので、既に高温の日も出ているため、来場者数の伸びは見込めない。
		その他レジャー施設 [ボウリング場]（経営者）	・猛暑で熱中症警戒アラートなどが発出されると、外出を控える傾向になるため、不安要素である。しかし、屋内施設で屋外と比べると天候に左右されないため、期待は持てる。
		商店街（代表者）	・7月に参議院選挙があり、政局の先が見えない状態が続く。また、今夏は異常気象も予想され、先行きの閉塞感を実感している。
		百貨店（営業担当）	・依然として、物価高が続いているため、実質賃金の上昇分が物価上昇をなかなか上回れない状況である。客の様子も慎重で、米国との関税問題がなかなか思うようにはいかないため、これから先も少し厳しい状況になる。
		スーパー（経営者）	・生鮮品の価格は沈静化するだろうが、原油価格高騰、為替相場の影響で慎重な消費を警戒している。ディスカウント店との競争も心配なところである。
		その他専門店[酒] （店長）	・諸物価高騰が常態化している。また、更にながっていくような話も聞くので、2～3か月後にはかなり状況は悪くなるとみている。1か月の予算を後半に使い切るといより、月初からお金を使ってしまって、後半は節約する傾向が見受けられる。
	×	スーパー（店長）	・物価が下がらないため、当面は現状のままか更に悪くなる。
	×	コンビニ（経営者）	・人口が減るため、必然的に景気が上向くことはない。
企業		-	-

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
動向 関連 (甲信越)		金属製品製造業（総務担当）	・半導体が回復し、やや良くなる。
		窯業・土石製品製造業（経営者）	・しばらく受注対応に追われる。併せて夏休み向けのワークショップの予約も入り始めている。
		電気機械器具製造業（経営者）	・海外メーカーの参入もあり、価格競争が厳しくなっている。
		電気機械器具製造業（従業員）	・今のところ、駆け込み受注等も予想され、特に変化はない。ただし、10月以降は駆け込み受注の反動で、受注が減ることを危惧している。
		建設業（経営者）	・工事受注量は確保できるが、利益率を考えていきたい。
		金融業（経営企画担当）	・海外からの旅行者は多いものの、物価上昇による国内消費が増えないため、変わらない。
		食料品製造業（営業統括）	・諸物価の上昇、米国の関税政策、異常な高温と悪条件が重なり、今後もこの状況は続くものとみられる。ワイン業界は、大変厳しい環境に置かれる。
		食料品製造業（総務担当）	・原材料価格の値上がりが続く見込みである。
		電気機械器具製造業（経営者）	・受注から納期までのスパンが短く、台数も少ない。買手も様子を見ながら、注文している。
		その他製造業〔宝石・貴金属〕（経営者）	・材料は、金だけではなくプラチナも高騰しており、商材作りが難しい。そうしたなかで新作を作っても、店頭に並ぶ古い在庫との価格差が大きく、なかなか仕入れに結び付かない。小売店の来客数も前年に比べて減少しているため、仕入れの減少につながっている。現状では何とか前年実績を上回っているものの、先行きの見通しは立たない。
		金融業（調査担当）	・製造業は米国の関税政策の影響を懸念する企業が多く、マインド面の低下が予想される。非製造業では観光関連の需要は底堅く推移することが予想されるものの、物価上昇や円安に伴う仕入価格の上昇が、多くの産業で収益を押し下げる見通しである。
	×	出版・印刷・同関連産業（経営者）	・毎月の資金繰りが大変である。
雇用 関連 (甲信越)		-	-
		職業安定所（職員）	・今のところ求職者が急増する要因もみられないことから、状況は変わらない。
		職業安定所（職員）	・海外情勢の変化による原油価格高騰のおそれ、物価上昇の継続、猛暑予想による米の収穫量や価格高騰等への懸念から、企業、求職者共に、マインドが上向き見込みは少ない。
		民間職業紹介機関（経営者）	・物価高の影響が、業績不安の消せない慎重な企業が多い。
		職業安定所（職員）	・新規求人数の前年同月比が11か月連続で減少している。
		職業安定所（職員）	・中国の景気が低迷していることに加え、米国の関税政策が今後の日本経済にどの程度影響を及ぼすかが不透明である。また、今後は、イスラエルとイランの戦争に係る中東情勢の不安定化に伴う原油価格の高騰等による物価上昇等が雇用に与える影響も懸念される。
		×	人材派遣会社（営業担当）

6. 東海（地域別調査機関：三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社）

（-：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連 (東海)		美顔美容室（経営者）	・8月から新たなキャンペーンを実施する。
		スーパー（店員）	・備蓄米が入荷したところ、即完売した。入荷量がみえないが、高い米も精米から1か月経つと価格を下げて販売するため期待している。
		スーパー（販売担当）	・子供が夏休みに入ると来客数が増え、必然的に売上も上がる。
		スーパー（販売担当）	・7月末に店舗を改装するため、品ぞろえが良くなり、更に売れるようになる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		スーパー（販売担当）	・今年も前年と同様に猛暑が予想されるため、暑さ対策関連商品が伸びる。食品の値上げによる影響については、原油の価格が安定しそうなことや、客も現在の価格に慣れてきていることから少し良くなる見込みであるが、この暑さが今年収穫される新米の量に影響を及ぼすことが懸念される。
		コンビニ（店長）	・今年も暑くなるとのことで期待できる。
		コンビニ（本部管理担当）	・小売業界の売上は梅雨明けのタイミングと密接に連動している。今年は梅雨明けが早まる傾向にあることが売上に良い影響をもたらす、3か月先の景気は好転する。
		衣料品専門店（店長）	・当地域の大手自動車メーカーから仕事を受けている会社も多く、堅調な景況感を取引先から感じる。暑さにより夏物の購入は続く見込みである。
		家電量販店（店員）	・エアコンの問合せが多く、売上の伸びが期待できる。
		家電量販店（フランチャイズ経営者）	・今夏もエアコンが好調に推移する見込みである。冷蔵庫の動きも良い。
		乗用車販売店（従業員）	・ここ最近の流れから、今月は少し停滞したが上がっていく見込みである。
		その他小売〔ショッピングセンター〕（経理担当）	・昔、夏季はアウトドアのイメージだったが、ここ数年の猛暑や酷暑が続くなか、室内で過ごす傾向が増加している。今年も例年に比して暑い予報のため、売上につながることを期待している。
		観光型ホテル（支配人）	・引き続き宿泊部門は順調に予約が伸びている。料飲部門も需要は弱含みの印象を受けるが、必ずしも悪化傾向には至らない。
		都市型ホテル（総支配人）	・秋に向けて期待したい。大阪・関西万博の終了に伴い客が戻ってくる。
		都市型ホテル（営業担当）	・悪くなる要素がない。予約は順調に獲得できている。
		旅行代理店（経営者）	・7～8月の夏休みシーズンに加え、秋冬の新規予約に期待している。
		旅行代理店（経営者）	・大阪・関西万博が10月まで続くことから、それまで景気は上向く。梅雨明けも早まったようで、人の移動には好都合である。
		旅行代理店（営業担当）	・夏休み、お盆休みの旅行申込みが順調に増えている。海外旅行はまだ新型コロナウイルス感染症発生前の7割にとどまっているが、国内旅行が新型コロナウイルス感染症発生前の120%程度と好調である。陰りはみられず、しばらくは上向きの見込みである。
		パチンコ店（従業員）	・繁忙期を迎える。
		その他住宅〔室内装飾業〕（従業員）	・現場稼働率はかなり落ちているが、毎日新規物件の見積り依頼がある。
		商店街（代表者）	・現状維持の見込みである。
		商店街（代表者）	・インバウンドの増加が落ち着いてきている。
		商店街（代表者）	・参議院選挙の結果にもよるが、物価高に所得の増加が追い付いていないため、現状と変わらないとみる。
		商店街（代表者）	・高齢者が主な客層のため、新しい商品が出て魅力も伝え切れない。また、現状の機能で十分といわれるため販売数の増加につながらない。
		一般小売店〔酒類〕（経営者）	・食品や酒類の値上げが、消費者の飲食店利用を控える傾向を後押ししている。
		一般小売店〔果物〕（店員）	・3か月ほどでは変わらない。
		一般小売店〔生活用品〕（販売担当）	・今年も酷暑が予想され、暑さのなかで来客は見込めない。
		百貨店（売場主任）	・例年この時期になると客からセールはいつかという問合せがくるが、今年は全くない。今週末からセールが始まるが、紳士靴は在庫をほとんど持っていないため、2週間という短期間で実施する。以前はもっと長く実施していたが、現在では在庫が少ないため月単位の実施は難しく、集中的な売上を期待するしかない。ただし、自分が欲しいときに購入する客が増えており、セール中でも売上は厳しい見込みである。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		百貨店（総務担当）	・製造業が多い当地域において、米関税の影響は大きいと想定され、今後の消費動向も大きく左右すると想定している。また、これだけ暑いと外出が控えられ、来客数が少なくなることも懸念される。参議院選挙の動向や経済対策による消費喚起策に期待したい。売上を支えるべく、急きょ特典施策等を追加実施し、売上を確保したい。
		百貨店（経理担当）	・ここに来て、売上の伸びが足踏み状態となっている。
		百貨店（販売促進担当）	・インバウンドが以前より好調なことに加え、邦人来客数も伸びて、売上の好調が継続する。
		百貨店（販売担当）	・価格改定を見据え駆け込み需要が増えるが、一過性であるため好転まではいかない。物価高が続く限り、なかなか良くはならない。
		百貨店（営業企画担当）	・変わらないと判断したが、値上げの影響等ははまだ続く見込みである。
		百貨店（販売担当）	・日傘や熱中症対策グッズなどが一気に売れ始めた。猛暑の期間が長くなる前提で仕入れを予定をしているため、夏は少し売行きが良くなると期待する。
		スーパー（経営者）	・早々に梅雨明けしそうで、野菜、果物等の生育が心配である。
		スーパー（店長）	・米価格上昇の影響で、他商品の購入にまで消費が回らない。
		スーパー（店長）	・前年は震災や停滞した台風の影響で特需があり売上が良かったが、今は必要な物以外は買わないという節約志向が定着しているため、特需がない限り買上点数が急に伸びることはない。
		スーパー（店員）	・近隣の大型店が閉店して3か月ほどたち、売上や来客数が大きく伸びて一定の数値がみえている。今から2～3か月後に大きく伸びる要素が余りない。
		コンビニ（店長）	・全てにおいて特に変化がない。
		コンビニ（エリア担当）	・本年も酷暑となる予想から、飲料、酒やアイスなど冷たい商品は好調となるであろうが、物価高が急ピッチで進んでいることもあり、定価販売のコンビニにとっては、買い控えの傾向は今後も続くことが見込まれる。
		コンビニ（店長）	・低価格帯の冷たいドリンクやアイスは売れるが、それ以外は余り期待できない。価格に見合わない質やサイズなど、コストパフォーマンスが悪い商品に対する客の失望感がみられる。また、定番商品である挽きたてコーヒーの値上げによる買い控えも懸念される。重要な来店動機を1つ失うか否かの瀬戸際である。
		コンビニ（店長）	・著しく悪くなったり良くなったりする様子はない。ただし、7月の参議院選挙の結果次第で悪くなるおそれがある。
		コンビニ（店長）	・現状のままで推移する見込みだが、消費税減税等の動きが具体化するようであれば、消費が伸びる可能性はある。
		コンビニ（商品企画担当）	・世界情勢による石油価格の上昇で、物流費などのコスト増加を懸念している。
		衣料品専門店（売場担当）	・景気が良くなるような要因が見当たらない。
		衣料品専門店（売場担当）	・3か月後でもまだ暑いことが予想されるため、スーツが売れることはない。また、夏用のスーツも売行きが悪く、それよりも安価なセットアップを購入する客が多い。現在の売れ筋は9千円台から1万5千円程度のセットアップである。良い品物を長く着るより、安い物で今期だけ着られればよいという客が多い。
		家電量販店（営業担当）	・世界情勢や我が国の政治がどうなるか分からないが、国内政治はしばらく何の動きもないとみられ、景気は2～3か月先も変わらない。
		乗用車販売店（営業担当）	・米国の関税による影響がまだ読めないが、物価高に対し賃上げで手取りは増えているため、良くも悪くも変わらない。
		乗用車販売店（経営者）	・車両への支出は必要経費であるため、最低限必要な作業の依頼はあるが、ぎりぎりまで修理せずに持たせる様子が見える。
		乗用車販売店（経営者）	・米の価格に代表される物価の上昇が消費者の財布のひもを固くしているのか、車両価格も上昇しているためか、新車販売が伸びない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		乗用車販売店（経営者）	・大きく動く要因が見当たらないため、今の状況がしばらく続く。
		乗用車販売店（経営者）	・今後は異常な暑さが客の需要を減少させる。
		乗用車販売店（従業員）	・取扱車種の半数以上が販売停止になっており、販売台数は年々減少しているが、販売再開した車種を大切に売ること、以前より利益率が改善されている。
		乗用車販売店（従業員）	・新型車両も続々と発表や発売がされ、客にアピールする機会は多くなってきた。夏季ボーナスや夏季休暇を控え、客の行動も日頃より活発になることを期待する。しかし、客の要望する車両がすぐに届かないという状況は変わらず、もどかしさやいら立ちを抱えている。
		乗用車販売店（従業員）	・秋以降に新型車の発売を控えていることもあり、様子見の客が増えているが、日常で使いやすく維持費が安いことから軽自動車の販売が好調になっており、今のところは現状維持の見込みである。
		乗用車販売店（従業員）	・現在の悪い状態が続く。よほど大きな起爆剤があれば別だが、先行きへの不安感が拭えない。
		乗用車販売店（営業担当）	・今のところ量販車のモデルに改良の予定もなく、新規客も減ってきている印象で、上向きになる要素がない。
		その他専門店〔書籍〕（社員）	・輸入商品は為替の影響もあるが、夏の期間は販売量が落ち着いている。
		高級レストラン（経営企画）	・物価高騰等により節約志向が進む一方、低価格帯の商品やハレの日の需要は期待される。
		一般レストラン（経営者）	・物価高が影響している。
		一般レストラン（従業員）	・物価高対策による。
		その他飲食〔仕出し〕（経営者）	・世界や社会問題のめどが、短期的・長期的に立ってくるかどうかによって景気は左右される。
		その他飲食〔ワイン輸入〕（経営企画担当）	・取引先の中には、再び円安が進みガソリン価格や光熱費が上昇すると先行きを不安視する人が増えている。そのため、見積り依頼は多いものの成約率は下がっている。
		観光型ホテル（経営者）	・8～9月の予約数をみると前年比では8～10%ほど伸びており、やや良い状態のまま変わらない。街角の景気が良いかは分からないが、自店に関しては比較的安定している。震災を予言する風評がなければ、更にインバウンドの伸びが期待できた。
		都市型ホテル（従業員）	・予約数から判断した。
		都市型ホテル（経営者）	・米国の関税や地域紛争など不透明感はあるが、景気にすぐ影響が出るような変化は見受けられない。
		旅行代理店（経営者）	・参議院選挙があるため、一旦旅行需要は落ち込むことが予想され、また、選挙の結果によっても旅行需要の動向が左右される。
		旅行代理店（経営者）	・猛暑日の増加など天候の影響で外出が減るとともに、モノの所有からコト消費に移るなかで市内の繁華街や地下街だけでなく、郊外のショッピングセンターにおいても撤退していくテナントが目立つ。郊外のアウトレットモールができることで、既存のショッピングセンターや路面物販店舗の維持がますます難しくなっている。
		タクシー運転手	・夏のボーナスが出れば一時的に繁華街の人出は増えるが、長続きしない。これから夏に向かって気温がかなり上昇するため、それに伴う出足が多くなることを期待したい。急な変化はないかもしれないが、乗車率の上昇を期待する。
		通信会社（営業担当）	・毎月のようにランニングコストの増加が提示され、上向く要因が見当たらない。
		通信会社（サービス担当）	・少し前までは、景気が悪いせいで外出を控え、自宅で楽しむためにネット回線を申し込む人が多かったが、最近の傾向は変わっている。
		テーマパーク（職員）	・今のところ、良くなる見通しが立たないため変わらない。
		テーマパーク職員（総務担当）	・早期の梅雨明けが予想されており、天候に関しては有り難い反面、気温が高くなり過ぎると人々の外出が控えられるため、今夏も集客状況は横ばいの見込みである。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		ゴルフ場（経営者）	・世界情勢が不安定であるため先行きの不透明感が強い。
		その他レジャー施設 〔鉄道会社〕（職員）	・特に好況となる材料がない。
		美容室（経営者）	・物価高を嘆く声は聞かれるが、賃金が上がったという話題は出てこないため当分この状況が続く。
		美容室（経営者）	・夏休みやお盆の時期は来客数が増えるが、暑さで外出を控える客も増えるため、結果として大きく変わらない。
		住宅販売会社（従業員）	・しばらく現状のままである。
		その他住宅〔不動産賃貸及び売買〕（営業）	・物価上昇が止まらない限り景気の回復は無理である。
		商店街（代表者）	・米の価格が上がり、古米である備蓄米を購入するために大変な行列ができてきている様子を見ると、それだけの労力を掛けてでも少しでも安く買いたいという、涙ぐましい努力をしなければいけないほどに家計が苦しくなっていることを実感する。梅雨もあつという間に終わってしまい、雨不足で今年の米の収穫も減るかもしれない、更に価格が高騰するのではと不安である。先行きに希望が持てない。
		一般小売店〔生花〕（経営者）	・物価高が続く限り、生活必需品は買わざるを得ないが、余分なものは買わないという傾向が継続する。
		百貨店（企画担当）	・今年の夏も酷暑と予想され、ほぼ毎日メディアや行政から不要不急の外出を控えるよう警告が出されることが想定される。中高年層が主力顧客であるため、前年と同様に来店を控える客が増えることが懸念される。
		百貨店（経理担当）	・食品やガソリンなどの価格は引き続き高止まりが見込まれるほか、中東情勢や米国の関税政策が企業業績と所得環境の悪化を招くことで、景気は後退局面に移行する。
		百貨店（営業担当）	・インバウンドは回復の兆しがみられず、その他の顧客においても買上客数が減少しており、生活防衛の兆しがみえ始めている。
		百貨店（営業担当）	・食料品の物価が高止まりしており、生活防衛意識が今以上に高まっていく。
		スーパー（店長）	・商品の値上げ要請は継続しているが、競合とは価格競争の状態になっている。
		スーパー（店員）	・初夏を代表するスイカの価格が予想よりも高い。野菜などは安価になっているが、夏の正午から夕方にかけての時間帯は暑さのため出歩かない傾向があり、売上を伸ばす要因が見当たらない。
		スーパー（店員）	・米が備蓄米の放出を受けて単価が下落傾向にある。
		スーパー（支店長）	・今年も早々に猛暑に見舞われ、関税問題への懸念や物価の上昇がますます消費減退の要因となる。今後も景気が上向く様子はない。
		コンビニ（企画担当）	・地政学リスクが増大していることを考えると、今後経済が不安定な状態になる可能性がある。景気は悪くなる可能性の方が高い。
		コンビニ（エリア担当）	・景気が上向く要素が思い当たらない。
		コンビニ（店長）	・たばこや飲料だけ購入するという人が増えており、1人当たりの買上点数が減少している。
		衣料品専門店（販売企画担当）	・客の話聞いても、給料や年金が低く、厳しいという意見ばかりである。
		乗用車販売店（販売担当）	・国産SUVに関してはそこそこ好調であるが、セダンタイプの車がほぼ売れなくなっており、販売台数を引き下げている。
		一般レストラン（経営者）	・暑さが厳しくなり、外出を控える人が増えて売上が伸びない。
		旅行代理店（営業担当）	・過去に7～8月で団体旅行行事を行っていた客が、暑さ対策として4～6月又は9月下旬以降へ時期をずらすケースが増えてきた。
		テーマパーク（職員）	・大阪・関西万博が終わるまで来客数は少ない見込みである。
		パチンコ店（経営者）	・景気の良い話がない。
		理美容室（経営者）	・物価高で生活が苦しくなる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		美容室（経営者）	・米の価格、円安による影響もあるが、国全体がもっと裕福にならないと状況は変わらない。
		その他サービス〔介護サービス〕（職員）	・輸送費や水道光熱費、商材調達費等、依然として値上がり傾向が続いている。
		設計事務所（職員）	・世界情勢がいろいろと変わっているため、景気は悪くなる。
		住宅販売会社（従業員）	・今年も猛暑が予想され、屋外が多い会場イベントの来場者数は増加しない。
		その他住宅〔住宅管理〕（経営者）	・リフォームの話があっても、見積りを出すと返信が鈍くなる。施工に時間が掛かり、仕事にならない。いつまでこの状態が続くのか、3か月先が心配になる。
		その他住宅〔展示場〕（従業員）	・酷暑により来客が落ち込む。
	×	衣料品専門店（経営者）	・残暑で秋物の売れる時期がずれ込む。
	×	一般レストラン（経営者）	・自身の体調不良のため、売上は落ちる一方で、客にアピールできることもなくなっている。
	×	タクシー運転手	・物価高騰への対応が期待できない。
	×	通信会社（企画担当）	・米国の関税による先行きの不透明感、政府の景気対策への不安感など、先の見えない状況が更に続き、景気悪化の局面となる。
	×	観光名所（案内係）	・異常な天候が続き、四季がはっきりしなくなってきた。これから夏本番を迎えるが、前年と同様に秋らしい秋がなく、10月頃まで暑いままでその後突然寒くなる可能性がある。さらに、物価がどんどん上がっており、悪い傾向である。
	×	設計事務所（経営者）	・悪い状態が続いている。
	×	住宅販売会社（従業員）	・輸入資材の高騰が加速する見込みで、リフォームも頭打ちになってきた。
企業 動向 関連 (東海)		-	-
		一般機械器具製造業（営業担当）	・米国の関税方針が決まるまで停止していた半導体関連の設備投資が動き始めた。
		輸送業（従業員）	・同業他社において、不正による事業用トラックの使用停止処分事案が発生し、今後他の事業者へ業務の外注案件等が増えてくる。
		輸送業（エリア担当）	・物量は微増で安定している。ガソリン等の物価高による単価交渉は回答待ち状態である。
		輸送業（エリア担当）	・米国の関税政策が固まり、企業の対応策が打ち出せるようになる。
		金融業（従業員）	・米国の景気が少しずつ回復状態にあること、夏休みなどで人の動きもあることから、景気は多少回復する。
		パルプ・紙・紙加工品製造業（顧問）	・現在の景気も余り良くない状況であるが、2～3か月先も同様に物価高、米国の関税等により良くなる気配がない。現状維持の見通しであり、余り変わらない。
		化学工業（営業担当）	・A I向け最先端技術に使用される電子材料薬品の好調が続く。
		化学工業（総務秘書）	・特段、景気に悪影響を与えるトピックがない。米国関税が10%以上だと景気には悪影響が出る。為替は120円より円高が進むと輸出企業の業績が厳しくなり、悪影響が出てくる。
		窯業・土石製品製造業（社員）	・特定客のみではあるが、急に注文量が増えたため数か月は好調が続く見込みである。米国の関税による影響を受けて受注減少となりそうな客の情報は今のところない。
		一般機械器具製造業（経営管理担当）	・受注量、販売量の見込みから判断した。
		電気機械器具製造業（営業担当）	・次期製品が出るまでは余り変化しない。
		電気機械器具製造業（経営者）	・取引先の設備投資に対する予算が余り変わらないなかで、競争が増えておりなかなか販売することが難しくなっている。この状況が2～3か月先も続く見込みである。
		輸送用機械器具製造業（管理担当）	・不安要素が多いなか、参議院選挙も控えており先が見えない。米国の関税も始まるためどうなるか分からない。
		輸送業（経営者）	・経済環境に変化がない。
	輸送業（従業員）	・米国の関税がどうなるかまだ分からないため、荷主も今後の展開について答えを先延ばししている。運送業界の先行きの判断は難しい。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		金融業（企画担当）	・コスト上昇分を受注価格に転嫁できるようになるにはもう少し時間が必要である。また、中小企業では賃上げに限界があり、賃上げが中小企業にまで及ばないと個人消費の伸びにも限界がある。当面現状の景気が続く。
		不動産業（経営者）	・今後は前年よりも晴れの日が多くなりそうであり、外出や遠出をする人は増加することが見込まれる。今後の売上は増加し、前年を上回る状況が続く。
		広告代理店（制作担当）	・今夏も異常な暑さが予想されるため、屋外などのイベント企画を控える企業が見受けられる。
		新聞販売店〔広告〕（店主）	・単発的な特需は期待できても、長期的に難しい。気温の急上昇が外出控えにつながり、需要の減少が懸念される。
		公認会計士	・米国の関税問題やウクライナ問題、中東での海外情勢の悪化などにより、投資を控える企業が多く見受けられる。金利上昇の懸念から、融資を受けて設備投資をする企業も多くはなく、しばらくは横ばいが続く見込みである。
		行政書士	・現状維持である。
		会計事務所（職員）	・夏のボーナスが支給される時期になる。個人消費者相手のところはボーナスの額も少額だが、法人相手のところは相応の金額の支給を予定しているところが多い。お中元の時期でもあり、一時的に消費は増えるかもしれないが、景気が良くなっていくとは考えられない。
		食料品製造業（社員）	・国内販売は、清酒の販売価格を見直すことが必須になってきており、その影響で販売数量の減少が懸念される。
		金属製品製造業（従業員）	・秋からの仕事量に不安を抱える声が多い。建設プロジェクト案件は工程が伸びている事例が多い。
		電気機械器具製造業（企画担当）	・今回の値上げはコストアップによるものであり、需要が抑えられても値段が下がるとは考えられないため、給与が上がらない限り景気の下振れ傾向は続く。
		電気機械器具製造業（経営者）	・海外向けの製品を製造している割合が非常に高く、関税等の問題が長い期間影響する。
		輸送用機械器具製造業（品質管理担当）	・世間の物価上昇に対して、賃上げが全く追いついていないため苦しい状況が続く。
		建設業（役員）	・これからの時期、住宅販売は梅雨明けの暑さと夏休みに入る影響で、例年来場者数が落ち込むため期待薄である。
		輸送業（従業員）	・大手企業は賃金が伸びるものの、中小企業等はそこまで伸びていない。しかし、物価等が上昇し生活に大きな影響を及ぼしている。今後経済が上昇する好材料もみられない。
		通信業（法人営業担当）	・物価が上昇を続けている。企業が利益を削って事業運営するにも限界があり、雇用確保問題に発展するも時間の問題である。
		金融業（従業員）	・2万円の給付政策が検討されているが、それでは景気は回復せず、今後の見通しも悪い。
		会計事務所（職員）	・客先から今後半年間の生産計画が届いたが、米国の関税による影響のためか海外向け製品の生産数が減っており、売上の減少が予想される。この先関税がどの程度売上に影響するのか不透明な部分があり不安である。
		その他非製造業〔ソフト開発〕（経営者）	・米国の関税がボディーブローのように厳しく効いてくることで、徐々に不況感が強まる。株価は今年最高額を記録したが、もろくも崩れると予想する。
	×	食料品製造業（営業担当）	・受注数、販売数が減少している。
	×	鉄鋼業（経営者）	・全体の売行きが悪すぎる。関税やその他の動きの停滞により、荷動きは通常より20%以上減少している。
	×	金属製品製造業（経営者）	・引き合いも減少しており、今後ますますの減少が続く見通しである。
雇用 関連 (東海)		-	-
		-	-
		人材派遣会社（営業担当）	・参議院選挙の結果にもよるが、現政権では景気回復への期待は持てない。
		アウトソーシング企業（エリア担当）	・現在、米国の関税による影響はまだみられないが、今後の影響が懸念される。人材募集では外国人労働者の動きはあり、募集を行えば応募者は得られる状況だが、派遣先は絞られる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		職業安定所（職員）	・米国の関税政策や人件費、光熱費の高騰の動きを注視する必要はあるが、今のところ大きな影響はみられない。
		職業安定所（職員）	・中小企業においては、原材料価格やエネルギー価格の高騰などを価格に転嫁できていない状況が継続しており、賃上げなど人件費に費やす予算の捻出が困難になっている産業も見受けられる。一部産業での人手不足感は継続しているものの、国内の消費動向や米国関税の動向が読めないため、人手不足であっても新たな求人の提出を控え、様子見をしている業種も散見される。この先の経済動向が予測できない状況ではあるものの、現段階において大きな生産調整などの情報は入っておらず、景気動向について、当面大きな変化は生じないと判断している。
		職業安定所（職員）	・原材料費の価格や燃料費の高騰は、依然として企業に影響を与えている。人材確保についても人件費の上昇と働き方改革などにより、求人を手控える様子がみられる。
		職業安定所（職員）	・求人数の増減に大きな変化がない。求人事業所から、関税の影響など外的要因により積極的な投資ができないという声が聞かれ、今後も大きな変化はない見込みである。
		職業安定所（職員）	・まだ大規模な雇用調整の話は出ていないため、所得は安定し消費が大きく落ち込んでおらず、短期的には持ちこたえられる見込みである。
		民間職業紹介機関（営業担当）	・引き続き採用ニーズは高止まりであり、トレンドとしてはそこまで変わらず10月入社に向けて活動する転職希望者が動く時期でもある。
		民間職業紹介機関（窓口担当）	・前年度から変わらず求人数は多いが、マッチング度合いやマッチング後の継続就業について以前のような長期的な視点を持った求職者が少ない印象を受ける。今後は更なる人材リソースの募集が鍵となる。
		学校〔大学〕（就職担当）	・新卒採用に関して2～3か月先の変化の予兆はない。
		学校〔専門学校〕（就職担当）	・前年度に採用実績がある法人の今年度実績が同日対比で減少している。複数の法人にその傾向がみられ、前年よりも採用が抑制されている。
		人材派遣業（営業担当）	・国政選挙の結果によって見通しが大きく変動する。
		人材派遣会社（社員）	・夏季イベントの告知等を行っているが、予約状況は余り良くない。
		人材派遣会社（営業担当）	・米国の追加関税は自動車で25%の上乗せが現実的になってきており、自動車部品メーカーは影響を受ける可能性が見込まれる。
		人材派遣会社（営業担当）	・人材不足が進む一方で、求職者数が増加することは考えにくく、更に人材不足が深刻になっていく。
		職業安定所（職員）	・物価上昇と人手確保のため賃上げせざるを得ない状況にあり、増員ではなく現状維持の求人募集が多く、積極的な求人活動とは様子が異なる。
	x	人材派遣会社（社員）	・例年求職者数が低迷する夏季に入り、より一層成約に結び付く人材の確保が困難になる。

7. 北陸（地域別調査機関：一般財団法人北陸経済研究所）

（-：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計動向関連 (北陸)		-	-
		商店街（代表者）	・今年は梅雨明けが早いと予報されており、高齢者の多い日本人はますます歩かなくなるとみている。反面、円安が続いているためインバウンド需要には期待が高まっている。
		スーパー（仕入担当）	・能登半島地震の影響が落ち着き、前年にはなかったイベントや観光の需要回復が見込める。
		コンビニ（店舗管理）	・高止まりしている米の価格が若干下がるとみている。
		乗用車販売店（経理）	・株価が上昇傾向にあること、高額車や新型車の受注が引き続き好調なことなどから、景気はやや良くなるとみている。
		競輪場（職員）	・他の競輪場の売上も好調であり、関連するネット番組や広告も好評である。販売量の増加には、賃上げによる影響も出ているとみている。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		商店街（代表者）	・ 今後はボーナス支給後の消費や夏のレジャー関連商品の動きに期待したい。
		一般小売店〔書籍〕 （従業員）	・ 米の価格が下がっており景気が上向く傾向はあるが、多品目で値上げや資材高騰などもあり、全体としては現状と変わらないとみている。
		百貨店（売場主任）	・ 猛暑になるほど外出を控える傾向があることや最近の物価高騰で生活防衛意識が強まるなど、明るい材料が見当たらない。米国の関税政策を受けた日米交渉が長期化しており、不透明な状況が続いていることから、先行きについても潜在的に不安を抱く客が多いとみている。
		スーパー（店長）	・ 商品価格は現状維持、若しくは上がる傾向にある。客単価の上昇は高品質商品の購入によるものではなく、値上げ分によるものである。
		スーパー（総務担当）	・ 米の価格が安定しない状態が続いているが、新米の価格動向によっても左右されるとみている。また、天候の影響を受ける作物の出来によって、今後の動向が変わるとみている。
		コンビニ（店長）	・ コンビニに対する客のニーズは、利便性からぜいたくを求める流れになりつつある。今ではコンビニよりも飲食店の方が安い昼食を提供しており、かつては節約のためのコンビニ弁当だったのが、今やぜいたく品に変化している。コンビニで2000円を払って昼食をとる時代はまだ先になるとみているが、近いうちに利便性を強みとしたコンビニ事業自体に大変革がないと淘汰されると考える。このような状況でも来客数は横ばいで推移しており、最近の景気は悪くない。今後もしばらくは今と大きく変わらない状況が続くとみている。
		衣料品専門店（経営者）	・ 現在の節約志向から消費が拡大する兆しはなく、当面現状のまま推移していくとみている。
		家電量販店（店長）	・ 主要商品の客単価が前年に比べて大きく下がっている。
		乗用車販売店（経営者）	・ 物価高が継続しており、客の可処分所得が増えていない状況が続いているため、景気は変わらないとみている。
		乗用車販売店（従業員）	・ 物価上昇が収まらない限り、しばらく景気状況は変わらないとみている。
		乗用車販売店（総務担当）	・ ボーナス支給により自動車のような単価の高い商品への購買意欲は高まる。一方で、物価上昇による節約志向も拡大しており、プラスとマイナスの要素を合わせると、大きくは変わらないとみている。
		住関連専門店（役員）	・ 緊迫する国際情勢の影響で世界経済が不安定になっているなか、国内の市況もより一層不安定さが増している。この状況が消費マインドの低下に直結し、景気はより悪化するとみている。
		その他専門店〔酒〕 （経営者）	・ 現在が景気の谷だと考えたい。これ以上景気が悪くならないように祈るのみである。
		その他小売〔ショッピングセンター〕 （統括）	・ 食料品の価格上昇による客の節約志向は今後も継続すると見込んでいる。
		高級レストラン（スタッフ）	・ 前年は能登半島地震の復興支援事業などがあり春以降は来客数が伸びたが、今年はその反動か、県外からの来客数が減少している。特に20人を超える県外団体客は前年比70%ほどに落ち込んでいる。
		スナック（経営者）	・ 春から景気が段々と下がり、良い材料がない状態である。しばらくこの状況が続くとみている。
		観光型旅館（経営者）	・ 猛暑や大阪・関西万博の影響があるのか、夏休み期間も平日の空室が多くみられる。直前の集客に期待したい。
		観光型旅館（経理）	・ 能登半島地震の発生以降休業状態で、営業再開までにまだかなりの期間を要する。
		都市型ホテル（スタッフ）	・ 宿泊の予約は増えているが、最近では直前のキャンセルが多いため楽観はできない。レストラン部門も来客数回復の勢いがみられない。
		都市型ホテル（役員）	・ 7月下旬まで個人客の予約状況が弱い。客室の販売価格を下げたとしても稼働室数を増やし、売上の最大化を図る予定である。
		タクシー運転手	・ 大阪・関西万博の開催期間が後半に入る。当県の観光客はそれほど増えないと考える。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		通信会社（営業担当）	・販売台数が前年と変わらない。大きな起爆剤がないと現状変化しづらい状況である。
		通信会社（役員）	・契約数は前年と同レベルで推移するとみている。
		パチンコ店（経理）	・参議院選挙の結果にもよるが、現状では消費活動を押し上げる施策が見当たらない。
		美容室（経営者）	・物価高や中東情勢の緊迫化、参議院選挙などがあり景気の予測がつきにくい。客のボーナスの支給額は増えている。
		住宅販売会社（従業員）	・契約件数は今後も前年と同水準で推移しそうだが、単価を上げた分売上は増えるとみている。客が求める性能と価格で、客の納得を得ていく状況は変わらないと考える。
		住宅販売会社（従業員）	・展示会などイベントの来場者数に変化がみられない。
		一般小売店〔事務用品〕（店長）	・気温上昇や世界情勢の悪化に加え、物価高が収まる見通しも立たない状況から、景気は悪くなるとみている。
		百貨店（販売促進担当）	・今年も猛暑が継続し、秋らしい時季がないまま冬になるとみている。四季に合わせたファッションの購買意欲は高まらない。
		百貨店（販売担当）	・食品などの生活必需品を中心とした物価高騰の影響を受け、衣料品や装身具などの購入は後回しになるとみている。セールの拡大や低価格商材の導入を実施しても、客の買い控えは当面続くとみられ、景気は悪化傾向になると考える。
		衣料品専門店（経営者）	・社会情勢や気候が目まぐるしく変化するなかで、おしゃれに投資する余裕がなくなってきたのではないかと考える。
		家電量販店（店長）	・物価高への対策が何もないため、賃上げが物価上昇に追い付いていない。
		一般レストラン（店長）	・7月以降の予約状況に明るい兆しはない。7月に日本で地震が起こるというSNSでの噂の影響が、インバウンドが急減している印象を受ける。
		通信会社（職員）	・国内情勢、世界情勢共に好転する要素がない。
		テーマパーク（役員）	・先行予約の状況では、国内の団体客やインバウンドの予約数が前年同期と比較してやや悪くなっている。
		その他レジャー施設〔スポーツクラブ〕（経営者）	・社会情勢が悪化しているため、景気はやや悪くなるとみている。
		住宅販売会社（従業員）	・金利の水準が比較的安定しており駆け込み需要が期待できない。また、物価上昇が止まらない現状では、住宅建築を後押しする要因が少ない。住宅の着工数が減少しており、新しいチャネルの開拓が急がれる。
		住宅販売会社（営業）	・住宅販売業では、直近3か月において景気浮揚の好材料はほぼない。原材料価格の高騰や住宅ローン金利の引上げ、改正建築基準法・改正建築物省エネ法の全面施行による着工遅れが重なり、景気は大きく押し下げられるとみている。
	x	-	-
企業 動向 関連 (北陸)		金属製品製造業（経営者）	・2～3か月先の注文の入り具合がやや良くなっている。
		電気機械器具製造業（営業担当）	・既に見積書を提示している複数の新規プロジェクトに動きがあり、発注される見込みの案件が出てきている。新製品の受注状況が前年に比べて非常に悪かったが、ようやくこの先の動きが見えてきている。
		不動産業（経営者）	・法人や個人にかかわらず、客からの問合せが少しずつ増えており、期待感が強まっている。
		税理士（所長）	・世界情勢など不安材料はあるものの、ボーナス支給に伴って購買意欲の高まりが期待できる。
		食料品製造業（経営企画）	・中国の日本産水産物輸入停止措置が撤廃されることを心待ちにしているが、それ以外には好材料が見当たらない。
		プラスチック製品製造業（広報）	・受注量や販売量の見込みに特段の変化がみられない。
		一般機械器具製造業（経理担当）	・自動車用部品の受注は依然として低調だが、オートバイ用部品においては輸出向けを中心に受注が好調である。産業用製品においても受注状況は順調で、当面は継続しそうだ。
		一般機械器具製造業（総務担当）	・米国の関税政策がどの程度影響してくるかは、まだ不透明なところがある。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		建設業（経営者）	・市の発注工事は件数が少ないため、市からの受注に頼っている業者は厳しい状況だが、県や国からの仕事を請け負っている業者はそれなりに受注できるとみている。
		輸送業（管理会計担当）	・足元の受注量の状況はこの先も変わらないとみている。
		通信業（営業）	・現状、景気が好転する材料がなく、米国との関税交渉や米国における減税などの景気対策の効果も不透明である。一方で特段の不安材料もないため、現状のまま変化はないとみている。
		司法書士	・3月決算の事業報告では、今期は良いが今後の状況は不明というものが多い。
		繊維工業（総括）	・米国の関税政策の先行きが読めず、特に自動車関連の取引先に、発注を様子見する姿勢が強まっている。
		建設業（役員）	・米国政権の関税措置に加え、中東情勢の緊迫化など先行き不透明で、景気の行方を判断しづらい。
		輸送業（経理）	・原油価格高騰の影響が出ているため、景気はやや悪くなるとみている。
		金融業（融資担当）	・販売単価の上げは実現するものの、価格転嫁以上に原価や人件費などが上昇しているため、利益ベースでは悪化傾向の中小企業が多い。米国の関税政策に対する懸念も残っており、厳しい状況が続くものとみている。
	x	-	-
雇用 関連 (北陸)		新聞社 [求人広告] (担当者)	・求人数が増加見込みである。
		人材派遣会社 (社員)	・求人数、求職者数共に若干の増加傾向にあるが、長期の積極的な求人は以前と変わらず少ない。アンマッチが続いている。
		新聞社 [求人広告] (営業)	・これまでと似たような状態が続いており、景気の変化する兆しはみえない。
		職業安定所 (職員)	・米国の関税などによる影響で、先行き不透明とする企業がある一方で、業績が好調で積極的に採用したいとする企業もあるため、全体的に変わらないとみている。
		職業安定所 (職員)	・人件費や原材料費、燃料費、水道光熱費の高騰などで企業を取り巻く環境が厳しくなり、有効求人倍率が徐々に下がっている。米国の関税政策や中東情勢の緊迫などで先行きを不安視する事業所は少なくない。
		民間職業紹介機関 (経営者)	・業界によってばらつきがあるものの求人の動きに変わりはなく、求職者数も頭打ちの状況であることから、全体として大きな変化は期待できない。
		学校 [大学] (就職担当)	・物価上昇や円安、能登半島地震と奥能登豪雨災害の影響に加え米国の関税政策による影響が懸念され、状況が好転する要素や気配がみられない。
		人材派遣会社 (役員)	・米国の関税引上げに対する先行きの不透明感が強く、派遣先企業のマインドが落ちている。
		職業安定所 (職員)	・求職者数が増加している。特に、収入の足しに働きたいと考える高齢者が増加している。
		x	-

8. 近畿（地域別調査機関：りそな総合研究所株式会社）

（-：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連 (近畿)		コンビニ（経営者）	・今後も大阪・関西万博の来場に伴い、来店する動きが増える見込みである。その対策として店内のワゴン台数を増やし、商品数の増加を図っている。
		コンビニ（店員）	・大阪・関西万博に伴う需要やインバウンド需要など、今後はまだ増えることが予想されるため、勢いのある状態が続く。
		タクシー運転手	・大阪・関西万博の開催効果や、暑さの影響でタクシーの利用率が高まる。
		一般小売店 [鮮魚] (営業担当)	・8月に受注予約が入っているため、少し良くなる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		一般小売店〔手ぬぐい〕（経営者）	・大阪・関西万博の開催に伴う需要が見込まれる。
		百貨店（企画担当）	・株価の上昇傾向により、時計などの高額品の売上が外商を中心に回復すると予想される。
		百貨店（サービス担当）	・夏休み期間を迎え、大阪・関西万博の来場者数の増加が予想される。今後は、万博関連商品の効果や新規の催事、新ショップの導入効果で、来客数の増加と売上の拡大が期待される。
		スーパー（企画担当）	・前年は雨の日が多かったが、今年は梅雨も早々に明けて晴れの日が続いている。スーパーは天候が売上に大きく影響するため、前年を上回することは間違いない。一方、今後は鶏肉価格の上昇や、気温の上昇による葉物野菜の価格高騰などを考慮した販売計画が必要となる。
		スーパー（企画）	・食品価格の上昇傾向は続くと予想されるが、消費者の関心が高い米の供給が安定し、価格が落ち着くことで、買い控えの動きが弱まる。
		コンビニ（経営者）	・大阪・関西万博の期間中は、今の来客数の水準が維持できるほか、各商品の値上げがまだ続いているため、客単価の上昇傾向にも期待される。
		コンビニ（経営者）	・これから祭りやイベントが増えるため、好影響に期待している。
		コンビニ（経営者）	・異常な暑さが続く季節となり、売店やコンビニでの買物が増え、飲料の売上の増加が見込まれる。
		コンビニ（経営者）	・当地区では秋祭りが始まる10月までは売上が増える。今年の名物の秋祭りに訪れる外国人旅行者が、大幅に増えると予想される。
		コンビニ（店員）	・長期休暇もあるため、売上はもう少し増えそうである。
		その他専門店〔ドラッグストア〕（店員）	・7月はボーナス支給月であり、猛暑による夏物商材の売上増が期待されるため、景気の回復が実感できそうである。
		高級レストラン（スタッフ）	・連休やお盆休みといった休暇が続くため、予約の動きは早まりそうである。
		その他飲食〔ファーストフード〕（店員）	・当店は京都と奈良の境にあり、インパウンドが多い。大阪・関西万博もあって、しばらくはインパウンドの来店が繁盛すると予想される。
		都市型ホテル（客室担当）	・大阪・関西万博による影響が非常に大きい。
		都市型ホテル（販売促進担当）	・客室部門は、稼働率が86%と前年とほぼ同じであり、単価を上げて利用が続いているほか、先の予約も順調に入っている。レストランのランチも、料金を上げた4月以降も順調に上向いている。
		タクシー運転手	・梅雨が終わって本格的な暑さが始まるほか、夏休みに入るため、タクシーの動きが増えてくる。
		通信会社〔貴金属オークション〕（経営者）	・世界情勢が不安定なときは、地金相場が一時的に上昇するため、2～3か月は上昇傾向が続くと予想される。
		通信会社（社員）	・地域経済はやや回復基調にあるが、夏のボーナス支給額などの改善が大きな要因とみられる。
		通信会社（社員）	・夏商戦やスマートフォンの新製品発売に伴う、他社からの乗換え客の増加に期待している。
		その他住宅〔展示場〕（従業員）	・依然として住宅価格の高騰による影響はあるが、特にシニア層の成約が増えており、今後もその傾向が続くと予想される。
		一般小売店〔花〕（経営者）	・食料品などの価格の上昇が続くほか、米国との関税交渉も進まず、景気の安定が見込めない。
		一般小売店〔野菜〕（店長）	・世界情勢が不安定であり、米価格の問題もあるため、大きくは変わらない。
		一般小売店〔菓子〕（営業担当）	・7月になれば販売量が少し増えそうであるが、余り期待はできない。
		一般小売店〔書籍〕（管理担当）	・大阪・関西万博の開催期間中は、現在の好調が続くと予想される。
		百貨店（広報担当）	・足元のトレンドがしばらく続くと予想される。
		百貨店（管理担当）	・大阪・関西万博の開催もあと3か月余りであり、閉幕後の集客策などが喫緊の課題となる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		百貨店（販促担当）	・変化につながる材料が見当たらず、現状の厳しい傾向が続くと予想される。今年の夏も厳しい暑さとなるため、来客数の増加は期待できず、来店客の購買率や客単価を上げるための対策を立てていく。暑さ対策や揚げ物商材、涼感商材などで変化を出し、需要喚起を図っていきたい。
		百貨店（販売推進担当）	・為替や株価なども落ち着いており、景気の極端な変化はないと予想される。
		百貨店（外商担当）	・インバウンド売上の回復は当分見込めないものの、海外のブランド品や高級時計の在庫が増えることで、国内の富裕層に動きが出る可能性が高い。
		百貨店（マネージャー）	・インバウンド売上の落ち込みが大きいほか、足元の国内需要の落ち込みも少なくなく、余り良い材料が見当たらない。インバウンドは、中国、香港、台湾の中華圏を中心とした需要の減少が特に顕著である。これには、根拠の薄い7月5日の地震発生予想が少なからず影響している。国内客は来客数とともに単価も悪化しており、世界情勢の不安定さによる環境面の不安が大きく、消費を抑制しているとみられる。
		百貨店（マネージャー）	・全体の動きは変わらないと予想される。インバウンドが苦戦し、富裕層は堅調に推移する一方、国内の中間層は、夏休みに向けたレジャー商材や清涼商材の動きが期待される。ただし、消費の選択が進むことで、来客数の減少が危惧されるため、今後は魅力のあるコンテンツによる訴求が必要となる。
		百貨店（営業推進担当）	・物価上昇のイメージが、消費マインドを鈍化させている。
		百貨店（外商担当）	・来客数は現状の傾向が続く予想のなか、国内の富裕層の購入意欲は上向き期待が高まっている。
		百貨店（マネージャー）	・米の価格は新米の流通である程度は落ち着くものの、中東情勢の不安定化で原油価格の高騰も予想されるため、今後も節約志向が続くと予想される。
		百貨店（宣伝担当）	・大阪・関西万博関連商品の売上が好調であるなど、万博効果が出ている反面、インバウンドの客単価が低下する傾向は、万博の期間中は続く予想される。店舗全体の売上の大半を占めるラグジュアリー関連を中心に、苦戦が続きそうである。
		スーパー（店長）	・食品の値上げが続くなか、必要な物は買うが、余分な物は買わない傾向が続いている。特に、商品を比較してから、しっかりと吟味して買う傾向にある。
		スーパー（企画担当）	・競合先の出店といった外部環境の変化はないため、現状のままと予想される。
		スーパー（経理担当）	・梅雨明けが例年よりもかなり早く、猛暑の訪れが早まった。米を始めとする農産物への影響や、レジャーや買物といった外出への影響も懸念される。売れ筋商品の変化も予想され、猛暑への対応が物価対策と並んで重要となっている。
		スーパー（販売促進担当）	・備蓄米の放出もあり、在庫の状況は改善されつつあるが、大きな景況感の変化につながる要素はなく、しばらくは現状のままとなる見込みである。
		スーパー（企画）	・備蓄米の放出で売行きは好調であるが、数量に限りがあるのに加え、新米価格は高騰が予想される。既に買上点数が落ち込んでいるなど、備蓄米の販売終了後は苦しい展開に陥る。
		コンビニ（店員）	・物価上昇が続く一方、所得は変わらないため、客の購買意欲の更なる低下が懸念される。
		コンビニ（店員）	・7月も様々な商品が値上げ予定で、買い控えなどが予想される。ただし、当店は常連客に高齢者の多い店であり、決まった物を決まった数だけ購入する客が多い。値上げなどは気にするが、仕方がないという声もあるため、現状から大きな変化はないと予想される。
		衣料品専門店（店長）	・価格上昇の波は当面続くなか、消費者の財布のひもが緩むまでには、まだ時間が掛かる。
		家電量販店（経営者）	・補助金の効果が安定的に続く予想される。
		乗用車販売店（経営者）	・全体的に不透明な状況にある。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		乗用車販売店（経営者）	・新車の販売台数や整備部門の受注は、例年並みとなっている。
		乗用車販売店（経営者）	・依然として停滞感があり、回復の兆しがみられない。仕入価格が高いなか、販売価格への転嫁は難しい状況である。
		乗用車販売店（役員）	・中東での戦争や米国の関税引上げ問題もあり、先行きが不透明である。また、担当する輸入車は本国や中国の市場で苦戦しており、厳しい状況にある。商品の目新しさや効果的な販売促進策に欠けており、販売が大きく伸びる要素はない。
		乗用車販売店（営業担当）	・自動車の関税引上げの状況も不透明なため、今後も様子見の動きが続くと予想される。
		その他専門店〔食品〕（経営者）	・大阪・関西万博の影響も少ないなど、景気が上向く要因がない。
		その他専門店〔ガソリンスタンド〕（経理担当）	・外部要因として、米国の関税引上げや中東情勢などに振り回され、先行きの見通しは立ちにくい。ただし、物価の上昇が進んでいるものの、消費や投資意欲は後退していないため、景況感は大きく変わらないと予想される。
		その他専門店〔宝飾品〕（販売担当）	・都市部ではインバウンドの大きな動きがみられるが、人の流れは観光や大阪・関西万博に向かっており、従来客も同じような傾向となっている。
		その他専門店〔医薬品〕（管理担当）	・夏物商材やボディケア用品は順調に推移しているが、季節商材を除き、全体では横ばいか減少傾向が続いている。気温の上昇で飲料などの売上が見込まれるため、食品や日用品などは今の好調の維持を期待したい。ただし、全体としては、食品の値上げも続くなかで大きな改善要因は見当たらない。
		その他小売〔インターネット通販〕（オペレーター）	・送料を気にする客が増えているため、受注量の増加には期待できない。
		高級レストラン（企画）	・インバウンド需要が伸び悩んでいるほか、国内客の単価も上がってこない。大阪・関西万博の開催効果は特定のエリアに限定されている。
		一般レストラン（経営者）	・米国の関税引上げ問題や不安定な経済情勢から、物価の上昇等による家計への影響は続くため、当面は外食が減少しそうである。生活費の値上がりが続くなか、現状は出し渋りの傾向が強いため、景気が良くなるまでには時間が掛かる。
		一般レストラン（経営者）	・大阪・関西万博に通期バスで来場する動きが続くほか、暑さの影響で人通りは更に少なくなる。
		一般レストラン（店員）	・物価の上昇を受け、値上げの動きばかりであるため、今後も節約する客が増える。
		その他飲食〔自動販売機（飲料）〕（管理担当）	・趣味やし好が細分化され、人の好みに流されない人が増えている。大きな流行の変化がないため、ヒット商品が出にくい状況にある。
		観光型ホテル（経営者）	・世界情勢が良くない状況で、国内政治も不安定であるため、良い方向とはいえない。
		観光型ホテル（経営者）	・来月も大阪・関西万博の影響で、例年よりも団体客の先行予約が多い。後はいかに個人客を取り込み、予約を積み上げていけるかである。
		観光型旅館（経営者）	・好転する条件がなく、大阪・関西万博による悪影響を挙げる人も多いが、それを言い出すときりがない。ただし、物価の上昇やエネルギー価格の高騰、人件費の上昇など、良くなる理由が見当たらない。
		都市型ホテル（スタッフ）	・依然として、外国人の団体客が宿泊客の大半を占めており、夏季限定プランの売行きは限定的である。売上自体は例年並みの水準であるが、国内客は単価の上昇に苦戦しており、更なる底上げは難しい。宴会についても、定例の宴席を中心に前年並みとなっている一方、食堂は宿泊客の増加に伴い、朝食の収入が微増となっている。
		都市型ホテル（管理担当）	・政府の施策によって景気が良くなるとは考えられない。
		都市型ホテル（営業担当）	・7月から9月にかけての当地の夏は暑いほか、台風やゲリラ豪雨などで気候も不安定となるが、祭りや夏休みのほか、お盆や連休などでファミリー層が動く。ただし、日程による浮き沈みがあり、通常の平日はインバウンドの来客もそれほど見込めないため、全体的な回復は期待できない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		旅行代理店（支店長）	・選挙があると旅行マインドは減退するため、7月はかなり厳しく、夏休みの旅行需要にも影響が出る。客との会話でも、今年は旅行を控えるといった話が多い。
		観光名所（企画担当）	・今後も約3か月間は大阪・関西万博の影響が続く見込みであり、万博終了後に来場者が回復することを期待している。
		競艇場（職員）	・売上の約8割はネット投票であるが、今月に入って伸びが鈍化した。今後、社会情勢の変化による影響がどう出るかは不透明である。
		その他レジャー施設 [イベントホール] (職員)	・前月と比べて、売上、費用共に大きな変化はない。大阪・関西万博の影響で、周辺でのイベント開催が減っているため、にぎわいが少ない。
		その他レジャー施設 [球場] (経理担当)	・プロ野球の交流戦は終わったが、人気球団の試合が7試合あるほか、多くのコンサートも開催されるため、多数の来場者を予想している。
		美容室（店員）	・カラーのオーダーをやめる動きがみられるため、売上は横ばいで推移する。
		その他サービス [マッサージ] (スタッフ)	・オイルマッサージでは、寒い時期よりも暖かい時期の方が来客数は増える。
		住宅販売会社（経営者）	・依然として地価は高止まりしており、エンドユーザーの動きは鈍いが、投資家は引き続き活発に動いている。今後も下振れすることなく推移することを祈っている。
		その他住宅 [住宅設備] (営業担当)	・下向きで低迷している状態は変わらず、来月はボーナスの支給時期であるが、先行きが不安である。
		その他住宅 [情報誌] (編集者)	・超富裕層向けの物件と実需向け物件の市況の格差は、更に拡大する見込みである。中古マンションの市況にも、都心部ではかなり過熱感が出てきている。
		商店街（代表者）	・買上客の減少は少し前からみられるため、今後も同様の動きが続くと予想される。
		一般小売店 [時計] (経営者)	・今年も長い夏になると予想される。酷暑や猛暑が普通になり、命の危険という言葉もよく聞かれる。実際に、日中に店の前を通る人影は少ないため、来客数に期待するのは無理がある。景気が良くなることよりも、何とか夏を乗り切ることにより重きを置かざるを得ない。
		一般小売店 [化粧品] (経営者)	・不安材料が払拭される雰囲気はない。賃上げや減税などの気運は高まっているものの、消費意欲の高揚はほとんどみられず、しばらくは現状のままと予想される。年末向けの商品企画が各取引先で始まっているが、割安感やお買い得感の強い商品が多く、客の食指が伸びそうな商材が用意されている。10月13日の大阪・関西万博の閉幕後は好材料が少ないため、更に厳しくなることを予測して、対応策を講じたい。
		一般小売店 [呉服] (店員)	・結婚式などで衣装を新調する人が少なくなっており、呉服が全く売れない。
		一般小売店 [花] (店員)	・近隣の競合店が閉店したように、生活必需品ではない花の売上は減少しており、経営は厳しい。今後も猛暑による光熱費の負担増は避けられず、ますます花を買う余裕はなくなるため、売上は減少する。
		百貨店（商品担当）	・インバウンド需要は頭打ちであるほか、猛暑による外出の減少も予想される。株高の影響で、富裕層の購買は回復傾向にあるが、世界経済や地政学リスクの不透明感は強く、盛り上がりには欠ける。唯一、大阪・関西万博の関連商品の売上好調が救いとなっている。
		百貨店（商品担当）	・インバウンドの状況は不透明なほか、国内消費も物価の上昇や政治の不安定さもあり、必要なときにしか買わない傾向が更に強まる。
		百貨店（売場マネージャー）	・米国とイランの交戦など、個人消費に影響を与えかねない国際情勢の動きもあるなか、消費意欲の減退傾向が強まると予想される。
		スーパー（経営者）	・物価や人件費の高騰のほか、人手不足の影響でやや悪くなる。
		スーパー（店員）	・梅雨が明けて猛暑日が続くと、野菜の値段がまた高くなり、入荷数も減る可能性がある。そうなれば、販売はまた厳しくなる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		スーパー（開発担当）	・具体的な景気対策の動きはなく、給付金の話だけである。このままで景気が良くなることはなく、まずは賃金の引上げを進めるべきである。
		スーパー（社員）	・食品価格の上昇に伴い、客の節約の動きが広まりつつある。また、当社の主力店舗の近隣に有力な競合店が新店を出たことで、大きな影響を受けているなど、当面は厳しい状況が続くと思われる。
		衣料品専門店（経営者）	・猛暑の影響で外出を控える人が増える。
		衣料品専門店（店員）	・市場が閑散期に入るため、景気はやや悪くなる。
		衣料品専門店（販売担当）	・食品価格の上昇や米問題のため、服などの購入を節約する消費者が増えてくる。
		家電量販店（店員）	・全ての面で消費者は厳しい状況が続くため、景気が上向くことは難しいと予想される。
		家電量販店（人事担当）	・前年と同様に、猛暑でショッピングに出掛ける人が減少し、来客数が激減すると予想される。
		その他小売〔ショッピングセンター〕（総括）	・物価の上昇のほか、社会保険料や税金などの負担増に、収入が追い付いていない状況が顕在化する。積極的な消費には期待できない雰囲気であるため、先行きが不安である。
		一般レストラン（企画）	・米価格の高止まりなどの物価上昇で、個人消費は低調となっている。また、中東情勢の悪化による原油価格の高騰や、大阪・関西万博の開催による人手不足が人件費の高騰につながるなど、経営を圧迫する動きは更に厳しくなる。
		都市型ホテル（客室担当）	・近隣の施設では高単価での販売が続いていたが、稼働率を重視する販売に移行する施設が出始めた。それに伴い、当社も販売価格の引下げに応じざるを得ない状況となりつつある。
		旅行代理店（役員）	・物価や旅行代金の上昇は今後も続くと思われ、家計への負担が更に増す。それに伴い、旅行やレジャーに予算を掛けられるのは、一部の層に限られる傾向が高まる。
		通信会社（経営者）	・中東情勢の混乱による、原油価格や原材料価格の高騰が懸念される。
		通信会社（営業担当）	・業界の特性として、夏から秋にかけて客の購入量が伸び悩むため、今後2～3か月は例年どおり停滞気味となることと予想される。
		通信会社（役員）	・物価上昇の影響で、消費者の購買意欲は低調となっている。さらに、大手通信事業者の料金プラン引上げによる買い控えて、この傾向が強まると予想される。
		テーマパーク（職員）	・参議院選挙後の政権運営については、非常に不安が大きい。
		遊園地（経営者）	・参議院選挙を終えても、何かが改善される結果にはならない。大阪・関西万博の需要が10月にかけて、更に伸びることを考えると、関西のレジャー事業は厳しいと予想される。
		ゴルフ場（支配人）	・近隣の同業他社の値下げにより、価格を下げざるを得ない状況のなか、予約は減少傾向にあることから、景気は徐々に悪くなる。
		その他レジャー施設〔飲食・物販系滞在型施設〕（企画担当）	・早速に猛暑が始まりつつあり、外出の減少が心配される。また、大阪・関西万博の会期終了が近づくため、万博に客が流れることで、来客数が減少する恐れもある。
		その他サービス〔学習塾〕（スタッフ）	・ここ2～3か月、入会者はゼロであったが、退会者は少しみられた。物価の上昇が続くなか、教育費よりも生活費の確保が優先される。
		住宅販売会社（経営者）	・物価だけが上昇し、会社の収益は減っている。
		住宅販売会社（従業員）	・都心部を中心に、新築マンションの販売状況は好調であるが、実需層の手が届かない価格帯にまで上昇しており、今後は販売状況の鈍化が予想される。
		住宅販売会社（総務担当）	・米などの価格高騰の動きが落ち着く兆しはみられない。購入希望者の多くが、収入の増加に不安を抱えている。
		その他住宅投資の動向を把握できる者〔不動産仲介〕（経営者）	・原油価格の上昇や、各地の紛争、米国の関税上げといった不安要素があり、経済は下降傾向となる。
	×	一般小売店〔貴金属製品〕（従業員）	・参議院選挙による影響で悪くなる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	×	一般小売店〔衣服〕 (経営者)	・物価が今後も上昇する見込みのなか、生活必需品ではない衣料品に掛ける予算はますます減っていくと予想される。猛暑の影響も考えると、この先景気が良くなるとはとてもいえない。
	×	一般小売店〔ガラス細工〕(店長)	・政策が国民に向かい合っていないことが見透かされている。消費者の心理が経済を活性化することを理解する必要がある。
	×	百貨店(売場主任)	・ウクライナや中東情勢を含めた不安要素により、先行きは更なる物価の上昇が予想される。政策もどちらかといえば、増税に向けた動きがみられる。こうした要素が客の財布のひもを更に固くすることで、当面は節約志向が続くと予想される。
	×	衣料品専門店(経営者)	・客は自分の洋服にはお金を使わず、服の売れない状況が続いている。食料品などの値上げや、社会保険料の負担増により、服が買えない状況になっている。
	×	衣料品専門店(経営者)	・所得が上がっているのは、消費者のごく一部であるにもかかわらず、物価だけが上昇している。消費マインドが地に落ちているなか、食品に関する消費税を廃止しても、焼け石に水である。
	×	住関連専門店(店長)	・酷暑の季節は来客が減るのに加え、今年は企業からの注文も減っており、その傾向が継続中である。
	×	その他飲食〔ジャズバー〕(店員)	・物価上昇の影響で来客数が減っている。
	×	その他飲食〔洋菓子〕(管理担当)	・猛暑の影響で悪くなる。
	×	観光型旅館(経営者)	・パンダ関連の特需がなくなることで、これまでの集客増の反動が出る。
	×	旅行代理店(従業員)	・可処分所得が悪化している。
	×	競輪場(職員)	・今後も物価の上昇は止まらない。
	×	その他レジャー〔スポーツ施設〕(業務担当)	・気候変動の影響があるため、良くなる理由が見当たらない。全国の学校で水泳指導が廃止に追い込まれている影響も、今後は注視が必要である。
企業 動向 関連 (近畿)		-	-
		食料品製造業(管理担当)	・大阪・関西万博が終わるまでは、今の好調が続くと予想される。
		食料品製造業(営業担当)	・今年も猛暑日が続くほか、大阪・関西万博の影響もあり、飲料の売上は少し増えることが予想される。
		木材木製品製造業(経営者)	・中東での核開発をめぐる紛争に、海外からの輸入に頼っている当社は振り回されている。為替だけではなく、船便の運賃やコンテナの確保など、重要な要素が入り交じり、難しい状況であることは間違いない。このような状況に対応し、従来の商品の営業を維持することに注力する。
		出版・印刷・同関連産業(企画営業担当)	・大阪・関西万博の盛り上がり次第では、特別な注文の増加が予想される。
		化学工業(企画担当)	・食品は需要が低迷する時期であるが、堅調に推移している。一方、化学関連の製品が原材料価格の高騰に加え、需要も低迷しており、全体的にやや下向きの状況である。
		輸送業(商品管理担当)	・7月から8月は酒の販売が伸びるため、今後は良くなる。
		広告代理店(営業担当)	・7月の動きは前年よりも良さそうであるが、8月以降は不透明である。
		その他サービス業〔店舗開発〕(従業員)	・日常の消費は節約傾向が続くが、観光消費は大阪・関西万博が起爆剤となり、更に活性化すると予想される。さらに、インバウンド消費も当面は好調が続く見込みであり、少なくとも10月までは良い動きとなりそうである。
		食料品製造業(従業員)	・いまだ原材料価格の上昇が続いており、取引先に製品価格の引上げを依頼している。今後は販売価格が上がってくるため、販売量が伸びるとは考えられない。
		パルプ・紙・紙加工品製造業(経営者)	・一部の取引先を除いて、月末になると在庫調整を始める。
		プラスチック製品製造業(経営者)	・全体的に雰囲気が高く、起爆剤となる案件の発掘が難しい。既存商品で売上の維持を図ることで、現状並みでの推移となる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		窯業・土石製品製造業（管理担当）	・米国の関税引上げ問題や相変わらずの物価上昇に加え、中東での戦争による石油価格の上昇懸念など、不安要素は多い。ただし、一定の質上げや商品の値上げなどが浸透し、業況の推移は悪くないため、今後の景気に大きな変化はないと予想される。
		金属製品製造業（経営者）	・米国の関税引上げ問題の決着がつかまでは、状況は変わらない。
		一般機械器具製造業（経営者）	・今後数か月は、景況感に変化はないと予想される。
		一般機械器具製造業（設計担当）	・実質賃金の上昇が見込めないなか、それなりの消費が出てくることで経済が回っている。
		電気機械器具製造業（経理担当）	・自動車関連の需要が見込めず、その落ち込みを他の需要でどこまで補えるかが重要である。
		電気機械器具製造業（宣伝担当）	・世界情勢は依然として不安定で、物価上昇の改善のめども立たない。
		建設業（経営者）	・米国の関税引上げの影響で、取引先の来年度の決算内容も厳しくなると予想される。設備投資の計画も、縮小や延期、凍結の動きが出てきそうである。
		建設業（経営者）	・夏のボーナスがどうなるかであるが、地方圏では賃金の大幅なアップが期待できない。
		建設業（経営者）	・今後も現在の動きが続くと予想される。夏は猛暑のため受注が余り増えず、仮に増えたとしても、生産性を上げるのは難しい。
		通信業（管理担当）	・備蓄米の放出により、米価格の低下や安定が進み、物価全体を下げる要因となれば、景気は上向く。ただし、梅雨が早く明けることで、水不足などの影響も懸念される。
		金融業（営業担当）	・大阪・関西万博で恩恵を受ける業種は限られており、景気の見通しに大きな変化はない。
		司法書士	・案件が少ないなど、しばらくは良くない状況が続く。
		経営コンサルタント	・インバウンドの増加による弊害の指摘は増える一方であるが、対抗措置が講じられる様子はない。観光地では一部で通行やバスの乗り入れを規制する試みもあるが、規制を強化すると売上の鈍化につながる。結局は何もしない状態が続くため、現状の傾向が続くと予想される。
		その他サービス〔自動車修理〕（経営者）	・物価が上昇しているが、その動きに売上の増加が伴っていない。
		その他非製造業〔機械器具卸〕（経営者）	・値上げが落ち着けば、景気は良くなる。
		繊維工業（総務担当）	・物価の上昇に所得の増加が追い付いていないため、景況感が良くならない。
		電気機械器具製造業（営業担当）	・良い話がない。
		輸送用機械器具製造業（経営者）	・7月と8月は気温の上昇が見込まれ、外出を控える傾向になることが予想される。
		輸送業（経営者）	・長年の取引先から、9月からは専属車を減らすとの連絡があった。配送量と売上の落ち込みが激しく、どうにもならない状態である。
		輸送業（営業担当）	・6月のトラックによる事故が過去最多となるなど、人手不足に伴う人材の質の低下が、危険なレベルになりつつある。
		輸送業（営業担当）	・閑散期に入るため、より厳しい状況となる。
		不動産業（営業担当）	・店舗の空室が増えており、単価の高い繁華街でも1階店舗の空室が増えている。
	×	化学工業（管理担当）	・米国の政策による影響で悪くなる。
	×	その他製造業〔履物〕（団体職員）	・食料品や日用品価格の上昇が、その他の商品に対する需要を圧迫している。
	×	その他非製造業〔電気業〕（営業担当）	・産業構造の転換が必要である。
雇用 関連		-	-
(近畿)		人材派遣会社（役員）	・正規雇用、非正規雇用共に、賃上げの動きが始めており、政府の消費活性化策もある程度は効果が出そうである。
		民間職業紹介機関（職員）	・建設現場では、熱中症の予防が義務化される。労働者の安全確保に伴う交代要員が必要となるため、求人数の増加が予想される。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		民間職業紹介機関（営業担当）	・年末に向けて年末調整の業務が増える見込みである。ちょうど大阪・関西万博で稼働中のスタッフが、閉幕後は大量に職探しを始めるため、人材の確保がしやすくなる。
		人材派遣会社（支店長）	・下半期に向けて採用数が増えてくればよいが、不透明感が強い。
		人材派遣会社（管理担当）	・大阪・関西万博の開催中は、求人条件にマッチする人材は万博で就労しているため、応募や採用は増えにくい。
		求人情報誌製作会社（営業担当）	・当業界の景気は、2～3か月の短期間では変動しにくい。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・第2四半期の関西企業からの新聞広告、デジタル広告の出稿は、特に変わらない動きが見込まれる。
		職業安定所（職員）	・景気が悪いと答える企業は少ないが、人手不足や後継者難、従業員の高齢化などの問題が続いているほか、米国の関税引上げによる影響も引き続き懸念される。
		職業安定所（職員）	・米国の関税引上げによる影響が、一部の業種から出始めるなど、不透明感が強まっている。ただし、現時点で求人数の動きに変化はみられない。
		職業安定所（職員）	・今後2～3か月で物価が安定する可能性は低い。
		職業安定所（職員）	・企業の人手不足感が強いなか、物価の上昇が雇用に与える影響は未知数である。求人数が増加傾向で、求職者数は減少傾向にあるが、就職件数や充足数に大きな変化はないと予想される。
		民間職業紹介機関（営業担当）	・7月にもインターンシップのイベントが開催されるが、来場数は6月よりも減少する見込みである。出展企業をみても、大手企業よりも中堅から中小企業など、やや知名度の低い企業が多く、やや落ち着いたイベントになりそうである。
		学校〔大学〕（就職担当）	・人手不足の影響で求人市場は活発に動いており、待遇の改善を行う業界や企業がある一方、全く変わらない企業も多い。
		学校〔大学〕（就職担当）	・米国の輸入関税や中東情勢の先行きが不透明であり、身の回りの景気が良くなるかどうかは判断しにくい。
		学校〔大学〕（就職担当）	・労働者1人当たりの賃金を上げるような政策が求められる。かつての年収の壁をめぐる合意が、次の参議院選挙の結果でどう変わるのかが注目される。また、若年層への求人意欲は旺盛であるものの、賃金よりも休みを優先するような求人募集も目立つなか、景気が良くなるまでには至らない。
		その他雇用の動向を把握できる者	・世界情勢の不透明感を警戒する声が多い。人材募集のための求人動向が弱いなど、企業は積極的な動きをとりにくくなっている。
		人材派遣会社（営業担当）	・事務関係の求人が少なくなっているが、変わらず事務を希望する求職者が多いため、今後も働きたくても働けない求職者が発生する可能性がある。
		人材派遣会社（営業担当）	・7月からお盆の前までは、夏枯れの時期となる。
		新聞社〔求人広告〕（営業担当）	・米価格の高騰を始めとする、物価上昇への根本的な対策が講じられていない。消費者の負担は増えるばかりであり、先行きには期待できない。
	x	-	-

9. 中国（地域別調査機関：公益財団法人中国地域創造研究センター）

（-：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計動向関連 (中国)		コンビニ（店長）	・物価は着実に上がり続けているが、生活に必要な物を買いたい控える選択はされにくい。何もかも値上がっているため、買わざるを得ない。
		その他小売〔ショッピングセンター〕（支配人）	・梅雨明けが早く、猛暑の予想であり、小売には追い風になる。
		百貨店（営業担当）	・気温上昇に伴い、商業施設では流入来客数の増加が考えられる。
		コンビニ（副地域ブロック長）	・梅雨明けが早く、長い盛夏となる予想で、来客数の増加が期待できる。特に飲料やアイスの販売量の増加が期待でき、収益も改善できると考える。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		その他専門店〔時計〕（経営者）	・ボーナスシーズンに入り、消費が向上することを期待している。
		一般レストラン（経営者）	・夏のボーナスの時期になって金銭的余裕ができ、短期間でも今より景気が良くなる。
		バー（経営者）	・客へのサービスを向上させている。
		観光型ホテル（副支配人）	・8月のお盆周辺の日、例年以上に宿泊の予約が多く入っている。
		都市型ホテル（宿泊担当）	・夏休み以降のファミリー需要及び秋の行楽シーズンでの国内、海外のレジャー需要が高まるものと予測している。
		タクシー会社（営業所長）	・猛暑により、徒歩や自転車移動を避ける傾向が強まり、タクシー利用が増加する可能性が高い。特に観光地や駅、空港周辺では、冷房の効いた移動手段としての需要が高まる見込みである。
		ゴルフ場（営業担当）	・7月と8月は平年並みの予約数だが、9月は若干予約が多い。
		競艇場（企画営業担当）	・2か月後にはG3レース及びお盆レース、3か月後にはG1のヤングダービーといった記念レースがあるため、今よりも売上が見込める。
		商店街（代表者）	・前年同期と比べて買い控えがある。客の来店回数も減っている。
		商店街（理事）	・景気はやや悪くなるであろうが、余り変わらないでほしい。
		商店街（代表者）	・購入するものを決めている客が多い。以前とは異なり、迷って結局買わない客は少なく、非常に明るい状況である。現状のままであることを期待したい。
		商店街（代表者）	・良くなることを期待したいが、米国の関税や中東問題などが影響して先が見えない。
		一般小売店〔食品〕	・食料品価格の上昇が続いており、買い控えが続くとみられる。
		一般小売店〔茶〕（経営者）	・仕入価格が前年の2倍になっている。売り方に困っている状況であり、価格が2倍になった抹茶が売れるのか不安である。
		一般小売店〔印章〕（経営者）	・例年どおりとみられる。
		一般小売店〔洋裁附属品〕（経営者）	・客の動きは良ならず、忙しくなることはない。
		百貨店（広報担当）	・物価高の継続、国際情勢による燃料費の高騰など先行きが不透明ながらも、大幅な増減はないと見込んでいる。
		百貨店（営業担当）	・例年どおり、気温の急激な上昇により、来客数が減少して売上が落ちる。
		百貨店（営業担当）	・実需傾向が強い。百貨店内で衣料品を購入する動機が弱くなっている。
		百貨店（外商担当）	・購買意欲が上がる政策はなく、現状維持がようやくである。
		百貨店（売場担当）	・百貨店業態は、特に地方においての厳しさは継続しており、一朝一夕に変わるものではない。従来の主要顧客年齢層の客も徐々に購買を抑制することが増えている。
		スーパー（店長）	・物価上昇に対して収入はそれほど増えていないのが現状で、大きな景気政策もみえず、すぐに景気が回復するとは考えにくい。
		スーパー（店長）	・現状から大きく変わる要因が見つからない状況である。値上げに対して収入が追い付いておらず、今後も商品の値上がりは継続する見込みであり、更なるまとめ買いや節約志向は高まるとみられる。食品もだが、衣料品等にも大きく影響している状態も継続する見込みである。
		スーパー（店長）	・割引日と特売日に客の来店が集中している状況であり、依然として節約志向が見受けられる。プライベートブランド商品の売行きが前年に比べて非常に伸びている。ナショナルブランド商品から割安なプライベートブランド商品の購入へシフトしている客が多い。
		スーパー（営業システム担当）	・特売日に売上と来客数の増加が著しい。特に生鮮品の特売日にその傾向が強い。しかし、平日の買い控えが目に見えて分かるため、平均的な売上の上昇は見込めない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		スーパー（業務開発担当）	・売上は増えるが利益が付いてこない増収減益の状況が続くそうである。
		スーパー（販売担当）	・備蓄米が出回り、新米も出てくるだろうが、米価が大きく下がるとは考えにくい。商品の値上げは続いており、米国の関税の影響もはっきりしていない状態では、変化は起こりにくいとみている。
		コンビニ（支店長）	・米国の関税を含め、先行きの不透明感が続いている。
		衣料品専門店（経営者）	・来店喚起という企業努力に手応えを感じる。
		衣料品専門店（経営者）	・いろいろな商品の値上がりは落ち着くまでは大変とみられる。
		衣料品専門店（経営者）	・政権は頼りにならず、景気が良くなる要素が全くみえてこない。
		衣料品専門店（代表）	・ガソリン減税法案の廃案で物流コストは高止まりし、物価の安定は見込めず、消費の活性化は期待できない。
		家電量販店（店長）	・減税政策があれば景気は少し上昇するかもしれないが、先行きが不透明なので状況は良くならない。
		家電量販店（企画担当）	・参議院選挙の結果で景気は変わってくる。2万円給付金では景気が刺激されることはないため、更なる政策を期待する。
		家電量販店（副店長）	・前年並みの気温が予想され、エアコンは好調に売れるとみられる。テレビは伸び悩む傾向であり、全体的に景気は余り変わらないとみられる。
		乗用車販売店（経営者）	・これからの販売予定が今のところない。
		乗用車販売店（営業担当）	・国内販売向けの商品が減ってきて、販売台数を見込めない状況である。
		乗用車販売店（業務担当）	・メーカーの生産台数が決まっているため販売が伸びない。
		乗用車販売店（営業担当）	・ガソリン価格は少し下がったが、依然出費を抑える客が多い。
		乗用車販売店（営業担当）	・今期に入り厳しい状況が継続しており、この状況がいつ解消されるか不透明である。市場の動き次第では良くなってくるとみられるので、それに期待を掛けている。
		自動車備品販売店（経営者）	・株価は上昇気味だが、米国の関税が軽減しなければ、景気は悪くなるとみられる。
		その他専門店〔土産物〕（経営者）	・値上げ値上げで余裕がないため、しばらくこの状況が続くとみられる。
		その他専門店〔和菓子〕（経営者）	・物価高で消費への意欲が下がっている。
		その他専門店〔宝石店〕（店員）	・景気が回復するような具体的な政策がなく、給料も横ばいなので、3か月先もやや悪いままである。
		高級レストラン（事業戦略担当）	・例年、夏休み期間のイベントなどで予約が多く入る日も、現状は芳しくない。
		一般レストラン（経営者）	・早く梅雨明けしたので、暑い日が続くと不要不急の外出は少なくなる。
		一般レストラン（経営者）	・備蓄米の放出で物量的な問題は緩和される状況であるが、食品の値上げは続いている。猛暑が予想されており、野菜価格も上がり、仕入れが苦しい状況となる。家庭では節約モードが続く、外食頻度が高くなることは期待できず、現状のままである。
		一般レストラン（店長）	・駅ビルの影響はしばらく続くのではないかとみられる。
		その他飲食〔カフェ〕（店長）	・ここ数か月、周りの状況に変化がない。
		観光型ホテル（予約担当）	・消費者の節約志向が続く限り、宿泊予約は増えないと考えられる。
		旅行代理店（支店長）	・夏休み前の先行商戦の動きが鈍く、苦戦している。大阪・関西万博効果での宿泊増加も期待ほどではなく、全体的に停滞ムードとみられる。
		タクシー運転手	・数字が伸びる要素がなく、旅行者は多いが、タクシー利用に積極的ではない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		通信会社（総務担当）	・企業としての成長曲線を描ける要因がないなか、社員への還元も期待できないため、個人消費が伸びるとは思えない。年金制度改革もあり、将来的なことも期待できない。
		通信会社（企画担当）	・給与は上がったが、物価高の話ばかりで、新装、新調という話は余り出ず、客の動きが変わる状況にないと考えられる。
		通信会社（営業担当）	・消費は冷え込んだまま推移するものとみられる。
		テーマパーク（業務担当）	・災害の風評による予約控えやキャンセルが発生している。夏の高温予報の影響もあり、前年度よりも7月と8月の予約数が減少している。
		美容室（経営者）	・物価高騰が続いて節約志向の客が増えており、3か月という短い期間では、客の様子に変化は生じない。
		美容室（経営者）	・景気は良くならない。客は節約気味である。光熱費やガソリン代も高い。
		設計事務所	・客は様子をうかがいながら少しずつ判断しているようなので、2～3か月先は現状と変わらないとみられる。
		設計事務所（経営者）	・建設費の高騰や人手不足の状況に当面変わる様子はみられない。
		設計事務所（経営者）	・来場者数が伸び悩んでいる。客の資金動向を考えると、物価高に収入が追いついておらず、積極的な客が少ない。
		住宅販売会社（従業員）	・来月の参議院選挙の結果次第だが、3か月くらいでは大きく変わらないとみられる。
		住宅販売会社（事業推進担当）	・情勢回復の兆しはなく、良くなる要因が全くない。
		百貨店（営業担当）	・米国政権発足以降、株価不安定による富裕層の高額品の買い控えやインバウンド需要の後退が懸念される。
		百貨店（売場担当）	・店の特性上、まず節約される商品群を展開しているため、全般的に来客数、売上共に苦戦する。ただし、イベントや話題商品などへの反応は比較的良好で、客の購入基準は明確である。
		百貨店（総務・経理担当）	・国内外の政治や経済の不安定さから大きな影響を受けるとみられる。
		スーパー（店長）	・値上げと収入のバランスが欠けており、買い控えなどで家計を維持している。この状況が続けば、景気は悪くなる。
		スーパー（店長）	・野菜の相場は落ち着いたが、精肉、卵、米等の相場は高騰し続けている。
		スーパー（財務担当）	・物価高騰による客の節約と野菜や米の値下がりにより、売上が減少する。
		スーパー（販売担当）	・世界的に様々な情勢不安が同時発生しており、マインドの変化が起こりにくい状況とみられる。
		乗用車販売店（統括）	・新型車が出ない。
		自動車備品販売店（経営者）	・値上げが止まらないため、生活必需品でない物は我慢する風潮が加速するとみている。
		その他専門店〔革製品〕（店主）	・我が国に限らず世界中が不安定なので、大人しくしておこうと考える傾向がある。
		都市型ホテル（総支配人）	・8月の宿泊の予約ペースが、6月25日現在、前年同月同日比で2～3%減っている。
		タクシー運転手	・選挙や物価上昇の現状、世界的な衝突など、景気が良くなる要素はない。
		通信会社（運用担当）	・物価高対策の効果がないと厳しい。
		通信会社（広報担当）	・品質の良さあしではなく、安さが第1条件になっているため、景気の回復の兆しはみえない。
		放送通信サービス（総務経理担当）	・米国の関税など景気後退の要因が多い。
		通信会社（企画・総務担当）	・生活全般に関わる物価が上昇傾向であり、消費者の価格に対する反応も敏感で、状況は厳しくなるとみられる。
		テーマパーク（営業担当）	・7月に大きなイベントはあるが、基本的に猛暑の夏季は閑散期になる。
		美容室（経営者）	・物価や生活に係る費用の高騰で、できるだけ安く抑えたいと考える客が増えている。
		住宅販売会社（住宅設計担当）	・国の補助金の残量が少なくなること、補助金が受けられる工程が厳しくなることを鑑みると、販売量に更に影響が出るかと推測する。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	×	商店街（代表者）	・米国の関税問題で自動車産業が落ち込んでいる影響で当県の経済は冷え込んでおり、先が見えない状況である。
	×	一般小売店〔眼鏡〕（経営者）	・関税の引上げで企業業績の低下が懸念される。
	×	コンビニ（エリア担当）	・今後も商品価格は上昇し、中東を含めて、戦争の危険性もある。中東の海峡の閉鎖など、世界中で不安定な要素がみられるため、当店にとっても良くなる要素は全くない。
	×	住関連専門店（営業担当）	・来店客数が少なくなっている。
企業 動向 関連 (中国)		輸送用機械器具製造業（経営者）	・秋に向けて新車が立ち上がる関係で忙しくなる。
		非鉄金属製造業（業務担当）	・電子部品関係の受注量見込みは予算を上回っている。
		電気機械器具製造業（総務担当）	・見通しとしては回復基調であるものの、米国の関税政策等により先行きは不透明である。
		輸送業	・受注が増えている。
		農林水産業（従業員）	・好転する要素がない。
		食料品製造業（営業担当）	・参議院選挙次第である。
		繊維工業（財務担当）	・仕入価格の値上げ要請が多い。
		化学工業（総務担当）	・米国の関税など世界情勢の不安定さが続く。
		化学工業（総務担当）	・原油価格について注視している。
		窯業・土石製品製造業（総務経理担当）	・自動車輸出動向にもよるが、鉄鋼生産量が大きく増加する見込みがなく、生産量の増加も見込めない状況である。
		鉄鋼業（総務担当）	・景気に関する好材料はないが、大きく悪化する材料もない。
		一般機械器具製造業（総務担当）	・受注量や販売量の動きに変化はない。
		一般機械器具製造業（管理担当）	・国内、北米以外の地域に対する販売拡大の計画があることや新規事業への取組により、落ち込みをカバーする計画がある。
		建設業	・資材や物価の高騰が続いている。
		建設業（経営者）	・どの企業も情勢を様子見しており、現状の最低限の投資が続くとみられる。
		建設業（総務担当）	・大型物件の比率が高いため、遅延や中止が発生した場合のリスクがある。
		輸送業（業務推進担当）	・特に大きなプラス、マイナスの要素はなく、取引先の動向にも目立った様子はない。
		輸送業（企画担当）	・ウクライナの状況に加えて中東でも注目すべき動きがあったが、どうにか収束しそうな気配がある。
		通信業（企画担当）	・データセンターやクラウドなど、企業のICT方面に掛ける予算の変動に大きく影響する要素がないため、状況は変わらないとみられる。
		金融業（副支店長）	・元請企業との価格交渉力が乏しく、利益改善までには至っていない。また、人材不足により、受注をこなす生産能力も低下気味である。
		不動産業（総務担当）	・賃貸住宅の需要が落ち着く時期であり、今月と余り変わらないと予測する。
		広告代理店（営業担当）	・良くなる要素がない。ベースアップも中小企業では難しい。
		食料品製造業（経営者）	・今年も暑さが長引き、秋の到来が遅くなると予想され、一段と厳しい状況になるとみられる。
	金属製品製造業（総務担当）	・工作機械業界からの特需案件の受注が7月で終わるため、それ以降は厳しくなると予想される。7月から9月の電気料金は軽減されるが、元々夏季料金単価が高いため、電気料金が安くなる実感はない。	
	輸送用機械器具製造業（経理担当）	・受注先の長期内示情報から、景気は良くならない。	
	輸送業（営業担当）	・自動車、鉄鋼の新規引き合いがなくなっており、悪化傾向である。	
	金融業（経済産業調査担当）	・米国の関税政策による悪影響が徐々に顕在化するとみられる。	
	会計事務所（経営者）	・コンサルティング業務等の変動的、付加的業務は、中止や延期、縮小等が増えている。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	x	-	-
雇用 関連 (中国)		民間職業紹介機関（職員）	・輸出中心の製造業では苦戦を強いられている企業がある。一方で、影響を受けていない企業もあり、内需中心の製造業においては活況を取り戻しつつある。
		民間職業紹介機関（人材紹介・派遣担当）	・夏のボーナスが控えているため、転職潜在層が求人への応募やエージェントへの依頼など、これから具体的に動き始める。
		人材派遣会社（求職者対応）	・条件を満たす求職者が増える保証がないため、他案件も案内できるよう求人数の増加が必要である。
		人材派遣会社（支店長）	・様々な施策を試しているが、いずれも余り効果はなく、今後景気が良くなる話題も今のところない。
		求人情報誌製作会社（総務担当）	・通常、景気回復の前兆として求人広告の量が増加するが、思うようには増加していない。
		求人情報誌製作会社（新卒採用担当）	・2026年4月入社、2027年4月入社を見据えた企業の採用活動は変わらないため、直近2～3か月で動きに大きな変化はみられない。
		求人情報誌製作会社（広告担当）	・中小企業を中心に新卒の初任給を上げた企業が8割ほど多く、これまでの大手志向から抜け出し、中小企業に入社を決めた学生が増えている。今後も初任給上昇の傾向は続き、給与、福利厚生、年間休日数といった条件面での見直しがより多くなり、企業にとって厳しい側面も出てくる。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・地域の製造業が、米国の関税に振り回される懸念を持っている様子だが、全体的に影響は少ない。特に求人市場は引き続き超売手市場となっている。
		職業安定所（職員）	・新規求職者数は減少しているものの、有効求職者数は微増している。これは一定数の人が就職できず滞留しているとみられ、就職困難度の高い人が以前と比べ増加傾向にある。
		職業安定所（事業所部門）	・長期的には若干悪くなりそうだが、中期的に大きな変動はないとみられる。
		職業安定所（事業所担当）	・有効求人数は前年同月比でほぼ変わらないが、有効求職者数は増加傾向のため、有効求人倍率は減少傾向にある。マッチングが難しい中高年層の求職者数の増加が有効求職者数を押し上げていると考えるが、当面は現状が続くとみている。
		学校〔短期大学〕（進路指導担当）	・一般企業への就職希望者の多くが既に内定を得ており、求職者数が全体的に少なくなっている。
		人材派遣会社（事業部長）	・米国の関税の影響が顕在化してくるとみられ、自動車製造業を中心として、生産量の落ち込みが発生するとみている。
		人材派遣会社（経営企画担当）	・米国の関税の影響は今のところないが、求人企業の共通認識として、今後何らかの下振れ影響が出てくる。景気動向に先行して影響が出る非正規雇用も下振れのリスクが高まっている。
		職業安定所（職員）	・米国の関税の影響で自動車製造業の雇用状況が悪化している。派遣を更新しなかったり、社員の休業等にも踏み切っている関連企業もある。米国の関税の先行きが不透明なので景気は悪くなるとみられる。また、物価上昇に賃金の増加が追い付いていない状況があり、買い控え等、景気の悪循環をもたらしている。
	x	-	-

10. 四国（地域別調査機関：四国経済連合会）

（-：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連 (四国)		商店街（常務理事）	・中国からのインパウンドが減少しているが、8月頃には戻るとみられる。今春以降、大幅に増えている国内の若い世代の観光客とあいまって、今以上ににぎわいが商店街には出るとみられる。また、参議院選挙の結果による国政の安定や米国の関税の交渉結果が見えてくると、日本経済も今より上向くとみられる。
		スーパー（店長）	・芸術祭の夏会期開催で人流が活発になり、来客数が増加するとみられる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		コンビニ（総務）	・現在もやや好調だが、8月からは芸術祭が再開し、インバウンドを含めた観光客数が増加するとみられる。
		衣料品専門店（経営者）	・6月から梅雨明けとなり、天候が良い日が続くとともにボーナスも出る時期のため、景気はやや良くなっていくとみられる。
		家電量販店（店員）	・ボーナス後の反動買いに期待する。
		家電量販店（副店長）	・梅雨も早く明け、長期にわたり高めの気温が続く予報のため、夏物商材の売上が期待できるが、それ以外の大きな要素はないとみられる。
		その他専門店〔酒〕（経営者）	・お中元の時期になり、暑くなると飲物が売れることから、売上は上昇するとみられる。
		一般レストラン（経営者）	・例年通り7月、8月は来客数、客単価共に上昇するとみられるが、前年比では未知数である。
		観光遊園地（主幹）	・7月に国際航空路線の運航が再開されるため、インバウンドが増加するとみられる。
		競艇場（マネージャー）	・若い客を呼びこむ施策が徐々に浸透しつつあり、新たな客を生み出しているとみられる。
		商店街（代表者）	・1番大きい祭りが8月に実施される予定である。その入場者やチーム数も、かなり新型コロナウイルス感染症発生前の水準に近づいている。商店街に夏を含め、地元観光客が来街する動機を次々に提供することで、景気は良くなるとみられる。
		商店街（代表者）	・景気刺激策による、変化の乏しい日本経済、特に地方経済の底上げは急務である。
		商店街（代表者）	・参議院選挙前で政府が景気対策等の政策等を打ち出しているが経済活動の活性化につながりにくいとみられる。現金給付が行われたとしても、一時の生活費として消えまうとみられる。物価上昇が続いている状況で景気が改善しない状態が続くとみられる。
		一般小売店〔文具店〕（経営者）	・新年度に入り、現在はメーカーからの価格改正はない。ただし、運賃については、多少上昇している。そのため、今後2～3か月の間に多少経費は掛かってくるものの、販売量は現在と変わらないとみられる。
		一般小売店〔生花〕（経営者）	・商店街の夏の夜市などが始まるため繁華街に入出は見込めるが、単価の低い商品が少しずつ買われる動きは変わらないとみられる。
		百貨店（マネージャー）	・物価高、エネルギー価格の高騰により先行きは不透明である。
		スーパー（店長）	・値上げは収束せず、現在と同じ状況がしばらく継続するとみられる。
		スーパー（企画担当）	・商品単価の上昇は継続している。気温の高さの影響を受けて青果物の価格変動が売上に影響するとみられる。
		スーパー（企画担当）	・米国の関税に影響を受ける産業の動向に注目する。それらの影響も踏まえて自業種やその他業種の動向に注目する。
		コンビニ（店長）	・夏季ボーナスの支給で、消費拡大を望みたいが、余り望める地域ではないため横ばいで推移するとみられる。
		コンビニ（商品担当）	・イスラエルとイランの戦争が停戦の可能性が出てきたが、依然として米国の関税などの不安要素が多い。また、猛暑による米や野菜の生育不足も不安材料である。
		衣料品専門店（経営者）	・中東の状況次第である。
		衣料品専門店（経営者）	・インバウンドが来ている店舗以外は景気は良くならないとみられる。商店街の空き店舗も増えており、地元の中小企業ではなかなか出店できない状況だとみられる。
		衣料品専門店（営業責任者）	・食料品を中心とした価格の上昇が止まらず、買い控えが起こっており、衣料品への支出を抑えている客が多く、しばらくこの状況が続くとみられる。
		乗用車販売業（営業担当）	・人気車種の受注停止が続いている。
		乗用車販売店（従業員）	・景気が上向く要因が見当たらないため、しばらくは現状のままである。
		乗用車販売店（役員）	・会社の業績は回復基調であり、ボーナスも増加傾向であるが、物価上昇もあり大きな変動はないとみられる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		その他小売〔ショッピングセンター〕（館長）	・売上、乗客数共に好調であり、このまま推移するとみられる。近隣でのイベント開催時に今までより集客ができており、今後も期待している。
		観光型旅館（経営者）	・国内旅行者の弱含みの傾向は続くと思われるが、インバウンド需要が底堅く、急速な景況感悪化はないとみられる。
		都市型ホテル（経営者）	・先行きが不透明である。
		通信会社（営業担当）	・来客数は増加傾向ではあるが、廉価品を求める傾向が強いとみられる。
		通信会社（支店長）	・直近で身の回りの景気が良くなる材料が見当たらない。
		美容室（経営者）	・最近、景気が悪い状態で停滞している。
		設計事務所（所長）	・建築費は依然として上昇しており、国際情勢に不安を感じる客も多い。
		スーパー（人事）	・物価の上昇に所得が追い付かず、不安材料が多いなかで具体的に景気が上向いていくイメージが持てない。更に企業側は労働力不足もあり、ビジネスモデルを見直す必要があるところも多いようにみられる。
		スーパー（統括担当）	・物価高がいつ落ち着くのか不明である。
		スーパー（財務担当）	・更なる価格上昇で、買上点数が減少するとみられる。
		コンビニ（店長）	・来客数と買上点数が減少するとみられる。
		タクシー運転手	・8月に大きな祭りが開催され、県外客の増加が見込める。しかし、米の価格が上昇し、小遣いがなくなったという客の声も多い。タクシー業界全体で実車率は40～45%であり、先輩の廃業や定年退職によりタクシーの台数が減少することに伴い、タクシー会社の廃業が目立つ。
		美容室（経営者）	・6月に動いている反動で、7月は余り客が動かないとみられる。
		×	一般小売店〔酒〕（経営者）
企業 動向 関連 (四国)		食料品製造業（商品統括）	・中小規模食品工場においても、得意分野への集中が行われており、今春給与アップが確実に行われている。今後の消費へとつながるとみられる。
		繊維工業（経営者）	・海外観光客数は今後も増加が続くとみられ、新商品もそれらの需要を意識したものになりがちである。売上のなかで海外観光客向けの商品のウエイトが大きくなっているが、これからは安定した国内向けの商品開発にも注力していくことも考えている。ここ数年の為替動向から、資材価格が高騰している状況において、一部値上げと新商品への切替えて乗り越えている。
		木材木製品製造業（営業部長）	・ハウスメーカーの受注状況が好転する見込みであり、加えて価格改定の効果が下期から現れて業績も回復するとみられる。
		電気機械器具製造業（経営者）	・現在の景気の状態は、米国の関税政策によるものとみられる。世界情勢が様々に変化しているが結果的には、やや良くなるとみられる。
		通信業（企画・売上管理）	・大きく売上が上がる要素はない。最近夏の猛暑のため外出が減りつつあるというニュースもあるが、ファミリーや若年層を動かすための広告出稿を期待したい。
		税理士事務所	・選挙があることで国の関わり方に変化が出るとみられる。
		パルプ・紙・紙加工品製造業（経理）	・物価高や米の価格高騰などの要因により、消費者の節約意識が働き、買い控えが発生している。売上が伸びていない。原材料も引き続き値上げされているため、価格転嫁をしていかなければならないが、交渉が思うようには進んでいない。
		化学工業（所長）	・価格上昇が継続している以上、買い控えは変わらないとみられる。
		鉄鋼業（総務部長）	・見通しが明確ではない。
		一般機械器具製造業（経理担当）	・米国通商政策による影響や地政学的リスクの高まり等により、先行きの不透明感が増すなか、世界経済の下振れが懸念される。
		電気機械器具製造業（経理）	・米国関税の日米交渉が難航しており、中東やウクライナ情勢等の政情不安が継続するとともに、経済状況も不安定な状況であることから、為替変動や物価上昇が続くとみられる。
		建設業（経営者）	・公共工事の発注待ちだが、民間の発注が鈍い。
		輸送業（経営者）	・選挙の結果により、大きく状況が変わるとみられる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		通信会社（総務担当）	・当月の新規受注だけでなく、受注見込み案件も増えている。
		金融業（副支店長）	・物価高の状況が一巡し、高止まりのまま推移している。
		広告代理店（経営者）	・物価高騰等の影響で販売促進広告は低調であるが、人手不足に伴う求人広告や企業認知度アップ関連広告は継続されており、全体としては変わらないとみられる。
		食料品製造業（経営者）	・資材の原材料価格や労務費等の上昇が見込まれており、企業努力では吸収できないため製品価格に転嫁しなければならないが、値上げをした際、受注量が減少するとみられる。
		建設業（経営者）	・これからの原油価格の動向、資材高騰、景気下振れにより、設備投資が抑制されるとみられる。
	x	-	-
雇用 関連		-	-
(四国)		人材派遣会社（総務部長）	・求職者数が増加すれば人材ビジネス業界も良くなるとみられる。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・下がったままではあるが、現状と同水準で推移するとみられる。
		職業安定所（求人開発）	・最近の求人数の伸びは緩やかであるとともに、求職者数の減少も続いている。今後については、求人数の大幅な増は期待できず、求職者も安易に離職できる状況ではないとみられる。
		民間職業紹介機関（所長）	・求人状況は変化しないとみられる。
		学校〔大学〕（就職担当）	・人手不足は変わらないが、人件費など物価高の影響も受け、大きく求人数が増加することはないとみられる。
		求人情報誌（営業）	・新卒採用に関しては今年度のピークを越えたが、予定人数を確保できなかった企業は巻き返しが厳しく、来年度への持ち越し若しくは中途採用等への切替えを余儀なくされている。そのためすぐの充足は難しいとみられる。
		求人情報誌製作会社（経営者）	・夏休みの学生アルバイトの募集が減少するとみられる。
		x	-

11. 九州（地域別調査機関：公益財団法人九州経済調査協会）

（-：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連 (九州)		*	*
		百貨店（営業担当）	・商品単価の上昇が予定されているが、お中元商戦の本格化やクリアランスセール開始、全店催事、クレジット催事が開催され来客数が見込める。贈答品やし好性の高いブランド品に加え、化粧品やリビング用品の自家需要も見込める。また、観光振興やクルーズ船寄港の増加により入客が増えており、インバウンド需要や土産・工芸品・特産品需要や父の日キャンペーン、全店売出し、お中元ギフトセンター開設で国内、インバウンドの来客数が増加している。決済手段の多様化もあり購買が期待できる。
		スーパー（企画担当）	・米の高値が備蓄米の供給等により落ち着いてくるとみられる。天候の影響にもよるが、米を含む農産物の購買動向は安定してくると予想している。
		コンビニ（経営者）	・暑さは続き、来店頻度が向上すると予想している。
		コンビニ（経営者）	・現状ではマイナス要素もみられず、緩やかな上昇傾向で推移すると予想している。
		コンビニ（経営者）	・商品単価が上がっているものの、消費マインドには余り影響していない。
		コンビニ（エリア担当・店長）	・梅雨が早く明けた影響で夏物が例年より早く前倒しで売れ、売上も上昇していくと予想している。
		家電量販店（従業員）	・暑くなり冷房器具の需要が増えるため、やや良くなる。
		乗用車販売店（従業員）	・9月の決算期に入るため、売上は若干良くなる。
	乗用車販売店（役員）	・今後も改良車種が予定されているため、来客数や注文数は期待できる。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		その他専門店〔コーヒー豆〕（経営者）	・今後の売上の予想では、コーヒー業界は夏場に向けて、お中元ギフトの需要等が増え売上増加が見込まれる。また、新規の客も若干増えている状況であるため、売上が伸びると予想している。
		その他専門店〔書籍〕（副店長）	・入居するビルの1階工事が完了するため、状況が良くなる。
		一般レストラン（スタッフ）	・梅雨による大雨や選挙が控えており、また、不確実な地震予知などで観光客が減少しているが、それらが落ち着けば状況が少し良くなると期待している。
		観光型ホテル（支配人）	・物価高騰等で厳しい状況にあるが、夏休みの動きにより若干好転している。
		観光型ホテル（総務）	・客の動向が8月の夏休みシーズンで動き出すことに期待している。
		旅行代理店（統括者）	・もう少し円高傾向に振れると海外旅行を控えている客も動き出すと予測している。
		タクシー運転手	・猛暑や参議院選挙の影響は考えられるものの、タクシー業界はやや上向きを予測している。
		通信会社（社員）	・前年と比べ新たな商材が出ており、単価の上昇が見込まれる。
		テーマパーク職員	・夏休みや秋の行楽シーズンに邦人の移動が活発になることや今夏も猛暑予想であることから、室内アミューズメントを選択する機会が増える予想している。
		観光名所（職員）	・休日の人の動きが多くなっている。これから夏休みに向けて、更に人の動きが活発になると予測している。
		ゴルフ場（従業員）	・梅雨明けが予想以上に早かったため、熱中症対策は必要であるが天候により来場者は見込める。
		理容室（経営者）	・7月から暑い時期になるため、業種的に客の来店の日にちが縮まり、来客数は少し良くなってくるとみられるが、客の景気の反応は業種によって分かれている。
		その他サービスの動向を把握できる者（所長）	・米国の関税が不安要素であるが、顧客の受注状況は堅調に推移しており期待している。
		商店街（代表者）	・価格が適正化すれば、多少良くなるかもしれないが、物価が上昇する傾向の状態では将来の見通しが厳しく、景気が良くなると判断できない。
		商店街（代表者）	・このまま小売単価や仕入単価が上がっていくと推測され、その上暑さの影響もあり来客数は伸び悩むと予想している。
		商店街（代表者）	・景気の上昇はみられないが、早い梅雨明けで来街者が増加し盛夏物等の動きが活発になっている。また、商店街のプレミアム付商品券の発行により売上増加を期待している。
		商店街（代表者）	・今の経済状況では低迷が続くと予想される。
		商店街（代表者）	・客が増える要因が考えられないため、現状維持かやや悪い状況が続くと予想している。
		商店街（代表者）	・7月は参議院選挙があり、選挙の時期は商店街の売行きが鈍る。小規模事業者にとって、株価の値上がりは全く関係なく、物価高騰により景気が良くなるという意見もあるが、生活が困窮する人が多くなり、消費を控える人が増加すると予想している。現状が変わらないため、景気が良くなる兆しが無い。
		商店街（代表者）	・例年より早く梅雨明けし、その分外出が多くなっているが、厳しい暑さの影響で人出が悪くなるのが懸念される。
		商店街（代表者）	・夏の到来が早く、猛暑、酷暑が続くとみられ来客数は減少すると予想している。
		一般小売店〔精肉〕（店員）	・原料価格、人件費などが高騰しているが、それをどこまで価格転嫁ができるか不透明であるため、変わらないと予想している。
		百貨店（企画担当）	・参議院選挙における各党の現金給付や減税の公約も、消費動向に即効性があるとは考えられず、現在の景気動向が続く。
		百貨店（企画担当）	・クリアランスセールが落ち着いても暑さは続くため、秋冬商材の稼働が厳しいと予想している。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		百貨店（経理担当）	・お中元商戦時期になり、売上は若干回復すると予想している。お中元ギフトを中心に来客数の増加が見込まれるが、依然として物価高の影響もあり、大幅な売上の増加は余り見込めない。
		百貨店（リーダー）	・来月は夏の進物需要があるため、景気が良くなると予想されるが、その時期を過ぎると景気は下り気味になると見込んでいる。
		百貨店（業務担当）	・コロナ禍で発生した習慣から、年々元の状況に戻りつつあるが、その伸び方が鈍化しており、売上が前年を下回るときがある。今後は消費をけん引していくような動きが見られないため、客の財布のひもが急に緩くなることは考えにくい。
		百貨店（経営企画担当）	・相次ぐ値上げによりこれまで売上をけん引してきた高額品の動向も変わってきており、高額品が落ち込んだ際の全体の売上への影響も大きい。現状では、取引先の経営も厳しさを増しており、明るい材料がなかなか見当たらない。
		百貨店（営業企画担当）	・夏のボーナス時期や梅雨明け等で人流が活発になることを期待しているが、今後も景気の不安定や物価高が続く想定から景気の回復は見込めない。
		スーパー（店長）	・備蓄米販売などを行っているが、全体相場の下落にはつながらない状態で今後も景気は変わらない。
		スーパー（店員）	・米価はかなり安定してきたが、前年と比べると依然として高く、米価が下がらない。そのため、その他の食品や生活消耗品の購入に至らないと考えている。
		スーパー（総務担当）	・7～8月のボーナスがやや消費にプラスになると予想されるが、一般中小零細企業ではボーナスが大幅に増加するケースは少ない。消費者の財布のひもは固く、特売商品選別志向も高い。全体的に消費を喚起するような材料は余り見当たらない。
		スーパー（経理担当）	・単価の上昇傾向は変わらない見込みである。
		コンビニ（エリア担当）	・物価高対策が消費マインドにプラスすることに期待しているが、現状は厳しいと予測される。
		衣料品専門店（店長）	・2～3か月先も変化がなく、今の状態が続くと予想している。
		家電量販店（店長）	・客単価がなかなか上がらない。食料品や日用品の値上がりで財布のひもが固くなっている。
		家電量販店（店長）	・効果的な景気対策がなければ現状のままである。
		家電量販店（店員）	・今年のベースアップが過去最高を記録しているが、全員に恩恵があるわけではなく、また、物価上昇率が上回っているため見通しは厳しい。
		乗用車販売店（代表）	・景気が良くなる要因が見当たらない。
		住関連専門店（経営者）	・心配されたイラン・イスラエル紛争の拡大は回避されたが、米国の関税問題は解決されていないため先行きは不透明で、耐久消費財の消費拡大には程遠いとみられる。
		その他小売の動向を把握できる者〔ショッピングセンター〕（支配人）	・野菜、ガソリン、米と次々に価格高騰するものが変わり、また、全般的に物価は下がる気配がみられない。今は映画館の好影響や主要店舗の米の需要に助けられているが、衣料やし好品に対する顧客の財布のひもは固いため、賃金のベースアップや消費者への施策の継続実施が必要な状況は変わらない。
		その他小売の動向を把握できる者〔ショッピングセンター〕（統括者）	・売上の増加傾向や伸び率に大きな変化がないと予測している。
		観光型ホテル（専務）	・景気が上向きになる要素が見当たらない。大阪・関西万博の終了後上向きになることを期待している。
		都市型ホテル（スタッフ）	・例年の実績から客の動きが同傾向にあるため3か月後も同じ状況を見込んでいるが、特需などがあれば状況は変わると予想している。
		旅行代理店（職員）	・特に8月は旅行商品の購入時期に入るため、予約販売の動きは一時的に落ち着く傾向にある。
		旅行代理店（統括者）	・円安基調が変わらない限り、高単価である海外旅行の需要停滞が続くと想定している。
		タクシー運転手	・暑さのため昼の稼働率が伸びず、夕方から夜間にかけて売上が良くなる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		通信会社（営業担当）	・夏に向けて消費活動は増えると予想されるが、インハウンドが減っており、全体的な景気は上がらないと推測している。
		通信会社（役員）	・生活物資の値上げが続き、地場経済に改善の兆しがみられない。
		通信会社（企画担当）	・インターネット光回線の販売件数に、持ち直しのきっかけや動きがない。
		ゴルフ場（従業員）	・今後の景気の先行きは天候によるが、足元の4～5月は順調に推移していた。
		競馬場（職員）	・世界情勢が不安定であるが、直接的に景気動向を左右する要素は見当たらない。
		美容室（経営者）	・2～3か月先の真夏の忙しい時期になると、美容業界も少しずつ変化が大きくなり、新しい商品の流れや季節の大きな変わり目になり動きが出てくる。しかし、春から動きがない状態が続いているため、これからの景気対策に期待している。
		美容室（店長）	・遠方から来訪した親戚の話題を客から聞くことが増えたが、景気が良くなっていないため、2～3か月先も景気は変わらない。
		その他サービスの動向を把握できる者〔介護サービス〕（管理担当）	・猛暑は7～8月と継続する予想により、利用者の体調不良発生は避けられず、また、採用についても人口減少に伴い好転する要素はないため、今後もより厳しくなってくる。
		設計事務所（所長）	・今月の商談がまとまるのは2～3か月先となるため、景気は変わらない。
		住宅販売会社（従業員）	・賃貸住宅の建築に関しては補助金等の支援事業が充実しており、販売も増加傾向にある。戸建て住宅を含めた販売全体の下支えになっており、今後も続くと予想している。
		商店街（代表者）	・現在、再開発のため大半が仮設店舗で営業しており、空調設備や休憩所といったものがなく、客サービスが不十分になっている。今後の再開発に期待しているが、仮設状態のため来客数がかなり減っている。
		一般小売店〔茶〕（販売・事務）	・今後、暑い夏との戦いで来客数が減少し、売上も減少すると予想している。客が安心して買物ができる状況は、国の給付金の支給だけでは改善はされないため、政府の施策を期待している。
		百貨店（企画担当）	・引き続き物価上昇に伴う様々な値上げが発生することを考慮すると、今後の消費が一層慎重になると推察している。また、春の賃上げ効果が出ていないこともあり、より厳しい状況になっていく。
		スーパー（店長）	・可処分所得が上がる状況ではないため、消費意欲は上がらないと予測され、景況感は悪化する可能性が高い。
		コンビニ（経営者）	・今後も物価上昇の影響が続くと考えられ、客単価はアップするが利益は下がり、厳しい経営状況が続くと予測している。
		コンビニ（店長）	・身近な経済だけではなく、世界経済の影響が心配される。
		乗用車販売店（役員）	・米国の関税の影響が国内需給にも現れており、特に夏場は予想がつかない状況である。秋口から改善に向かうことを期待している。
		住関連専門店（従業員）	・不安定な中東情勢から物価高が更に加速すると予想しており、耐久消費財である寝具への支出は後回しになると危惧している。
		スナック（経営者）	・飲食業界では、選挙が始まると売上が下がる傾向にあり、過去の選挙期間も売上が落ちている。選挙と売上の因果関係は不明であるが、7月の参議院選挙を控え、売上減少が予想される。
		観光型ホテル（管理）	・宿泊予約の推移や単価の動きが若干悪くなる。
		タクシー（統括者）	・業界全体が供給回復傾向にある。需要の奪い合いが生じており、会社単体では売上の減少につながっている。
		美容室（経営者）	・9月はイベントがなく、売上は徐々に下がると予想している。
		設計事務所（代表）	・物価上昇や金利上昇により、景気は若干悪くなる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		住宅販売会社（従業員）	・世界情勢を利用した経済投資で収益を上げようとする人が多いが、実際の投資は経済効果を生まない。そのため、政府には金を動かす経済対策に期待している。
		住宅販売会社（代表）	・住宅業界では、住宅購入を考えている人にとっては物価高や金利の上昇傾向により厳しい状況が続く。
	×	一般小売店〔生花〕（経営者）	・切り花ギフトの生花店であるため、夏は花束やフラワーアレンジメント等の誕生日や開店祝い等がなければ購入を控える傾向にある。7～8月はお盆の需要はあるが、ギフト用の売上がなければかなり厳しいため、何とかこの夏を乗り越えたい。
	×	高級レストラン（経営者）	・前月から今までにないほどひどい状況であったが、今のままでは7～8月の閑散期は非常に厳しくなっていく。選挙月は飲食や接待の控えがあり、加えてお盆に向け長期休暇に入り入客が減少するため、景気が悪くなると危惧している。
	×	観光型ホテル（営業）	・関係会社からの情報や今後の先行きを考えると、夏場の旅行需要の冷え込みを避けられないことも予想される。
	×	設計事務所（所長）	・世界を取り巻く情勢の不確かさが大きく、今後の景気は不透明である。材料や製品単価、生活必需品の価格上昇が続く反面、特に地方の個人事業主において仕事の対価は上昇しそうにない。
企業 動向 関連 (九州)		-	-
		化学工業（総務担当）	・損益の前年比は回復傾向にあり、この状況が続くと予想される。
		電気機械器具製造業（取締役）	・日米の株式市場動向が景気に影響するとみられる。
		電気機械器具製造業（総務担当）	・顧客の行動や需要の情報で予測すると、若干景気が良くなる。
		輸送用機械器具製造業（営業担当）	・3か月以内示では、予算設定台数以上の生産計画や関税の影響は現時点ではないと予想され、景気は若干良くなる。
		新聞社〔広告〕（担当者）	・自治体のプロポーザル入札案件が増えてきている。
		農林水産業（経営者）	・夏場のビール消費に向けた商品が伸びてくると予想される。外国の鳥インフルエンザ発生の影響もあるが、国産物中心となっているため価格は下がらず、特にプロイラー市場は好調で期待ができる。鶏肉処理業界は前年の鳥インフルエンザの影響で原料不足となったため原料入荷が少なく、工場稼働に影響が出ており、前年の入荷ペースでいくと約1割減少している。
		家具製造業（従業員）	・インバウンドの需要に関連しない市場では、厳しい状況が続くと予想している。
		出版・印刷・同関連産業（営業担当）	・主力商品のリリース予定がないため、景気は変わらない。
		一般機械器具製造業（経営者）	・顧客側の輸出が問題になっており、米国の関税問題が解決しないことには動きがつかめず予測で動くことができないため、現状のままと予想している。
		輸送業（総務担当）	・少子化と物価高が人手不足と消費抑制傾向へゆっくりと進んでいる。どこかで収束し景気も安定してくると予想するが、今後の先行きは不透明である。
		通信業（職員）	・今年度の受注目標では、営業情報が不足している。今後の営業活動や情報収集で充当できると予測しているが、受注量が目標を超えて大きく好転する要素も現時点では見当たらない。
		通信業（経理担当）	・物価が上昇しているが、顧客のシステム関連投資は依然として意欲的である。
		通信業（統括者）	・物価上昇の影響を踏まえ、顧客の積極的な設備投資はみられず、景気に大きな変化はない。
		金融業（調査担当）	・米国の関税の影響も予想され、先行きが不透明であるため景気の状態は変わらない。
	金融業（調査担当）	・現況の物価上昇が大きく変化しない限り、景気は横ばいが続くと思われる。	
	金融業（営業担当）	・米国の関税の方向性や参議院選挙の結果次第の空気があり、現状変わらない見込みである。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		金融業（営業）	・夏場の消費に期待しているが、天候の要素も大きい。物価高を打ち消すような消費活動の盛り上がりは難しいと予想している。
		広告代理店（役員）	・受注状況に明るい兆しもあるが、良くなるという状況ではない。
		経営コンサルタント（社員）	・外部に働きかける動きが期待できない。
		経営コンサルタント（代表取締役）	・自社Webのアクセス数、問合せ件数に変化がなく、景気は変わらない。
		その他製造業〔産業廃棄物処理業〕	・このところ若干円高傾向に振れており、そのため市中相場が下がり売上は減少すると予測している。
		輸送業（従業員）	・世界情勢等により予測が不透明である。
		金融業（従業員）	・スーパーマーケットやコンビニの売上は増加しているが、住宅や家電の販売は弱含んでいる。また、物価上昇によるコスト高や人手不足のほか、米国防権の関税措置の動向を見極めたいとして慎重な姿勢を示す企業が少なくない。
		不動産業（経営者）	・業種的に急激に経営が良くなる状況ではないため、今後の景気は若干悪くなると予想される。
		広告代理店（従業員）	・当社を取り巻く環境は相変わらず厳しい状態が続いている。世界情勢については紛争が頻発しており、米国の関税の先行きも不透明である。国内情勢では、物価の上昇が賃上げを上回っており景気は良くなっていない。そのため、3か月後の景気はやや悪くなると見込まれる。
		経営コンサルタント（社員）	・少しでも安い商品を探して購入している。
	×	繊維工業（営業担当）	・繊維産業は国内生産の保護がされていないため海外生産に切り替えており、国内生産の比率は1.5%までに落ち込んでいる。
	×	窯業・土石製品製造業（経営者）	・下請や材料関係の値上げで受注関係が懸念される。交渉をしているが、なかなか困難な状況であるため、来月から先行き不透明である。
	×	一般機械器具製造業（経営者）	・客からの引き合い等はまばらで、この先の仕事量に不安を感じている。
	×	電気機械器具製造業（経営者）	・7～8月は、主要取引先からの受注が落ち込むと予想している。
雇用関連 (九州)		-	-
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・物価高の動向にもよるが、時期的に夏休みなどの長期休暇や秋の行楽シーズンに向かっていくため、インバウンドが活発になると考えられ、景気への好影響はあると考えている。
		人材派遣会社（社員）	・求人数の横ばいが続いており、引き続き先行きの不透明感が残る。
		人材派遣会社（社員）	・現在、求人数、求職者など大きな変化の兆しはない。
		人材派遣会社（社員）	・インバウンド需要の回復で観光客も増え、ホテル業界や外食業からの人材の問合せが多くなっているが、求職者数の希望する職種と違い、稼働数増加につながらない。
		人材派遣会社（社員）	・お中元時期の案件は決まり、今後注文が落ち着いてくる時期に入る。今年度、新入社員を多く採用した企業の一部では、派遣に依頼していた業務を社員のみで対応している。
		新聞社〔求人広告〕（社員）	・猛暑対策のサービスや物品の購入、また、夏休みイベントで、個人消費の増加を期待している。
		職業安定所（職員）	・米国防権の関税対策の影響はみられないものの、今後の動向が読めないことから注視していく必要がある。
		職業安定所（職員）	・運輸業や郵便業など一部の業種で求人数の増加が見受けられるが、全体的に減少している。一方、6月から受理を開始した高卒の求人数は前年比では同水準となっており、雇用情勢では引き続き変動がないとみられる。
		民間職業紹介機関（職員）	・前月は、米国の関税の影響等で、景気がやや悪くなると予想していたが、新卒の人材市場では人材不足の方が勝るため、この良い状況が続くと予想している。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		学校〔大学〕（就職支援業務）	・イスラエル・イラン紛争やパレスチナ問題、米国のイラン攻撃などに加え、米国政権の輸入品に対する関税措置を始め様々な問題が国際経済の不確実性を高めている。そのため、日本政府や企業が具体的な対応策を模索している状況にあり、先行きの不透明感が非常に強い。また、台湾の半導体大手企業の工場稼働により九州地域の経済や雇用は堅調であるが、物価高騰は続いており実質賃金が改善する見通しが立っておらず、景気が上向き気配がない。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・今年度から65歳雇用の義務化が始まり、企業では再雇用を選択する人が増えている。給与がかなり下がることになり、年金受給までの生活費の不安を訴える人が多くみられ、景気が良くなることはないと思われる。
		学校〔専門学校〕（就職担当）	・物価上昇が続いており、消費者の節約志向がしばらく続くと思われ、身の回りの経済活動全体がやや鈍化する可能性がある。
	x	-	-

12. 沖縄（地域別調査機関：一般財団法人南西地域産業活性化センター）

（-：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計動向 関連 (沖縄)		一般小売店〔土産〕（営業部長）	・大型レジャー施設開業に伴う7月以降の観光客の増加による土産の売上増加が見込まれる。
		コンビニ（店長）	・夏休みに入り、インバウンドや県外観光客の増加が見込まれる。学校が休みの間は給食もないため、中食需要も増える。周辺施設のイベント等の影響で、集客が期待できる。
		その他専門店〔陶器〕（製造）	・夏が来るため、需要も増加するとみている。
		観光型ホテル（企画担当）	・6月の販売室数が前年比27%減少なのに対し、6月末時点での9月の予約室数は前年比27%増加となり、プラスに転じている。
		百貨店（経営担当）	・夏休み期間の家族連れによる来店増や、旧盆により需要が増加するとみている。
		スーパー（企画担当）	・2～3か月後の景気はやや良くなるとみられる。政府による電気・ガス料金の補助が7月から3か月間実施されること、夏休み期間の観光需要が見込まれること、そして大型レジャー施設の開業を迎えることが主な理由とみている。
		コンビニ（経営者）	・夏場の忙しい時期に入るため、今後の売上が期待できる。
		家電量販店（営業担当）	・前年の省エネ家電買換えキャンペーンの反動による影響が少なくなるとみている。
		乗用車販売店（経理担当）	・商品の供給量が高い水準で維持される見込みである。
		その他専門店〔書籍〕（部長）	・大型レジャー施設開業の影響が大きいとみられる。交通問題はあがるが、県外客には余り影響がないとみている。
		一般レストラン（代表者）	・観光客の増加を期待している。
		観光型ホテル（総支配人）	・例年より早い梅雨明けによるレジャー需要の増加を期待している。更に、大型レジャー施設開業による滞在日数伸長を期待している。
		通信会社（サービス担当）	・端末割引の上限変更など実質的に購入しやすい環境が整いつつあるとみられる。
		その他サービス〔レンタカー〕（営業）	・先行きの受注状況は前年を上回り好調に推移しており、特に個人の動きは早く伸長している。今後もこの傾向は続くと思われる。
			商店街（代表者）
		スーパー（店舗管理）	・全国的な異常気象は、夏野菜の価格高騰につながると思われている。青果部門を集客の目玉として位置づけているため、販売促進や営業利益に大きく影響が出てくるとみている。一方、本来ならば、やや悪くなるとの回答であるが、大型レジャー施設開業による観光客、インバウンド需要の増加を期待して現状維持としている。
		コンビニ（経営企画担当）	・かなり好調に推移しているため、現状が少なくとも8月までは続くと思われている。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		衣料品専門店（経営者）	・例年6月は、売上の悪い時期ではあるが、想定以上に悪い状態である。これからのセールで売上アップを期待している。
		旅行代理店（マネージャー）	・人手不足や旅行素材の高単価が続いており、ある程度余裕のある人しか旅行ができなくなっている。
		住宅販売会社（役員）	・県外需要は伸びている反面、価格の高騰に対し賃上げが追い付いていない状態が続くとみられる。
		住宅販売会社（営業担当）	・顧客の住宅動向、建売物件への問合せを含めて、好調が維持されるとみている。
		通信会社（営業担当）	・現在の販売状況を踏まえても、良くなる材料がない。顧客は出費を抑えている。
	x	その他飲食店〔バー〕（経営者）	・物価が上がり、来客数も減少するなど、良くなる要因が見当たらない。
企業 動向 関連 (沖縄)		-	-
		食料品製造業（役員）	・今後は米価格の落ち着き、お中元に向けて需要の増加や観光シーズンに入るため、比例して食品の需要増加を期待している。
		建設業（経営者）	・物価高もあり、当社も賃上げを進めている。他社も給与アップをしていると聞いているため、全体的に景気は良くなるとみている。物価高に対して給与アップがどれくらい追い付いていけるかを見越しながら、売上の目標値も高く設定している。
		輸送業（総務経理担当）	・運賃交渉の成果が出るとみている。
		広告代理店（営業担当）	・県内中堅以上の企業では、攻めの経営に動き出している状況もあり、徐々にではあるが、販売促進費が増加する傾向にある。
		窯業土石業（取締役）	・売上は前期比増加が見込まれるが、原材料費、運搬費、人件費等コスト上昇分の価格転嫁が追い付かない状況で収益の低下を懸念している。
		会計事務所（所長）	・物価高の影響もあり、7月の参議院選挙、米国関税など国際情勢に影響される度合いが大きくなるとみている。
		-	-
x	-	-	
雇用 関連 (沖縄)		-	-
		学校〔専門学校〕（就職担当）	・夏休みにあわせて、2027年卒向けのインターンシップやオープンカンパニーが多く行われる時期である。学校への案内以外にもナビサイトなどに掲載されている案内から、多くの学生が参加することが見込まれる。
		人材派遣会社（経営者）	・夏場の需要増加は一時的なもので、積極的な業務拡大等は余りみられないため、派遣も現状のまま推移するとみられる。
		求人情報誌製作会社（審査）	・求人数に大きな変化はみられないが、夏休みや観光の繁忙期を見据え、短期雇用ニーズの高まりから、観光地でのアルバイトを中心とした求人数が微増する動きに期待している。現場では、即戦力や短期アルバイト可能な人材確保を目的とした採用活動が徐々に活発化するとみている。
		学校〔大学〕（就職支援担当）	・物価高騰はしばらく続くとみている。
	-	-	
x	-	-	